

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジンカンサイイカダイガク 学校法人 関西医科大学								
フリガナ大学の名称	カンサイイカダイガク 関西医科大学(Kansai Medical University)								
大学本部の位置	大阪府枚方市新町二丁目5番1号								
大学の目的	関西医科大学の知的資源を広く社会に還元し、地域社会に開かれた大学を目指すとともに、医学知識の普及、生涯学習の促進を図ることを目的に、広く学習の機会を提供し、地域社会に対する教育、研究、診療の各分野において教育機関としての社会的使命を果たす。								
新設学部等の目的	本学リハビリテーション学部は、建学の精神である「慈仁心鏡」に則り、「自由・自律・自学」を規範に専門知識と技術を習得するとともに、生命に対する尊厳、高い倫理観及び幅広い教養を兼ね備え、保健・医療・福祉の発展及び社会に貢献する医療人を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	リハビリテーション学部 (Faculty of Rehabilitation) 理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	4年	60人	-	240人	理学療法学 (学士)	令和3年4月 第1年次	大阪府枚方市 宇山東町18-89	
	リハビリテーション学部 (Faculty of Rehabilitation) 作業療法学科 (Department of Occupational Therapy)	4年	40人	-	160人	作業療法学 (学士)		大阪府枚方市 宇山東町18-89	
	計		100	-	400				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	医学研究科修士課程(8) (令和2年3月認可申請予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	リハビリテーション学部	71科目	22科目	7科目	100科目	124単位			
リハビリテーション学部	73科目	21科目	9科目	103科目	127単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	リハビリテーション学部理学療法学科	5人 (4)	4人 (2)	1人 (0)	8人 (3)	18人 (9)	0人 (0)	14人 (14)
		リハビリテーション学部作業療法学科	4 (2)	2 (2)	1 (0)	6 (3)	13 (7)	0 (0)	14 (14)
		計	9 (6)	6 (4)	2 (0)	14 (6)	31 (16)	0 (0)	- (-)
	既設	医学部医学科	80 (80)	60 (60)	178 (178)	494 (494)	812 (812)	- (-)	- (-)
		看護学部看護学科	12 (12)	6 (6)	11 (11)	20 (19)	49 (48)	- (-)	- (-)
		計	92 (92)	66 (66)	189 (189)	514 (513)	861 (860)	- (-)	- (-)
	合計		101 (98)	72 (70)	191 (189)	528 (519)	892 (876)	- (-)	- (-)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		285 (285) 人	150 (150) 人	435 (435) 人				
	技 術 職 員		6 (6)	19 (19)	25 (25)				
	図 書 館 専 門 職 員		8 (8)	2 (2)	10 (10)				
	そ の 他 の 職 員		57 (57)	47 (47)	104 (104)				
	計		356 (356)	218 (218)	574 (574)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	・関西医科大学 附属看護専門学校 収容定員:240名 面積基準:560㎡ ・借用地 (看護学部) 借用面積: 2,014.53㎡ 借用期間:50年			
	校舎敷地	37,400.49㎡	0.00㎡	11,362.77㎡	41,229.72㎡				
	運動場用地	0.00㎡	8,617.00㎡	0.00㎡	8,617.00㎡				
	小 計	37,400.49㎡	8,617.00㎡	11,362.77㎡	49,846.72㎡				
	そ の 他	373.12㎡	0.00㎡	0.00㎡	373.12㎡				
合 計	37,773.61㎡	8,617.00㎡	11,362.77㎡	50,219.84㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		57,153.09㎡ (57,153.09㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	3,633.24㎡ (3,633.24㎡)	60,786.33㎡ (60,786.33㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	20室	74室	59室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		リハビリテーション学部		18 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能のため、 大学全体の数	
		43,681 [4,034] (43,681 [4,034])	11,339 [8,842] (11,339 [8,842])	9,577 [8,158] (9,577 [8,158])	1,542 (1,542)	9,795 (9,795)	47 (47)		
	計	43,681 [4,034] (43,681 [4,034])	11,339 [8,842] (11,339 [8,842])	9,577 [8,158] (9,577 [8,158])	1,542 (1,542)	9,795 (9,795)	47 (47)		
図 書 館		面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体		
		8735.79㎡	336		132,000				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2231,61㎡	テニスコート 2 面		バスケットコート 1 面				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		250千円	250千円	250千円	250千円	-	-
		共 同 研 究 費 等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	-	-
		図 書 購 入 費	10,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	設 備 購 入 費	250,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,760千円	1,460千円	1,460千円	1,460千円	- 千円	- 千円		
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			医療収入、補助金収入、寄付金収入等						

既設大学等の状況	大学の名称	関西医科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	医学部医学科	6	122	-	707	医学士	1.00	昭和27年度	大阪府枚方市新町二丁目5番1号	
	医学研究科(博士課程) 医科学専攻	4	50	-	200	博士(医学)	0.63	昭和36年度	大阪府枚方市新町二丁目5番1号	
	看護学部看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.00	平成30年度	大阪府枚方市新町二丁目2番2号	
	看護学研究科(博士前期課程) 看護学専攻	2	20	-	40	修士(看護学)	0.53	平成30年度	大阪府枚方市新町二丁目2番2号	
	看護学研究科(博士後期課程) 看護学専攻	3	5	-	15	博士(看護学)	1.33	平成30年度	大阪府枚方市新町二丁目2番2号	
附属施設の概要	<p>名称 関西医科大学附属病院 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府枚方市新町2丁目3番1号 設置年月 平成18年1月1日 規模等31,612㎡ 建物延面積71,851㎡ 病床数751床</p> <p>名称 関西医科大学香里病院 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府寝屋川市香里本通町8番45号 設置年月 平成22年7月1日 規模等4,033㎡ 建物延面積15,180㎡ 病床数199床</p> <p>名称 附属生命医学研究所 目的 医学研究 所在地 大阪府枚方市新町2丁目5番1号 設置年月 平成18年8月1日 規模等4,487.75㎡</p>		<p>名称 関西医科大学総合医療センター 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府守口市文園町10番15号 設置年月 昭和7年4月9日 規模等20,795㎡ 建物延面積82,566㎡ 病床数477床</p> <p>名称 関西医科大学くずは病院 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府枚方市楠葉花園町4番1号 設置年月 平成30年1月1日 規模等3,312㎡ 建物延面積8,806㎡ 病床数94床</p>							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(リハビリテーション学部理学療法学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎 教養 科目	基礎ゼミ	1前	1				○		4	4	1	8		兼 13	オムニバス・一部共同	
	物理	1前	1				○							兼 2	オムニバス	
	統計学	1後	1					○						兼 2	共同	
	情報処理技術	1後	1					○						兼 2	共同	
	研究方法論	2前	1				○			1				兼 2	オムニバス	
	生物	1前		1			○							兼 1		
	化学	1前		1			○							兼 1		
	認知科学	1後			1		○							兼 1		
	心理学	1前	1				○							兼 2	共同	
	倫理学	1前	1				○							兼 1		
	健康科学	1後	1				○	※				1		兼 2	オムニバス・一部共同 ※一部演習	
	教育学	1後	1				○	※						兼 1	※一部演習	
	医療経済学	1後		1			○							兼 1		
	哲学	1後		1			○							兼 1		
	社会学	1後		1			○							兼 1		
	基礎英語	1前	1	0			○		0					兼 1		
	コミュニケーション論	1前	1				○							兼 1		
	医学英語	1後	1				○							兼 1		
	グローバルコミュニケーション	2前	1					○						兼 1		
	中国語	1前		1			○							兼 1		
	韓国語	1前		1			○							兼 1		
	フランス語	1前		1			○							兼 1		
	小計（22科目）		—	13	8	1		—		4	5	1	9	0	兼 40	—
	専門 基礎 科目	解剖学Ⅰ	1前	2				○		1					兼 8	オムニバス
		解剖学Ⅱ	1後	2				○				1			兼 1	
		生理学Ⅰ	1前	2				○							兼 8	オムニバス
		生理学Ⅱ	1後	2				○							兼 8	オムニバス
		生理学実習	2前	2					○				2		兼 3	オムニバス・一部共同
運動学Ⅰ		1後	2				○		1							
運動学Ⅱ		2前	2				○		1	1					オムニバス	
運動学実習		2後	1					○	1	1		2		兼 2	オムニバス・一部共同	
人間発達学		1前	2				○							兼 1		
臨床心理学		1後	1				○							兼 1		
病理学		1後	1				○							兼 5	オムニバス	
画像診断解析学		1後	1				○				1			兼 8	オムニバス	
内科学Ⅰ		1後	1				○							兼 14	オムニバス	
内科学Ⅱ		2前	1				○							兼 11	オムニバス	
整形外科Ⅰ		1後	1				○		1		1			兼 3	オムニバス	
整形外科Ⅱ		2前	1				○							兼 12	オムニバス	
臨床神経学Ⅰ		2前	1				○							兼 10	オムニバス	
臨床神経学Ⅱ		2後	1				○							兼 5	オムニバス	
小児科学		2前	1				○		1		1			兼 8	オムニバス	
精神医学		2前	1				○							兼 1		
公衆衛生学		2後	1	0	0		○							兼 5	オムニバス	
老年医学		2後	1				○							兼 1		
臨床薬学	2後	1				○							兼 7	オムニバス		
救急医学	3前	1				○							兼 3	オムニバス		
臨床栄養学	3前	1				○							兼 1			
先端リハビリテーション医学	4後	1				○							兼 3	オムニバス		

保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	1前	1	0	0	○			2					兼 2	オムニバス
	医療専門職総論	1前	1			○			1			1		兼 13	オムニバス・一部共同
	リハビリテーション医学	2後	1			○								兼 4	オムニバス
	国際保健	3前	1			○					1			兼 1	オムニバス
	医療福祉連携論	3前	1			○			1		1			兼 1	オムニバス
	がんリハビリテーション学	3前	1			○						1		兼 2	オムニバス
	チーム医療演習	4前	1				○		1			1		兼 2	共同・集中
	国際リハビリテーション学	4後	1			○				1	1			兼 1	オムニバス
小計 (34科目)		-	42	0	0	-			11	3	7	7	0	兼 155	-
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			○			1						
	理学療法研究論	3前	1			○				2					オムニバス
	先端研究演習Ⅰ	3後	1				○		4	4	1	8			共同
	先端研究演習Ⅱ	4前	1				○		4	4	1	8			共同
	理学療法総合演習	4後	2				○		4	4	1	8			共同
	卒業研究	4後	1				○		4	4	1	8			共同
	作業療法概論	1前			1	○								兼 8	オムニバス・一部共同
	スポーツと作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習
	緩和ケアにおけるリハビリテーション	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習
	小計 (9科目)	-	7	0	3	-			17	18	4	32	0	兼 10	-
学療法管理	理学療法管理学	3後	2			○			1						集中
	小計 (1科目)	-	2	0	0	-			1	0	0	0	0	兼 0	-
理学療法評価学	理学療法評価学	2前	2			○			1	1					オムニバス
	理学療法評価学演習Ⅰ	2後	2				○		1	1		4			共同
	理学療法評価学演習Ⅱ	3前	1				○		1	1		1			共同
	画像評価学演習	3前	1				○		1		1			兼 2	オムニバス・一部共同
	身体機能解析学演習	3前	1				○			2		3			オムニバス・一部共同
小計 (5科目)	-	7	0	0	-			4	5	1	8	0	兼 2	-	
理学療法治療学	運動療法学	2前	2			○				1					
	物理療法学	2前	1			○			1						
	物理療法学演習	2後	1				○		1	1		1			共同
	日常生活活動学	2前	2			○			1					兼 2	オムニバス
	日常生活活動学演習	2後	1				○		1			2			共同
	運動器理学療法学	2後	2			○				1					
	運動器理学療法学演習	3前	1				○			1		2			共同
	神経理学療法学	2後	3			○				1		2		兼 1	オムニバス
	神経理学療法学演習	3前	1				○			1		2			共同
	呼吸循環代謝理学療法学	2後	2			○				1					
	呼吸循環代謝理学療法学演習	3前	1				○		1	1					共同
	義肢装具学	2後	1			○			1	1				兼 1	オムニバス
	義肢装具学演習	3前	1				○		2	1					共同
	小児理学療法学	2後	2			○			1						
	リハビリテーション工学	2後	1			○				1				兼 2	オムニバス
	リハビリテーション工学演習	3前	1				○			1					
	スポーツリハビリテーション学	3前	1			○					1	1		兼 1	オムニバス・一部共同
理学療法特論	4後	1			○			2	1					オムニバス	
アシスティブテクノロジー学	3前			1	○								兼 4	オムニバス	
認知症に対する作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習	
神経発達症と作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習	
小計 (21科目)	-	25	0	3	-			11	13	1	10	0	兼 11	-	
地域理学療法	地域理学療法学	3前	1			○			1						
	高齢者理学療法学	3前	2			○			1	1					オムニバス
	地域理学療法学演習	4前	1				○		2		1				オムニバス・一部共同・集中
	小計 (3科目)	-	4	0	0	-			4	1	0	1	0	兼 0	-
臨床実習	臨床見学実習	1前・後	1				○			1		8			共同
	臨床評価実習	3後	4				○		4	4	1	8			共同
	臨床地域リハビリテーション実習	3後	1				○		2		1	8			共同
	総合臨床実習Ⅰ	3後	7				○		4	4	1	8			共同
	総合臨床実習Ⅱ	4前	8				○		4	4	1	8			共同
小計 (5科目)	-	21	0	0	-			14	13	4	40	0	兼 0	-	

合計（102科目）	-	121	8	7	-	66	58	18	107	0	兼 218	-
学位又は称号	学士（理学療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）						
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
基礎教養科目から16単位以上、専門基礎科目から42単位、専門科目から66単位、合計124単位以上。 （履修科目の登録の上限：45単位（年間）） なお基礎教養科目の選択科目のうち生物、化学から1単位、医療経済学、哲学、社会学から1単位、中国語、韓国語、フランス語より1単位を選択必修科目とする。						1学年の学期区分			2期			
						1学期の授業期間			15週			
						1時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教養科目	基礎ゼミ	1前	1				○		4	4	1	8		兼 13	オムニバス・一部共同
	物理	1前	1				○							兼 2	オムニバス
	統計学	1後	1					○						兼 2	共同
	情報処理技術	1後	1					○						兼 2	共同
	研究方法論	2前	1				○			1				兼 2	オムニバス
	生物	1前		1			○							兼 1	
	化学	1前		1			○							兼 1	
	認知科学	1後			1		○							兼 1	
	心理学	1前	1				○							兼 2	共同
	倫理学	1前	1				○							兼 1	
	健康科学	1後	1				○	※				1		兼 2	オムニバス・一部共同 ※一部演習
	教育学	1後	1				○	※						兼 1	※一部演習
	医療経済学	1後		1			○							兼 1	
	哲学	1後		1			○							兼 1	
	社会学	1後		1			○							兼 1	
	基礎英語	1前	1	0			○		0					兼 1	
	コミュニケーション論	1前	1				○							兼 1	
	医学英語	1後	1				○							兼 1	
	グローバルコミュニケーション	2前	1					○						兼 1	
	中国語	1前		1			○							兼 1	
	韓国語	1前		1			○							兼 1	
	フランス語	1前		1			○							兼 1	
小計 (22科目)		—	13	8	1		—		4	5	1	9	0	兼 40	—
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1前	2				○		1					兼 8	オムニバス
	解剖学Ⅱ	1後	2				○				1			兼 1	
	生理学Ⅰ	1前	2				○							兼 8	オムニバス
	生理学Ⅱ	1後	2				○							兼 8	オムニバス
	生理学実習	2前	2					○				2		兼 3	オムニバス・一部共同
	運動学Ⅰ	1後	2				○		1						
	運動学Ⅱ	2前	2				○		1	1					オムニバス
	運動学実習	2後	1					○	1	1		2		兼 2	オムニバス・一部共同
	人間発達学	1前	2				○							兼 1	
	臨床心理学	1後	1				○							兼 1	
	病理学	1後	1				○							兼 5	オムニバス
	画像診断解析学	1後	1				○				1			兼 8	オムニバス
	内科学Ⅰ	1後	1				○							兼 14	オムニバス
	内科学Ⅱ	2前	1				○							兼 11	オムニバス
	整形外科Ⅰ	1後	1				○		1		1			兼 3	オムニバス
	整形外科Ⅱ	2前	1				○							兼 12	オムニバス
	臨床神経学Ⅰ	2前	1				○							兼 10	オムニバス
	臨床神経学Ⅱ	2後	1				○							兼 5	オムニバス
	小児科学	2前	1				○		1		1			兼 8	オムニバス
	精神医学	2前	1				○							兼 1	
	公衆衛生学	2後	1	0	0		○							兼 5	オムニバス
	老年医学	2後	1				○							兼 1	
臨床薬学	2後	1				○							兼 7	オムニバス	
救急医学	3前	1				○							兼 3	オムニバス	
臨床栄養学	3前	1				○							兼 1		
先端リハビリテーション医学	4後	1				○							兼 3	オムニバス	

保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	1前	1	0	0	○			2					兼 2	オムニバス
	医療専門職総論	1前	1			○			1			1		兼 13	オムニバス・一部共同
	リハビリテーション医学	2後	1			○								兼 4	オムニバス
	国際保健	3前	1			○					1			兼 1	オムニバス
	医療福祉連携論	3前	1			○			1		1			兼 1	オムニバス
	がんリハビリテーション学	3前	1			○						1		兼 2	オムニバス
	チーム医療演習	4前	1				○		1			1		兼 2	共同・集中
	国際リハビリテーション学	4後	1			○				1	1			兼 1	オムニバス
小計 (34科目)		-	42	0	0	-			11	3	7	7	0	兼 155	-
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			○			1						
	理学療法研究論	3前	1			○				2					オムニバス
	先端研究演習Ⅰ	3後	1				○		4	4	1	8			共同
	先端研究演習Ⅱ	4前	1				○		4	4	1	8			共同
	理学療法総合演習	4後	2				○		4	4	1	8			共同
	卒業研究	4後	1				○		4	4	1	8			共同
	作業療法概論	1前			1	○								兼 8	オムニバス・一部共同
	スポーツと作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習
	緩和ケアにおけるリハビリテーション	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習
	小計 (9科目)	-	7	0	3	-			17	18	4	32	0	兼 10	-
学療法管理	理学療法管理学	3後	2			○			1						集中
	小計 (1科目)	-	2	0	0	-			1	0	0	0	0	兼 0	-
理学療法評価学	理学療法評価学	2前	2			○			1	1					オムニバス
	理学療法評価学演習Ⅰ	2後	2				○		1	1		4			共同
	理学療法評価学演習Ⅱ	3前	1				○		1	1		1			共同
	画像評価学演習	3前	1				○		1		1			兼 2	オムニバス・一部共同
	身体機能解析学演習	3前	1				○			2		3			オムニバス・一部共同
小計 (5科目)	-	7	0	0	-			4	5	1	8	0	兼 2	-	
理学療法治療学	運動療法学	2前	2			○				1					
	物理療法学	2前	1			○			1						
	物理療法学演習	2後	1				○		1	1		1			共同
	日常生活活動学	2前	2			○			1					兼 2	オムニバス
	日常生活活動学演習	2後	1				○		1			2			共同
	運動器理学療法学	2後	2			○				1					
	運動器理学療法学演習	3前	1				○			1		2			共同
	神経理学療法学	2後	3			○				1		2		兼 1	オムニバス
	神経理学療法学演習	3前	1				○			1		2			共同
	呼吸循環代謝理学療法学	2後	2			○				1					
	呼吸循環代謝理学療法学演習	3前	1				○		1	1					共同
	義肢装具学	2後	1			○			1	1				兼 1	オムニバス
	義肢装具学演習	3前	1				○		2	1					共同
	小児理学療法学	2後	2			○			1						
	リハビリテーション工学	2後	1			○				1				兼 2	オムニバス
	リハビリテーション工学演習	3前	1				○			1					
	スポーツリハビリテーション学	3前	1			○					1	1		兼 1	オムニバス・一部共同
理学療法特論	4後	1			○			2	1					オムニバス	
アシスティブテクノロジー学	3前			1	○								兼 4	オムニバス	
認知症に対する作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習	
神経発達症と作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習	
小計 (21科目)	-	25	0	3	-			11	13	1	10	0	兼 11	-	
地域理学療法	地域理学療法学	3前	1			○			1						
	高齢者理学療法学	3前	2			○			1	1					オムニバス
	地域理学療法学演習	4前	1				○		2		1				オムニバス・一部共同・集中
	小計 (3科目)	-	4	0	0	-			4	1	0	1	0	兼 0	-
臨床実習	臨床見学実習	1前・後	1				○			1		8			共同
	臨床評価実習	3後	4				○		4	4	1	8			共同
	臨床地域リハビリテーション実習	3後	1				○		2		1	8			共同
	総合臨床実習Ⅰ	3後	7				○		4	4	1	8			共同
	総合臨床実習Ⅱ	4前	8				○		4	4	1	8			共同
小計 (5科目)	-	21	0	0	-			14	13	4	40	0	兼 0	-	

合計（102科目）	-	121	8	7	-	66	58	18	107	0	兼 218	-
学位又は称号	学士（理学療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）						
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
基礎教養科目から16単位以上、専門基礎科目から42単位、専門科目から66単位、合計124単位以上。 （履修科目の登録の上限：45単位（年間）） なお基礎教養科目の選択科目のうち生物、化学から1単位、医療経済学、哲学、社会学から1単位、中国語、韓国語、フランス語より1単位を選択必修科目とする。						1学年の学期区分			2期			
						1学期の授業期間			15週			
						1時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（リハビリテーション学部理学療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	医療専門職総論	1前	1				○		1			1		兼 13	オムニバス・一部共同
	チーム医療演習	4前	1				○		1			1		兼 2	共同・集中
	小計（2科目）	—	2	0	0		—		2	0	0	2	0	兼 15	—
合計（2科目）		—	1	0	0		—		2	0	0	2	0	兼 15	—
学位又は称号		学士（理学療法学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
基礎教養科目から16単位以上、専門基礎科目から42単位、専門科目から66単位、合計124単位以上。 （履修科目の登録の上限：一単位（年間）） なお専門基礎科目の選択科目のうち物理、化学から1単位、医療経済学、哲学、社会学から1単位、中国語、韓国語、フランス語より1単位を選択必修科目とする。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(リハビリテーション学部作業療法学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 教養科目	科学的 思考の 基礎	基礎ゼミ	1前	1			○		4	2	1	6		兼 17	オムニバス・一部共同
		統計学	1後	1			○							兼 2	共同
		情報処理技術	1後	1			○							兼 2	共同
		研究方法論	2前	1			○			1				兼 2	オムニバス
		生物	1前	1			○							兼 1	
		認知科学	1後	1			○			1					
		物理	1前		1		○							兼 2	オムニバス
		化学	1前		1		○							兼 1	
	人間と 生活	心理学	1前	1			○							兼 2	共同
		倫理学	1前	1			○							兼 1	
		健康科学	1後	1			○	※						兼 3	オムニバス・一部共同 ※一部演習
		教育学	1後	1			○	※						兼 1	※一部演習
		医療経済学	1後		1		○							兼 1	
		哲学	1後		1		○							兼 1	
		社会学	1後		1		○							兼 1	
	社会の 理解	基礎英語	1前	1	0	0	○		0					兼 1	
		コミュニケーション論	1前	1			○							兼 1	
		医学英語	1後	1			○							兼 1	
		グローバルコミュニケーション	2前	1				○						兼 1	
		中国語	1前		1		○							兼 1	
		韓国語	1前		1		○							兼 1	
		フランス語	1前		1		○							兼 1	
小計（22科目）		—	14	8	0	—			5	3	1	6	0	兼 44	—
専門 基礎科目	人体の 構造と 機能及 び心身 の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			○							兼 8	オムニバス
		解剖学Ⅱ	1後	2			○							兼 1	
		生理学Ⅰ	1前	2			○							兼 8	オムニバス
		生理学Ⅱ	1後	2			○							兼 8	オムニバス
		生理学実習	2前	2					○	1				兼 5	オムニバス・一部共同
		運動学Ⅰ	1後	2			○							兼 1	
		運動学Ⅱ	2前	2			○							兼 1	オムニバス
		運動学実習	2後	1					○		1	1		兼 4	オムニバス・一部共同
		人間発達学	1前	2			○			1					
	臨床心理学	1後	1			○			1						
	疾病と 障害の 成り立 ち及び 回復過 程の促 進	病理学	1後	1			○							兼 5	オムニバス
		画像診断解析学	1後	1			○							兼 9	オムニバス
		内科学Ⅰ	1後	1			○							兼 14	オムニバス
		内科学Ⅱ	2前	1			○							兼 11	オムニバス
		整形外科Ⅰ	1後	1			○							兼 3	オムニバス
		整形外科Ⅱ	2前	1			○							兼 13	オムニバス
		臨床神経学Ⅰ	2前	1			○							兼 10	オムニバス
		臨床神経学Ⅱ	2後	1			○			1				兼 4	オムニバス
		小児科学	2前	1			○			1	1			兼 7	オムニバス
		精神医学	2前	1			○			1					
		公衆衛生学	2後	1	0	0	○							兼 5	オムニバス
		老年医学	2後	1			○			1					
臨床薬学		2後	1			○			1				兼 6	オムニバス	
救急医学	3前	1			○							兼 3	オムニバス		
臨床栄養学	3前	1			○							兼 1			
先端リハビリテーション医学	4後	1			○							兼 3	オムニバス		

保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1	0	0	○			1					兼 2	オムニバス
	医療専門職総論	1前	1				○			1		2		兼 16	オムニバス・一部共同
	リハビリテーション医学	2後	1			○								兼 4	オムニバス
	国際保健	3前	1			○			1					兼 2	オムニバス
	医療福祉連携論	3前	1			○					1			兼 2	オムニバス
	がんリハビリテーション学	3前	1			○			1	1				兼 1	オムニバス
	チーム医療演習	4前	1				○		1	1	1			兼 2	共同・集中
	国際リハビリテーション学	4後	1			○			1					兼 2	オムニバス
小計 (34科目)			—	42	0	0			13	4	1	5	0	兼 161	—
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			○			2	2	1	2		兼 1	オムニバス・一部共同
	基礎作業学	1後	1			○				1					
	基礎作業学実習Ⅰ	2前	2					○		1		2			共同
	基礎作業学実習Ⅱ	2後	2					○		1		2			共同
	作業療法研究論	3前	1			○			1						
	作業療法研究演習Ⅰ	3後	1				○		4	2	1	6			共同
	作業療法研究演習Ⅱ	4前	1				○		4	2	1	6			共同
	作業療法総合演習	4後	1				○		3	2	1	6			共同
	卒業研究	4後	1				○		4	2	1	6			共同
	理学療法概論	1前			1	○								兼 1	
	緩和ケアにおけるリハビリテーション	4後			1	○	※		1						※一部演習
	スポーツと作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習
	小計 (12科目)			11	0	3				19	13	5	30	0	兼 3
作業療法管理運営学	作業療法管理運営学Ⅰ	3後	1			○			1			1			オムニバス
	作業療法管理運営学Ⅱ	4前	1			○			1		1				オムニバス・一部共同・集中
	小計 (2科目)			2	0	0				2	0	1	1	0	兼 0
作業療法評価学	作業療法評価学概論	1後	1			○			1	1				兼 1	オムニバス
	身体障害系作業療法評価学・演習	2前	2			※	○		1		1	2			オムニバス・一部共同 ※一部講義
	精神障害作業療法評価学・演習	2前	2			※	○		1	1		1			オムニバス・一部共同 ※一部講義
	発達障害作業療法評価学・演習	2前	2			※	○		1	1					オムニバス・一部共同 ※一部講義
	高次脳機能障害作業療法評価学・演習	2後	1			※	○		1			2			共同 ※一部講義
	画像評価学演習	3前	1			※	○		1			1		兼 3	オムニバス・一部共同 ※一部講義
	小計 (6科目)			9	0	0				6	3	1	6	0	兼 4
作業療法治療学	日常生活活動学	2前	2			○				1	1			兼 1	オムニバス
	日常生活活動学演習	2後	1				○			1		3			オムニバス・一部共同
	身体障害系作業療法治療学	3前	2			○			1		1				オムニバス・一部共同
	身体障害系作業療法演習	3後	1				○		1			2			オムニバス・一部共同
	精神障害作業療法治療学	3前	2			○			1	1		1			オムニバス・一部共同
	精神障害作業療法演習	3後	1				○		1	1		1			オムニバス・一部共同
	発達障害作業療法治療学	3前	2			○			1						
	発達障害作業療法演習	3後	1				○		1	1					共同
	高次脳機能障害作業療法演習	3前	1				○		1			1			共同
	高齢期・内部障害作業療法学	3前	2			○			1			1			オムニバス
	運動器疾患作業療法演習	3前	1			※	○		1		1	1			オムニバス・一部共同 ※一部講義
	義肢装具学	2後	1			○						1		兼 2	オムニバス
	リハビリテーション工学	2後	1			○					1			兼 2	オムニバス
	アシスティブテクノロジー学	3前	1			○			1	1		2			オムニバス
	スポーツリハビリテーション学	3前			1	○								兼 3	オムニバス・一部共同
	認知症に対する作業療法	4後			1	○	※		1						※一部演習
	神経発達症と作業療法	4後			1	○	※		1						※一部演習
	理学療法特論	4後			1	○								兼 3	オムニバス
小計 (18科目)			—	19	0	4			12	6	4	13	0	兼 11	—
地域作業療法学	住環境学	2後	1			○	※			1		1			オムニバス・一部共同 ※一部演習
	地域作業療法学	3前	2			○	※			2		2			オムニバス・一部共同 ※一部演習
	就学・就労支援論	3後		1		○				2		2			オムニバス
	在宅支援論	3後		1		○	※		1			1			オムニバス・一部共同 ※一部演習
	小計 (4科目)			—	3	2	0			1	5	0	6	0	兼 0

専門科目

臨床実習	臨床見学実習	1前・後	1					○	4	2	1	6			共同
	臨床評価実習	2後	3					○	4	2	1	6			共同
	臨床地域リハビリテーション実習	3後	1					○	4	2	1	6			共同
	総合臨床実習Ⅰ	3後	9					○	4	2	1	6			共同
	総合臨床実習Ⅱ	4前	9					○	4	2	1	6			共同
	小計 (5科目)	—	23	0	0			—	20	10	5	30	0	兼 0	—
合計 (103科目)		—	123	10	7		—	78	44	18	97	0	兼 223	—	
学位又は称号		学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
基礎教養科目から17単位以上、専門基礎科目から42単位、専門科目から68単位、合計127単位以上。 (履修科目の登録の上限：45単位 (年間)) なお基礎教養科目の選択科目のうち物理、化学から1単位、医療経済学、哲学、社会学から1単位、中国語、韓国語、フランス語より1単位を選択必修科目とする。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教養科目	科学的思考の基礎	基礎ゼミ	1前	1			○		4	2	1	6		兼 17	オムニバス・一部共同
		統計学	1後	1			○							兼 2	共同
		情報処理技術	1後	1			○							兼 2	共同
		研究方法論	2前	1			○			1				兼 2	オムニバス
		生物	1前	1			○							兼 1	
		認知科学	1後	1			○			1					
		物理	1前		1		○							兼 2	オムニバス
		化学	1前		1		○							兼 1	
	人間と生活	心理学	1前	1			○							兼 2	共同
		倫理学	1前	1			○							兼 1	
		健康科学	1後	1			○	※						兼 3	オムニバス・一部共同 ※一部演習
		教育学	1後	1			○	※						兼 1	※一部演習
		医療経済学	1後		1		○							兼 1	
		哲学	1後		1		○							兼 1	
	社会の理解	社会学	1後		1		○							兼 1	
		基礎英語	1前	1	0	0	○		0					兼 1	
		コミュニケーション論	1前	1			○							兼 1	
		医学英語	1後	1			○							兼 1	
		グローバルコミュニケーション	2前	1			○							兼 1	
		中国語	1前		1		○							兼 1	
	韓国語	1前		1		○							兼 1		
	フランス語	1前		1		○							兼 1		
小計 (22科目)		—	14	8	0	—			5	3	1	6	0	兼 44	—
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			○							兼 8	オムニバス
		解剖学Ⅱ	1後	2			○							兼 1	
		生理学Ⅰ	1前	2			○							兼 8	オムニバス
		生理学Ⅱ	1後	2			○							兼 8	オムニバス
		生理学実習	2前	2					○	1				兼 5	オムニバス・一部共同
		運動学Ⅰ	1後	2			○							兼 1	
		運動学Ⅱ	2前	2			○							兼 1	オムニバス
		運動学実習	2後	1					○		1	1		兼 4	オムニバス・一部共同
	人間発達学	1前	2			○			1						
	臨床心理学	1後	1			○			1						
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1			○							兼 5	オムニバス
		画像診断解析学	1後	1			○							兼 9	オムニバス
		内科学Ⅰ	1後	1			○							兼 14	オムニバス
		内科学Ⅱ	2前	1			○							兼 11	オムニバス
		整形外科Ⅰ	1後	1			○							兼 3	オムニバス
		整形外科Ⅱ	2前	1			○							兼 13	オムニバス
		臨床神経学Ⅰ	2前	1			○							兼 10	オムニバス
		臨床神経学Ⅱ	2後	1			○			1				兼 4	オムニバス
		小児科学	2前	1			○			1	1			兼 7	オムニバス
		精神医学	2前	1			○			1					
公衆衛生学		2後	1	0	0	○							兼 5	オムニバス	
老年医学		2後	1			○			1						
臨床薬学	2後	1			○			1				兼 6	オムニバス		
救急医学	3前	1			○							兼 3	オムニバス		
臨床栄養学	3前	1			○							兼 1			
先端リハビリテーション医学	4後	1			○							兼 3	オムニバス		

保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1	0	0	○			1					兼 2	オムニバス
	医療専門職総論	1前	1				○			1		2		兼 16	オムニバス・一部共同
	リハビリテーション医学	2後	1			○								兼 4	オムニバス
	国際保健	3前	1			○			1					兼 2	オムニバス
	医療福祉連携論	3前	1			○					1			兼 2	オムニバス
	がんリハビリテーション学	3前	1			○			1	1				兼 1	オムニバス
	チーム医療演習	4前	1				○		1	1		1		兼 2	共同・集中
	国際リハビリテーション学	4後	1			○			1					兼 2	オムニバス
小計 (34科目)			—	42	0	0			13	4	1	5	0	兼 161	—
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			○			2	2	1	2		兼 1	オムニバス・一部共同
	基礎作業学	1後	1			○				1					
	基礎作業学実習Ⅰ	2前	2					○		1		2			共同
	基礎作業学実習Ⅱ	2後	2					○		1		2			共同
	作業療法研究論	3前	1			○			1						
	作業療法研究演習Ⅰ	3後	1				○		4	2	1	6			共同
	作業療法研究演習Ⅱ	4前	1				○		4	2	1	6			共同
	作業療法総合演習	4後	1				○		3	2	1	6			共同
	卒業研究	4後	1				○		4	2	1	6			共同
	理学療法概論	1前			1	○								兼 1	
	緩和ケアにおけるリハビリテーション	4後			1	○	※		1						※一部演習
	スポーツと作業療法	4後			1	○	※							兼 1	※一部演習
	小計 (12科目)				11	0	3			19	13	5	30	0	兼 3
作業療法管理運営学	作業療法管理運営学Ⅰ	3後	1			○			1			1			オムニバス
	作業療法管理運営学Ⅱ	4前	1			○			1		1				オムニバス・一部共同・集中
	小計 (2科目)				2	0	0			2	0	1	1	0	兼 0
作業療法評価学	作業療法評価学概論	1後	1			○			1	1				兼 1	オムニバス
	身体障害系作業療法評価学・演習	2前	2			※	○		1		1	2			オムニバス・一部共同 ※一部講義
	精神障害作業療法評価学・演習	2前	2			※	○		1	1		1			オムニバス・一部共同 ※一部講義
	発達障害作業療法評価学・演習	2前	2			※	○		1	1					オムニバス・一部共同 ※一部講義
	高次脳機能障害作業療法評価学・演習	2後	1			※	○		1			2			共同 ※一部講義
	画像評価学演習	3前	1			※	○		1			1		兼 3	オムニバス・一部共同 ※一部講義
	小計 (6科目)				9	0	0			6	3	1	6	0	兼 4
作業療法治療学	日常生活活動学	2前	2			○				1	1			兼 1	オムニバス
	日常生活活動学演習	2後	1				○			1		3			オムニバス・一部共同
	身体障害系作業療法治療学	3前	2			○			1		1				オムニバス・一部共同
	身体障害系作業療法演習	3後	1				○		1			2			オムニバス・一部共同
	精神障害作業療法治療学	3前	2			○			1	1		1			オムニバス・一部共同
	精神障害作業療法演習	3後	1				○		1	1		1			オムニバス・一部共同
	発達障害作業療法治療学	3前	2			○			1						
	発達障害作業療法演習	3後	1				○		1	1					共同
	高次脳機能障害作業療法演習	3前	1				○		1			1			共同
	高齢期・内部障害作業療法学	3前	2			○			1			1			オムニバス
	運動器疾患作業療法演習	3前	1			※	○		1		1	1			オムニバス・一部共同 ※一部講義
	義肢装具学	2後	1			○						1		兼 2	オムニバス
	リハビリテーション工学	2後	1			○					1			兼 2	オムニバス
	アシスティブテクノロジー学	3前	1			○			1	1		2			オムニバス
	スポーツリハビリテーション学	3前			1	○								兼 3	オムニバス・一部共同
	認知症に対する作業療法	4後			1	○	※		1						※一部演習
	神経発達症と作業療法	4後			1	○	※		1						※一部演習
	理学療法特論	4後			1	○								兼 3	オムニバス
小計 (18科目)				19	0	4			12	6	4	13	0	兼 11	—
地域作業療法学	住環境学	2後	1			○	※			1		1			オムニバス・一部共同 ※一部演習
	地域作業療法学	3前	2			○	※			2		2			オムニバス・一部共同 ※一部演習
	就学・就労支援論	3後		1		○				2		2			オムニバス
	在宅支援論	3後		1		○	※		1			1			オムニバス・一部共同 ※一部演習
	小計 (4科目)				3	2	0			1	5	0	6	0	兼 0

専門科目

臨床実習	臨床見学実習	1前・後	1					○	4	2	1	6			共同
	臨床評価実習	2後	3					○	4	2	1	6			共同
	臨床地域リハビリテーション実習	3後	1					○	4	2	1	6			共同
	総合臨床実習Ⅰ	3後	9					○	4	2	1	6			共同
	総合臨床実習Ⅱ	4前	9					○	4	2	1	6			共同
小計 (5科目)		—	23	0	0			—	20	10	5	30	0	兼 0	—
合計 (103科目)		—	123	10	7			—	78	44	18	97	0	兼 223	—
学位又は称号		学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
基礎教養科目から17単位以上、専門基礎科目から42単位、専門科目から68単位、合計127単位以上。 (履修科目の登録の上限：一単位 (年間)) なお専門基礎科目の選択科目のうち物理、化学から1単位、医療経済学、哲学、社会学から1単位、中国語、韓国語、フランス語より1単位を選択必修科目とする。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（リハビリテーション学部作業療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目 保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	医療専門職総論	1前	1				○			1		2		兼 17	オムニバス・一部共同
	チーム医療演習	4前	1				○			1		1		兼 2	共同・集中
	小計（2科目）	—	2	0	0		—		0	2	0	3	0	兼 19	—
合計（2科目）		—	2	0	0		—		0	2	0	3	0	兼 19	—
学位又は称号		学士（作業療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部 理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的思考の基盤	基礎ゼミ	<p>(概要) 本科目では、大学教育課程で学ぶ上で必要な知識・技術を習得していくために求められる基礎的能力を養う。特に、人の健康に対して理学療法士・作業療法士が果たす役割について自ら思考・探求する力を身に付けることにより、健康全般に関する応用的思考能力を身に付け、自身の考えをまとめレポートやプレゼンテーションを通して的確に伝えるための手段を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3佐藤春彦/2回) ・学部全体オリエンテーション、課題を含めた講義の概要の説明、臨床実習における心がまえに関して説明する。 ・レポートの記載方法について、レポートの構成や先行研究などの文献活用について講義を行う。</p> <p>(4中野治郎・24松島佳苗/1回) (共同) ・学科オリエンテーション(前半は学科ごと)とIPEの説明(学部全体)を行う。IPEグループにおけるメンバー間での自己紹介を実施する。</p> <p>(3佐藤春彦・13森公彦・28橋本晋吾・30山下円香/4回) (共同) ・医療現場における理学療法士・作業療法士の役割について臨床見学実習での体験に基づきIPEのグループ内にてディスカッションを行う。また、グループディスカッションの内容を全体に発表するための準備を行う。発表準備に必要なスライド作成や発表方法に関する指導はグループごとに行う。</p> <p>(理学療法学科・作業療法学科教員全員/6回) (共同) ・医療現場における理学療法士・作業療法士の役割についてグループで話し合った内容をまとめて発表を行う。 ・大学での学習姿勢に関して小グループでディスカッションを行い、自身の学習態度について考える機会を設定する。 ・レポートの記載方法に関する演習を小グループで行う。レポートの作成を行う上で、文献検索を行い必要な情報を収集したり、内容を深めるためのディスカッションを行う。</p> <p>(24松島佳苗/1回) ・ポートフォリオの概要についての説明をし、ポートフォリオ作成演習に必要な内容について講義を行う。</p> <p>(13森公彦・24松島佳苗・28橋本晋吾/1回) (共同) ・ポートフォリオの作成演習を行い、自身のポートフォリオを作成する。</p>	オムニバス・一部共同
	物理	<p>(概要) 物理とは自然現象の根本原理を理解する学問であり、リハビリテーションの現場において遭遇する多くの現象や用いる機器・手法などにも物理の知識でよく理解できるものが非常に多い。物理を知ることによって、経験的に行われる作業を理屈で理解できたり、直接目にした現象の背後にあるメカニズムを考えたり、ある状況で起こるはずのことを事前に予測できたりする。この講義では、物理のこうした実践的な面に的を絞り、基礎から学修する。高等学校で物理を履修していない、もしくは基礎物理履修程度の学生を前提に講義を進める。具体的には、物理学の基本的な概念や原理・法則を、簡単な計算を通じ理解する。またリハビリテーションの実際の局面で知っておく役に立つ物理的な考え方の基本を様々な例から学び、身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (43楠本邦子/8回) ・単位と次元、ベクトル、力のつり合い、運動の表し方、運動の法則、いろいろな運動、仕事とエネルギー、運動量、剛体、弾性体、流体、光と電子、放射線 (44栗川知己/7回) ・熱、気体分子の運動、波の表し方と進み方、音波、光波、静電場、電流と磁場、電流と磁場、直流回路、交流回路</p>	オムニバス
	統計学	<p>情報化社会には様々なデータがあり、統計学の知識はこれらのデータを読み取り、理解した上で重要となる学問である。データを正しく理解することができれば、そこから得られる情報を研究や臨床場面で活用していくことができる。本講義では統計学の基本的な知識や、保健・福祉・医療の領域で必要となる統計の知識を身につける。具体的には、データの種類について学習し、統計量の計算方法や図表の読み取り、作成について理解する。また、得られたデータの一部からデータ全体を推測する方法や得られたデータについて仮説を立てて検討する方法について学ぶ。</p>	共同
	情報処理技術	<p>情報モラル・インターネットの基礎やパソコンの機能と仕組みを理解したうえで、基本的なソフトウェア(Word、Excel、Power Point)などを用いたパソコンの具体的な活用能力を育成する。ソフトウェアを用いて、論理的な文章構築、データ分析、プレゼンテーション資料の作成ができることを到達目標とする。さらに、プログラミングの基礎についても学修する。</p>	共同

	<p>(概要) 研究とは何か、研究の方法にはどういったものがあるのか、研究にまつわるこうした事柄について学修することは、医学の世界に留まらず、これからの社会で活躍するために必要不可欠である。本科目では、保健学における研究とは何かを概説した上で、セラピストが関わることが多い疫学、社会学、工学の分野における研究方法のエッセンス(疫学を中心とした研究デザインや質的研究など)を、実例を交えて教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6浅井剛/2回) ・オリエンテーション、研究とは何か、研究方法について(PECOの考え方)、リサーチクエスションの設定、保健学における工学的研究方法</p> <p>(23三木恵美/1回) ・質的研究および記述的研究について</p> <p>(37甲田勝康/5回) ・疫学概念、疫学研究と疫学データの解釈、疫学の指標とその算出方法(演習)</p>	オムニバス
	<p>本講義では、医療に携わる者として、生命現象を理解するとともに、最低限備えておくべき生物学的思考を身につける事を目標とする。また、生理学や解剖学といった専門科目を学ぶ上で必要となる基礎的な知識の習得を目指す。まず、生物の構造・機能や恒常性維持メカニズムを学習し、ヒトがどのようなしくみで生きることが出来るのかを理解する。また、発生、遺伝や生物進化の過程を学習することで、生物の多様性や生命現象の普遍性を学ぶことで「生きる」という生命の本質についても理解する。</p>	
	<p>生体内の活動の多くは化学的現象によって説明することができ、化学は自然界にある物質を解明する上で重要となる学問である。医学領域では医薬品の合成などにおいて、化学的な知識が役立てられている。本講義では、外部環境や生体内に起こる変化について、化学的な観点から学ぶことにより、身体の機能の仕組みや病態を理解していくために必要な科学的思考力を身につける。特に、栄養学や薬学に関する基本的な知識はリハビリテーションを学ぶ上でも重要であり、化学の基礎を学ぶことによって、これらの学問をより深く学ぶことができる。</p>	
	<p>認知科学は、人の心の動きから行動が引き起こされるメカニズムを明らかにしようとする学問であり、心理学、言語学、哲学、脳科学など様々な領域から発展してきた。リハビリテーションにおいても、様々な認知機能障害によって生じる日常生活あるいは社会生活上の障害に対して支援を行う。そのため、注意・記憶・実行機能(遂行機能)障害などを理解するために必要な認知科学的基礎知識をここでは学習する。</p>	
基礎 教養 科目	<p>人は生物的(biological)、心理的(psychological)、社会的(social)な存在である。人の身体と精神(心)は密接に関連し、行動に結びついている。心理学は人の内面と行動を研究対象とする学問である。本講義では、感覚・知覚、記憶(認知機能)、学習、感情、人の発達、パーソナリティ、ストレスと健康など、医療人として必要な心理学の基礎的な理論と概念を、医療とも関連づけながら概説する。</p>	共同
	<p>「倫理」とは、さしあたり「人間が社会の一員として守るべきルール」と理解することができる。この点で「倫理」は「道徳」と近い意味を持つ。「倫理」や「道徳」というと、なんだか説教臭いと反感を覚えるかもしれない。そこで、本講義は動物という身近な題材を通じて倫理学の諸問題を考える。人間は動物の一種である。また他の動物と同じく環境世界を生きる。この点で、人間は動物に似た存在である。他方、人間は伝統的に「言葉を持つ」という点で、動物とは異なるとされて来た。つまり、動物と人間には似たようなところがあると同時に、異なるところがある。こうした曖昧な存在である動物について考察することは、人間とはそもそもどのような存在なのかということを考えるきっかけとなる。本講義では、動物について考えることから見えてくる倫理学上の諸問題に焦点を当てることで、「われわれ自身がいかにかに生きるべきか」ということを各自に考えてもらうことを狙いとする。</p>	
	<p>(概要) 生活習慣の変化、特に利便性の向上による運動不足が深刻である。生活習慣病の予防や健康寿命を延ばすためには、早期からの一次予防が重要となる。そこで、自分自身の生活習慣を見直し、スポーツやレクリエーションを生活の一部にするような運動習慣の獲得が望ましい。本講義では「健康」をテーマに、健康づくりや疾病予防の課題と解決方法を学修する。具体的には、運動不足や肥満といった生活習慣、スポーツ医学、運動処方、運動生理、トレーニング理論について理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(57木村穰/2回) ・健康科学概論:健康の基本概念を学ぶとともに、生活習慣病や危険因子について理解する。最近のトピックス:健康に関する最新の情報を学ぶ。</p> <p>(36黒瀬聖司/8回) ・「歩く」と「走る」の違いや健康との関連、体組成と健康の深い関係、発育発達における運動の意義と効果 ・体力とトレーニング科学、運動処方の考え方、運動やスポーツによる血管機能、自律神経への効果 ・サルコペニア・フレイルと筋の科学、運動の認知機能、気分・感情への効果</p> <p>(36黒瀬聖司・11田頭悟志/5回)(共同) 筋力、柔軟性、筋持久力、バランス機能の測定と評価、瞬発力、敏捷性、全身持久力の測定と評価、運動・スポーツ実習</p>	オムニバス・一部共同 ※一部演習 講義:20時間 演習:10時間
人間と生活	<p>あなたは「教育」とは「よいものだ」と思うだろうか。思っているとしたら、それはなぜだろう。思っていないとしたら、それはなぜだろう。あるいは、「自分は教育を受けることで本当に「よくなったのだろうか」と問うてみたことはあるだろうか。その際、「よい」とはどのように判断されるのだろうか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものである。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育学」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見である。そしてまた、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみよう。これらを通して、各々が「教育」について考えを深め、人々の生活や人々が生きる社会の中での「教育」を捉え返すことができるようにしたい。</p>	※一部演習 講義:22時間 演習:8時間

	医療経済学	2017年度の国民医療費は43.1兆円と、10年前と比較して23.6%の増大を記録している。この趨勢は今後も続くことが予測されており、医療分野においてもサービス提供の効率化、さらには経済学的思考に基づく制度改革の必要性が求められている。本講義では、我が国の医療制度の特色を学び、その上で喫緊の政策課題である医療費抑制に向け、現状としてどのような要因が指摘されているかを説明する。最終的な目的として、これら要因の改善に向けて、どのような施策が経済学的に有効かを理解する。	
	哲学	本講義「哲学」の目的は人間存在について理解を深めることである。そのために、今回は動物の存在を考察することを切り口とする。動物が歴史の中でどのように理解されてきたかということを観察することで、動物と人間の存在を区別することはできるかということ各自を考えてもらうことを主眼とする。動物も人間も共に苦しみを引き受けねばならないという点では同一である。しかし、人間存在の場合は、この受苦の可能性は、究極的には人間特有の死との関わり方に求められる。以上のような理解を呈示することで、それぞれが医療者として生命に関わる際の糧としてもらうことが本講義の主眼となる。	
	社会学	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、個人の行為や役割、集団における規範や秩序といった社会学の基礎知識とともに、医療・福祉、家族・子ども、貧困などといった個別領域の議論をとりあげて解説していく。	
社会の理解	基礎英語	グローバル化社会の中で人々とコミュニケーションを図り、相互理解を深めるために英語の聞く・話す・読む・書くの4つの技能を高めることは不可欠である。近年、医療現場においても国際化が進んでおり、リハビリテーションにおいても英語を介したコミュニケーション能力が求められる。そのため、日常生活の中での英語表現に親しみ、英語を介して人間関係・援助関係を構築するための基本的なコミュニケーション能力を身につける。将来的には、英語圏での留学や研修に参加することも視野に入れ、英語の基本的な技能であるリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングスキルの向上をめざす。	
	コミュニケーション論	理学療法士、作業療法士は人と接することを基本とした医療専門職である。対象者を支援していく上では良好な関係性が不可欠であり、言語・非言語における相互性のコミュニケーションが成立する必要がある。本講義では、対象者とその家族との関係づくりを中心に、人と接することの基礎について学ぶ。そして、コミュニケーションに関する最新の研究から得られる知見をふまえて、人との関わりの在り方についての知識を深める。	
	医学英語	グローバル化の中で活躍できるスキルを身につけるためには、基礎英語で学んだスキルを実践的に向上させることが必要となる。そのため、医療に関する専門用語を理解し、国内外における様々な生活や健康・環境問題等について自己の考えを発表し、ディスカッションできる能力を身につける。特に、医療で用いられる専門用語を習得し、医学やリハビリテーションに関する英語文献から必要な情報を得ることができるようになることを目指す。また、医療現場で使用される基本的な会話表現についても学ぶ。	
	グローバルコミュニケーション	英語をより実践的に使える力にするために異文化を理解し、自分の考えをプレゼンテーションする技術と能力を身につける。そのため、英語圏に短期研修やホームステイを想定した実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに、関心のある国際学会に参加することを目指し、グローバルに活躍するための素地を身につける。	
	中国語	中国語の目標は、中国語初習の学習に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りをすることにある。発音を中心とする授業により、ピンイン表記と発音のしかたを身につけた上で、挨拶や感謝、自己紹介、簡単な質問等の表現を運用できるようになること、さらに文法の基礎を身につけることを到達目標とする。発音の練習を授業の中で重点を置いて進め、中国語の美しさを学生に実感させる。発音段階が終われば、基礎的な文法知識も語彙を習得する。	
	韓国語	韓国語は、한글(ハングル)という文字とそれによる発音を体系にした言語です。言語体系は日本語と非常によく似ているので、4カ月ほど勉強すれば簡単な自己紹介や、手紙を書けるようになります。韓国語の文字と発音から始めて、韓国語の基礎を習うこととなります。特に、韓国語のハングルによる文字と発音の数は日本語に比して非常に多いため、しっかりと学習します。また、基礎教養科目である本授業では、言語のみならず、世界に広がりつつある韓国のk-popやドラマと映画などを期末に視聴覚教材として活用します。	
	フランス語	フランス語を用いて日常会話を理解し、簡単なコミュニケーションができるよう授業を進めます。またフランス映画などフランス文化に触れることにより、多文化理解や異文化理解の一助とする。日本国内、または海外においてフランス語を話し、積極的にコミュニケーションを図れることを目指します。	

<p>解剖学 I</p>	<p>(概要) 人体を構成する細胞、組織、各臓器の形態・構造について学び、健康の回復や維持増進に向けた支援を理解する素地を身につける。そのため、機能形態学を基本とし、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系など各系統における医療に実践に必要な解剖学を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47北田容章/3回) ・解剖学総論、解剖学用語と人体の区分、人体の構成(細胞、組織、器官、器官系、個体)、人体の発生(胚子の発生、器官系の発生、胎児の発生、出生後)</p> <p>(1飯田寛和/2回) ・骨学総論、関節靭帯総論、筋学総論</p> <p>(32長谷公隆/3回) ・神経系の区分、神経系の構成、髄膜と脳室系、神経系の発生、脊髄、脳幹、小脳、大脳、神経路</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・外皮、視覚器、平衡感覚器、嗅覚器、味覚器</p> <p>(48細野光治/1回) ・内臓器官の基本構造、循環器系(血管系:心臓)</p> <p>(49桑内慎太郎/1回) ・循環器系(血管系、リンパ系)</p> <p>(50齋藤朋人/1回) ・呼吸器系(鼻、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺)</p> <p>(51山本 壮/1回) ・消化器系(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜)</p> <p>(52矢西正明/1回) ・泌尿器系(腎臓、尿管、膀胱、尿道)、生殖器系(男性生殖器、女性生殖器、会陰)</p> <p>(38豊田長興/1回) ・内分泌系(ホルモンと標的器官、内分泌腺の種類)</p>	<p>オムニバス</p>
<p>解剖学 II</p>	<p>理学療法士や作業療法士にとって重要な器官である、運動器(筋骨格系・神経系)に焦点を当て、形態・構造について学び、健康の回復や保持増進に向けた支援を理解する素地を身につける。そのため、機能形態学を基本とし、骨系、関節靭帯系、筋系、神経系など各系統における医療に実践に必要な解剖学を、頭部・体幹・上肢および下肢といった部位別に学修する。</p>	
<p>生理学 I</p>	<p>(概要) ヒトの生命の維持は、様々な器官が複雑に関連しながら、外界や体内の変化に対応することによって成り立っている。理学療法士や作業療法士にとって、このような人体の仕組みと機能について理解することは重要である。生理学 I では、生理学の概念を理解したうえで、細胞の構造と機能、神経の興奮伝導と末梢神経、中枢神経系、筋と骨、感覚、および血液について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(55福田尚代/2回) ・生理学とは、身体の階層性、生命現象、水、ホメオスタシスと負のフィードバック</p> <p>(41武藤 恵/2回) ・細胞の構造と機能:細胞膜、核、細胞小器官、静止電位と活動電位</p> <p>(53上田康雅/3回) ・神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類、自律神経、シナプスにおける興奮の伝達、聴覚・平衡感覚・体性・内臓感覚</p> <p>(33中村加枝/2回) 中枢神経系とは、脳梁、脳室と脳脊髄液・血液脳関門、脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核と大脳皮質</p> <p>(42倉岡康治/1回) ・脳の高次機能、視床と視床下部、辺縁系</p> <p>(39田口周/2回) ・筋の分類、骨格筋、心筋、平滑筋、骨</p> <p>(54安田正治/1回) ・感覚とは・視覚・味覚と嗅覚</p> <p>(56小原圭吾/2回) ・血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血漿、血液型</p>	<p>オムニバス</p>

<p>生理学Ⅱ</p>	<p>ヒトの生命の維持は、様々な器官が複雑に関連しながら、外界や体内の変化に対応することによって成り立っている。理学療法士や作業療法士にとって、このような人体の仕組みと機能について理解することは重要である。生理学Ⅱでは、心臓と循環、呼吸とガスの運搬、尿の生成と排泄、酸塩基平衡、消化と吸収、内分泌系、代謝と体温、生殖の発生・成長と老化、および運動生理学について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(73服部文幸/3回) ・血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図、血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性、心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換、静脈還流、臓器循環、リンパ循環</p> <p>(41武藤 恵/2回) ・外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動、呼吸気量、ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸</p> <p>(74人見浩史/2回) ・腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシス</p> <p>(72林 美樹夫/2回) ・消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割</p> <p>(33中村加枝/2回) ・内分泌機能とホルモン、各腺から分泌されるホルモンの作用</p> <p>(42倉岡康治/1回) ・栄養素、エネルギー代謝、体温</p> <p>(75玉田恵子/2回) ・男性生殖機能、女性生殖機能、受精、着床、胎児の発生、成長と老化</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化</p>	<p>オムニバス</p>
<p>生理学実習</p>	<p>(概要) 生理学で学んだ知識を、各種計測機器を用いた実験・実習で体験することによって、人体の機能と調節機構について理解を深める。個々の現象における生理学的背景を理解するとともに、それらが統合された生体の反応を学修することにより、人体のしくみと機能について統合的に理解することを目的とする。具体的には、脳機能の生理学、心臓の電気活動、呼吸機能と酸素飽和度、感覚および血圧と心拍、神経筋生理学、運動負荷試験について実習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(11田頭悟志・14福島卓矢・22吉村匡史・36黒瀬聖司・39田口 周/6回) (共同) ・実習を行うにあたってのオリエンテーション、実習後のグループ発表および講評とまとめ</p> <p>(22吉村匡史/4回) ・脳波による脳機能の理解</p> <p>(11田頭悟志/4回) ・心電図による心臓の電気活動の理解</p> <p>(14福島卓矢/4回) ・呼吸機能と酸素飽和度の測定</p> <p>(39田口 周/4回) ・誘発筋電図による神経筋生理学の理解</p> <p>(36黒瀬聖司/8回) ・感覚の生理学および血圧と心拍、運動負荷試験の原理と評価法</p>	<p>オムニバス・一部共同</p>
<p>運動学Ⅰ</p>	<p>運動学は解剖学、生理学、心理学、栄養学、生体力学など、様々な学問分野の知識の上に成り立っている。運動学Ⅰにおいては、関節運動のメカニズムの理解を中心におく。本講義では、座る、立つ、歩くといった日常生活で見られる運動や、生命を支える呼吸運動のメカニズムを論じる。解剖学、生理学で培った人体の構造、中枢神経、末梢神経と筋収縮の知識を統合して、理学療法および作業療法の実践に向けた正常運動、異常運動についての理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>運動学Ⅱ</p>	<p>(概要) 運動学Ⅱにおいては、人の身体もロボットも、物体としては同じく物理的法則に従って運動するとみなす。そうすることで、人の姿勢や運動を剛体として客観的に記述し、力学に基づいて解釈できる。本講義では、力学を中心に生理学も関連づけ、剛体と重心、関節モーメントと筋張力、関節パワーと筋の収縮形態、筋活動と筋電図、運動のエネルギー供給システム、各種運動分析装置(重心動揺計、三次元運動分析装置、加速度計、床反力計、筋電計、筋力測定器)の概要を論ずる。本講義によって、リハビリテーションの臨床で患者の異常運動を客観的に記述し、その原因を力学および生理学に基づき解釈する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3佐藤春彦/14回) ・運動力学(剛体とは)、筋骨格系のトルク(重心とは)、運動法則、運動計測、力とトルク、静力学的解析、運動計測装置、筋の収縮形態と力、筋電図学、歩行運動の記述、異常運動のメカニズム:手の運動異常、異常運動のメカニズム:歩行、運動制御</p> <p>(6浅井剛/1回) ・運動のエネルギー供給システム</p>	<p>オムニバス</p>

運動学実習	<p>(概要) 運動学Ⅰ、運動学Ⅱで学修した知識をもとに、体表解剖の技術および、各種計測装置を使った運動分析を実際に体験することで、運動学に対する理解を深める。座面圧力分析装置と重心動揺計を用いた座位・立位の安定性の評価、三次元動作解析装置を用いた歩行分析、筋電図を用いた上肢運動の分析、および呼気ガス分析装置を用いた運動処方手法を習得し、臨床の問題解決に応用する下地を作る。また、実験結果を論理的に考察し説明できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3佐藤春彦・6浅井剛・15山縣桃子・17梅原潤・25中山淳・27蓬萊谷耕士/1回) (共同) ・実習を行うにあたってのオリエンテーション</p> <p>(3佐藤春彦・25中山淳/6回) (共同) ・体表解剖の知識と触診技術(上肢・下肢)</p> <p>(17梅原潤/2回) ・座位および立位姿勢の安定性(座面圧力センサ、重心動揺計)</p> <p>(15山縣桃子/2回) ・歩行分析(三次元動作解析)</p> <p>(27蓬萊谷耕士/2回) ・上肢運動(把持動作)の分析(筋電図)</p> <p>(6浅井剛/2回) ・運動処方(トレッドミル、エルゴメーター、呼気ガス分析装置)</p>	オムニバス・一部共同
人間発達学	<p>発達とは環境との相互作用を通して、構造や機能が分化し、成熟していく過程である。「人間発達学」では、発達の主要な原則を学ぶことにより、発達の観点から人間の様々な機能を理解し、発達の障害を支援するために必要となる基礎的な知識を身に付ける。本科目では、特に発達が目覚ましい乳幼児期を中心に学び、ライフステージ全体を通した人間の発達を体系的に学習する。</p>	
臨床心理学	<p>現代社会において、こころの問題はより身近なものとなってきている。対象者の心理的状态を理解し、適切な関りや基本的支援を提供するための知識を取得することは、理学療法士・作業療法士においても非常に重要である。本科目では、心理面の評価と心理療法の基礎を学ぶことにより、リハビリテーションにおけるこころの支援について理解を深める。</p>	
病理学	<p>(概要) 病理学は、疾病の原因とその成り立ち、生体に及ぼす影響等に関する学問であり、医学・医療の基礎ともいえる。本科目では、基本的な病気の原因、病気が各臓器・器官にどのような変化をもたらすかを理解することにより、各疾患に対する適切なリハビリテーション実践が可能になることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 葛 幸治/3回) 病理学の定義と歴史、変性、萎縮といった退行性病変と肥大と過形成といった進行性病変の病理学的特徴、腫瘍の定義と分類、腫瘍発生の原因と遺伝子変化について講義を行う。</p> <p>(83 葛 幸治/1回) 炎症の定義と分類、感染症の病理学的特徴について講義を行う。</p> <p>(84 石田 光明/1回) 糖代謝異常の病態、タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態、脂質代謝異常の病態について講義を行う。</p> <p>(86 上野 博夫/1回) 局所の循環障害(浮腫、梗塞など)と全身の循環障害(高血圧症など)の病態について講義を行う。</p> <p>(87 比 舎 弘子/1回) 免疫反応がもたらす疾患(アレルギー、自己免疫疾患など)の病態について講義を行う。</p> <p>(85 佐藤 智佳/1回) 染色体異常と遺伝性疾患の代表的疾患の病態について講義を行う。</p>	オムニバス

<p>画像診断解析学</p>	<p>(概要) 単純写真、X線CT、MRI、血管造影、IVR、核医学検査などの各種画像の成り立ちと正常像、ならびに代表的疾患における特徴像を学習し、リハビリテーション医学を实践するうえで必要な画像診断の基礎について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76谷川 昇/1回) ・放射線診断学概論:画像診断と被ばく防護</p> <p>(80黒川弘晶/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:骨軟部疾患</p> <p>(79本多 修/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:胸部疾患</p> <p>(81香西雅介/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:腹部疾患</p> <p>(82河野由美子/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:頭頸部疾患</p> <p>77宇都宮啓太/1回) ・核医学:核医学の原理と読影の基本</p> <p>(78狩谷秀治/1回) ・血管造影IVR:血管造影IVRの原理と基本</p> <p>(10福島八枝子/1回) ・超音波診断の基礎と読影</p>	<p>オムニバス</p>
----------------	---	--------------

<p>内科学 I</p>	<p>(概要) 内科学はヒトの健康を障害するすべての臓器・器官の疾患を対象とし、その診断から治療に至る過程を扱う、臨床医学の基盤である。理学療法士や作業療法士にとって、高齢化や内部障害リハビリテーションへのニーズから、内科学的視点をもって全身状態を把握する必要がある。内科学 I では、内科学の概念を理解したうえで、症候学、呼吸器疾患、血液・造血器疾患、アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症、感染症への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(58野村昌作/2回) ・内科学の概念、内科学とリハビリテーション、臨床検査、内科的治療</p> <p>(65西澤 徹/1回) ・診断・鑑別診断の進め方、カルテの書き方、診察法</p> <p>(63清水俊樹/1回) ・発熱、全身倦怠感、食欲不振・食思不振、悪心・嘔吐、易感染性、意識障害</p> <p>(66孫 瑛洙/1回) ・めまい、浮腫・むくみ、レイノー現象、頭痛、リンパ節腫脹、ショック</p> <p>(59倉田宝保/1回) ・肺の解剖と生理、呼吸器疾患の症候とその病態生理</p> <p>(67吉岡弘鎮/1回) ・臨床検査所見、呼吸器疾患各論(感染性肺炎、慢性閉塞性肺炎)</p> <p>(68玉置岳史/1回) ・呼吸器疾患各論(びまん性汎細気管支炎、リンパ脈管筋腫症、気管支喘息、他)</p> <p>(69金田俊彦/1回) ・呼吸器疾患各論(肺循環障害、胸膜の疾患、他)、呼吸リハビリテーション</p> <p>(62伊藤量基/1回) ・血液の成分と生理、造血と血液細胞の分化、血液疾患の主要な症候、血液の検査法、血液疾患各論(赤血球の疾患、白血球の疾患)</p> <p>(70佐竹敦志/1回) ・血液疾患各論(リンパ細網内皮系の疾患、M蛋白血症、出血性疾患、血栓性素因)</p> <p>(60石浦嘉久/1回) ・アレルギー疾患(気管支喘息、花粉症、アレルギー性鼻炎、他)</p> <p>(64尾崎吉郎/1回) ・膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症</p> <p>(61宮下修行/1回) ・感染症総論、感染症各論(細菌感染症)</p> <p>(71尾形 誠/1回) ・感染症各論(真菌症、ウイルス感染症、原虫感染症、寄生虫病、プリオン病)</p>	<p>オムニバス</p>
--------------	--	--------------

<p>内科学Ⅱ</p>	<p>(概要) 内科学はヒトの健康を障害するすべての臓器・器官の疾患を対象とし、その診断から治療に至る過程を扱う、臨床医学の基盤である。理学療法士や作業療法士にとっても、高齢化や内部障害リハビリテーションへのニーズから、内科学的視点をもって全身状態を把握する必要がある。内科学Ⅱでは、循環器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、肝胆膵疾患などへの理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(88塩島一朗/1回) ・循環器系の解剖と生理、循環器疾患の主要な症状、循環器疾患の診断法</p> <p>(91山本克浩/1回) ・循環器疾患各論(高血圧症、低血圧症、虚血性心疾患)</p> <p>(92宮坂陽子/1回) ・循環器疾患各論(心筋疾患、弁膜症、先天性心疾患、心不全、不整脈)</p> <p>(89竹花一哉/1回) ・循環器疾患各論(肺性心、大動脈疾患、末梢血管障害)、心臓リハビリテーション</p> <p>(38豊田長興/1回) ・代謝、栄養素とエネルギー、糖質、蛋白質、脂質、ビタミン、無機質とその所要量</p> <p>(93岩崎真佳/1回) ・糖尿病、インスリンノーマ、脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風・高尿酸血症、骨粗しょう症、ビタミン欠乏症・過剰症、糖原病</p> <p>(94浮田千津子/1回) ・内分泌総論、内分泌腺とホルモンの解剖・生理、内分泌検査法</p> <p>(95野村恵巳子/1回) ・内分泌疾患各論(視床下部の疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患)</p> <p>(90今田崇裕/2回) ・腎臓の解剖と生理、腎疾患の症候とその病態生理、腎・泌尿器疾患の検査、腎・泌尿器疾患各論、電解質代謝の異常、腎臓リハビリテーション</p> <p>(97富山 尚/1回) ・消化管疾患の症候とその病態生理、消化管疾患の検査法</p> <p>(96吉田勝紀/4回) ・口腔、唾液腺、咽頭と嚥下作用、食道、胃、小腸、大腸、消化、吸収および排泄、消化管のホルモン調整、消化器疾患各論、肝臓、胆道系、膵臓、腹膜、検査・診断法、肝胆膵疾患各論</p>	<p>オムニバス</p>
<p>整形外科Ⅰ</p>	<p>(概要) 理学療法士や作業療法士にとって、運動器一般を理解することは重要なことであり、運動器疾患を扱う整形外科とは切っても切り離せない関係にある。整形外科Ⅰでは運動器の解剖と機能や検査・診断学および整形外科的治療法を理解したうえで、先天奇形、骨系統疾患、感染症、腫瘍、慢性関節疾患と循環障害、関節リウマチと類縁疾患、代謝性骨疾患・骨粗鬆症などの整形外科疾患総論について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1飯田寛和/2回) ・運動器の基礎知識</p> <p>(10福島八枝子/9回) ・診断学、検査、保存療法、手術療法、周術期の管理、慢性関節疾患と循環障害、代謝性骨疾患・骨粗鬆症・骨密度、スポーツ医学</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・神経学的検査、痛みの評価、電気生理学的検査</p> <p>(132片岡浩之/1回) ・先天奇形、骨系統疾患</p> <p>(ゲストスピーカー(整形外科医)・10福島八枝子/1回) ・腫瘍</p> <p>(40菅俊光/1回) ・関節リウマチと類縁疾患</p>	<p>オムニバス</p>

整形外科学Ⅱ	<p>(概要) 理学療法士や作業療法士にとって、運動器一般を理解することは重要なことであり、運動器疾患を扱う整形外科とは切っても切り離せない関係にある。整形外科学Ⅱでは運動器の外傷(総論および各論)、末梢神経損傷、小児疾患、および部位別の疾患各論(脊柱の外傷・腫瘍・感染症・変性疾患、肩関節および上腕、肘関節・前腕・手関節および手指、骨盤・股関節および大腿、膝関節および下腿、足関節および足)について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(138矢倉拓磨/2回) ・外傷</p> <p>(128齋藤貴徳/1回) ・末梢神経損傷</p> <p>(132片岡浩之/2回) ・小児疾患</p> <p>(135足立 崇/1回) ・脊柱1(外傷)</p> <p>(136石原昌幸/1回) ・脊柱2(腫瘍・感染症)</p> <p>(137谷 陽一/1回) ・脊柱3(変性疾患)</p> <p>(139山口拓嗣/1回) ・肩関節および上腕</p> <p>(129堀井恵美子/1回) ・肘関節・前腕・手関節および手指1</p> <p>(130浜田佳孝/1回) ・肘関節・前腕・手関節および手指2</p> <p>(131奥 賢一/1回) ・骨盤・股関節および大腿1</p> <p>(134中村知寿/1回) ・骨盤・股関節および大腿2 ・足関節および足</p> <p>(133大野博史/1回) ・膝関節および下腿</p>	オムニバス
--------	--	-------

<p>臨床神経学 I</p>	<p>(概要) 神経疾患では運動麻痺・感覚障害、高次脳機能障害など日常生活に影響を及ぼす後遺症を生じる場合が多く、個々の障害に対するリハビリテーションが重要な役割を果たす。本講義では、リハビリテーションの対象となる神経疾患の病態生理や症候について学び、理学療法・作業療法を実践する上で必要となる臨床神経学の基礎的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32長谷公隆/3回) ・中枢神経系と末梢神経系の構成、脳機能と構造、錐体路徴候として錐体路を中心とした随意運動の発現機構 運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理について講義を行う。 ・運動失調の分類、小脳性運動失調と感覚性運動失調の症候について講義を行う。</p> <p>(110三木章子/2回) ・錐体外路徴候・不随意運動について大脳基底核の構造と機能、不随意運動の症候について講義を行う。 ・感覚障害に関して、感覚の受容機構と伝導路、感覚障害の症候について講義を行う。</p> <p>(40菅 俊光/2回) ・脊髄疾患に関して、脊髄の構造、機能局在と伝導路ならびに脊髄損傷の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(103中村正孝/2回) ・認知症の定義、アルツハイマー病など代表的認知症の病因・病態と診断・治療について講義を行う。 ・末梢神経障害の分類、ニューロパチーの病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(105金子 鋭/1回) パーキンソン病・パーキンソン症候群の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(109片岡優子/1回) 運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症、脊髄性筋萎縮症など)の病態・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(107飯田 慎/1回) 小脳萎縮症(脊髄小脳変性症など)の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(104近藤誉之/1回) 脱髄性疾患(多発性硬化症、視神経脊髄炎など)の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(108森勢 諭/1回) 髄膜炎・脳炎の病因・病態と診断・治療について講義を行う</p> <p>(106井谷公美/1回) 進行性筋ジストロフィー、筋無力症、多発性筋炎、代謝性筋疾患などの筋疾患の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>臨床神経学 II</p>	<p>(概要) 神経疾患では運動麻痺・感覚障害、高次脳機能障害など日常生活に影響を及ぼす後遺症を生じる場合が多く、個々の障害に対するリハビリテーションが重要な役割を果たす。本講義では、「臨床神経学 I」で学んだ内容をふまえて、リハビリテーションの対象となる神経疾患の病態と診断、治療に関して学び、理学療法・作業療法を実践する上で必要となる基礎的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(112吉村晋一/5回) ・意識、見当識について講義を行い、JCSとGCSについて説明する。 ・脳循環代謝障害の病態に関して、脳循環、脳代謝、脳浮腫について講義を行う。 ・頭痛の分類、頭痛の病因・病態と診断・治療について講義を行う。 ・外傷性脳損傷の分類、外傷性脳損傷の病態と診断・治療、ならびに出血性脳血管障害の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(114武田純一/2回) ・神経系の電気生理学的検査(脳波など)、神経画像検査(脳・脊髄のコンピュータ断層撮影、磁気共鳴画像法)の基礎について講義を行う。 ・てんかんの分類、てんかんの病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(113羽柴哲夫/2回) ・悪性脳腫瘍の分類、悪性脳腫瘍の病態と診断・治療、ならびに良性脳腫瘍の分類、良性脳腫瘍の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(103中村正孝/2回) ・虚血性脳血管障害の病態と診断・治療、ならびに虚血性脳血管障害の神経局在について講義を行う。</p> <p>(20種村留美/4回) ・高次脳機能障害の症候(注意・記憶の障害、失認症、失行症)について講義を行い、失語症ならびに構音障害・嚥下障害に関して関西医科大学附属病院の言語聴覚士をゲストスピーカーとして招く。</p>	<p>オムニバス</p>

小児科学	<p>(概要) 小児科疾患では成人と異なる部分も多くあり、小児に特有の疾患を理解しておく必要がある。本講義では、療育という場面で理学療法士や作業療法士が関わることが多い小児領域の疾患、特に、小児神経の領域を中心に講義を行う。また、近年増加している早産児や低出生体重児に対するリハビリテーションで必要となる新生児や周産期の異常に関する知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (99石崎優子/1回) ・小児科学の概論、心身医学的疾患として小児の特徴、正常成長・発達、注意欠如・多動性症、自閉症、虐待などについて講義を行う。</p> <p>(100峰研治/1回) ・早産・低出生体重児・新生児・周産期にみられる異常、先天性心疾患、川崎病、染色体異常(21トリソミー、18トリソミー、13トリソミー など)の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・成長ホルモン分泌の異常、甲状腺疾患、副腎疾患、糖代謝異常、先天代謝異常などの病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・脳性麻痺、先天異常、てんかん、神経感染症の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・血液疾患、小児がんの病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(101赤川翔平/1回) ・先天性免疫不全症、アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎、喘息など)、呼吸器疾患、呼吸器感染症の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・腎泌尿器疾患・膠原病:腎疾患(ネフローゼ症候群、急性腎炎、尿路異常、尿路感染症など)、膠原病の病態と診断・治療について講義を行う。 ・低出生体重児、早産児にみられる疾患、新生児・周産期にみられる異常とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p> <p>(102藤井喜充/1回) ・遺伝性疾患、消化器感染症の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(10福島八枝子/1回) ・小児の整形疾患(小児の骨折)とリハビリテーションについて講義を行う。</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・中枢神経疾患(脳性麻痺、二分脊椎、てんかん)の病態とリハビリテーションについて講義を行う。</p> <p>(3佐藤春彦/2回) ・小児を対象とした呼吸理学療法の実践を含め、中枢神経疾患(脳性麻痺、二分脊椎、てんかん)のリハビリテーションの実践について講義を行う。 ・低出生体重児、早産児にみられる疾患、新生児・周産期にみられる異常とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p> <p>(21加藤寿宏/2回) ・知的能力障害の症候とリハビリテーションの実践、ならびに自閉スペクトラム症の症候とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p> <p>(24松島佳苗/1回) ・注意欠如・多動性症、限局性学習症、発達性協調運動症の症候とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p>	オムニバス
精神医学	<p>精神機能の障害は、長期にわたり当事者や家族の生活に影響を及ぼすことが多いため、適切なリハビリテーションを提供することが必要である。本科目では、精神医学の基礎を学ぶことで、リハビリテーションを行う上で必要となる精神症状や精神疾患に関する知識、その治療や対応等に関する基礎知識を習得し、精神医学における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。</p>	

公衆衛生学	<p>(概要) 集団の健康問題を解決するためには、健康状態や疾病罹患状況ならびに疾病要因の把握が重要であり、保健統計に関する基礎知識が必要となる。本科目では現代社会の社会的背景をふまへ人の健康増進、疾病予防に医療専門職である理学療法士・作業療法士として寄与することができるようになるため、人の健康な生活の基盤にある公衆衛生に関して、その概念を含めた知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(115西山利正/2回) ・公衆衛生学概論と歴史について講義を行う。 ・感染症とその予防に関して、感染症の定義、感染症法、予防接種法、検疫法について講義を行う。</p> <p>(116神田靖士/2回) ・人口統計(静態統計と動態統計)、生命表、保健統計(出生と死亡)、疾病統計について講義を行う。</p> <p>(118村上由希/7回) ・食品保健と公衆衛生栄養について講義を行う。 ・生活環境の保全に関して、地球温暖化、大気汚染、地球環境、住環境、ごみ・廃棄物について講義を行う。 ・医療の制度に関して、医療保険、公費負担制度、医療制度、高齢者医療制度について講義を行い、高齢者の医療と福祉に関して、介護保険を中心に講義を行う。 ・地域保健活動に関して、地域保健法、医療法、救急医療について講義を行う。 ・精神保健福祉に関して、精神保健医療福祉の法制度、自殺対策、依存症対策、精神障害者の社会復帰施策について講義を行う。 ・障害者福祉(障害者総合支援法)と難病対策(難病法)について講義を行う。</p> <p>(37甲田勝康/3回) ・母子保健に関して、母子保健サービス、子育て支援、児童虐待防止、女性の健康支援について講義を行う。 ・学校保健に関して、学校保健制度、学齢期の健康、関連法規と関連団体、保健教育、保健管理、近年の重要施策について講義を行う。 ・産業保健に関して、健康に影響を与える労働環境、労働衛生管理、職業病とその対策について講義を行う。</p> <p>(117下笠敬紀/1回) ・生活習慣病に関して、生活習慣病の概念と現状、中高年者に多い疾患の予防、健康づくり施策(成人保健と健康日本21)について講義を行う。</p>	オムニバス
老年医学	<p>高齢化社会の到来により、医学・医療の分野においても老年医学や高齢者医療が注目され、高齢者に対する正しい理解と適切な支援が望まれている。高齢者の健康と豊かな生活を考える上では、心身機能の問題だけではなく、家庭環境や社会環境など幅広い視点が必要となる。本講義では、加齢に伴う様々な機能の変化や、高齢者に特徴的な症候を中心に老年医学の基礎的な知識を習得する。</p>	
臨床薬学	<p>(概要) 薬物は生体との相互作用により様々な現象を引き起こす。近年では、ヒトゲノム解析が進展し、薬物治療の個別化とその質の向上も注目されている。作用機序や作用・副作用など薬物療法の基礎的な知識を習得し、薬物の生体に対する作用を理解することは、理学療法士・作業療法士がリハビリテーションを行う上でも重要である。本科目では、リハビリテーションに関連する薬物療法の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(22吉村匡史/2回) ・薬物治療に関して、薬の種類と特徴、主作用と副作用、有害事象について講義を行う。 ・中枢神経薬に関して、精神疾患治療薬(統合失調症、うつ病)、睡眠薬、抗不安薬、認知症やてんかんの治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(121武内孝太郎/1回) ・中枢神経薬に関して、パーキンソン病、脳梗塞、脳出血の治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(122河合謹也/1回) ・呼吸器・代謝・内分泌疾患の治療薬に関して、気管支喘息、骨粗鬆症、慢性閉塞性肺疾患、ホルモンの治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(123野瀬 彩登美/1回) ・消化器と腎・泌尿器系疾患の治療薬に関して、便秘と下痢、利尿薬、腎不全の治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>124(谷口真也/1回) ・自律神経作用薬として、交感神経薬物と副交感神経薬物について講義を行う。</p> <p>(120大谷ひとみ/1回) ・循環器作用薬として、高血圧、心筋梗塞、心不全の治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(119平井希俊/1回) ・抗炎症薬と抗がん薬について講義を行う。</p>	オムニバス

救急医学	<p>(概要) 医療現場においては、患者が突然に意識障害、呼吸停止、心停止、もしくはこれらに近い状態に陥る可能性が少なくない。急病やケガが起こった場合、患者の状態は時間の経過とともに悪化し、医師が現場に到着するまでのわずかな分が予後を大きく左右するといっても過言ではない。そのため、医療従事者である理学療法士や作業療法士は、正しい応急手当の知識と技術をもって、適切な手当を行うことが必要である。本講義では、基本的な救急医学の知識および心肺蘇生法を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(125 鎌方安行/3回) ・救急医療体制、ショック、侵襲と生体反応</p> <p>(126 室谷 卓/4回) ・心肺蘇生法とその学術的根拠、内因性救急疾患、熱傷、外傷、一次救命処置実習(心肺蘇生)</p> <p>(127 梶野健太郎/1回) ・災害医学</p>	オムニバス
臨床栄養学	<p>リハビリテーション医療では、さまざまな疾患、病態の成因、経過、治療に関わる栄養について学ぶ必要がある。そこで対象者個々の疾患、病態、心身状態に対して適切な栄養管理を行うための、栄養の基礎(栄養素の役割や代謝、栄養補給ルート、栄養ケア計画とプロセス)や主な病態・疾患別の栄養療法を修得する。また、教員の病院管理栄養士としての実務経験からリハビリテーション栄養の実践について学ぶ。</p>	
先端リハビリテーション医学	<p>(概要) 本科目は、リハビリテーション医学における先端的なトピックスについて紹介する。医学的観点に基づいた脳神経・筋やヒトの動きに関する研究や臨床応用は、盛んに行われている。本科目では、本学リハビリテーション医学講座が実施している、ボツリヌス毒素療法、経頭蓋電気刺激、人工知能といった先端研究及び臨床応用について、医学的視点から論じる。既存のリハビリテーション医学の知識を基本としながらも、その枠にとらわれず、より新しい知見に基づいたリハビリテーション体系を創造する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(32 長谷公隆/5回) ・先端リハビリテーション概論(運動制御理論の展開)、動作分析と人工知能、リハビリテーション・ロボット、ニューロモデレーション、ボツリヌス毒素療法におけるリハビリテーション</p> <p>(39 田口 周/1回) ・複合現実技術の臨床応用</p> <p>(40 菅 俊光/1回) ・機能的電気刺激</p> <p>(ゲストスピーカー(ATR研究員)・32 長谷公隆/1回) ・ブレインマシンインターフェイス</p>	オムニバス
リハビリテーション概論	<p>(概要) リハビリテーションは、患者あるいは障害者の地域社会生活を支援する上で、複数の制度や機関で提供されている。理学療法士・作業療法士が果たす役割は、複雑化するリハビリテーションのサービス体系の中で多様化している。本講義では、リハビリテーションの医療における役割と理念、障害モデルを学んだ上で、近年のリハビリテーションの概要を学び、理学療法士・作業療法士の社会における役割を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 飯田寛和/1回) ・医療におけるリハビリテーションの役割について講義を行う。</p> <p>(32 長谷公隆/3回) ・障害モデルに関して、国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)について講義を行う。 ・リハビリテーションの段階と領域に関して、医療施設、障害者支援、地域社会におけるリハビリテーションについて講義を行う。 ・関西医科大学附属病院におけるリハビリテーションセンターの取り組みについては、関西医科大学附属病院リハビリテーションセンターの理学療法士をゲストスピーカーとして招く。</p> <p>(2 池添冬芽/2回) ・リハビリテーションにおける理学療法士の役割、ならびに理学療法士の活躍の場と実践例について講義を行う。</p> <p>(20 種村留美/2回) ・リハビリテーションにおける作業療法士の役割、ならびに作業療法士の活躍の場と実践例について講義を行う。</p>	オムニバス

<p>医療専門職総論</p>	<p>(概要) 関西医科大学で医療専門職を目指す者として、本学の歴史・建学の精神や地域特性について学び、人々の健康な生活を支える医療専門職の役割や責務について理解する。リハビリテーション学部・医学部・看護学部の3学部において、症例を想定したグループディスカッションを実施する。本学3学部が養成する医師・看護師・理学療法士・作業療法士に加え、言語聴覚士・薬剤師や管理栄養士などの医療専門職の専門性・役割・責務を理解した上で、お互いを尊重した関わりができるようになるための土台作りを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(理学療法学科・作業療法学科全教員/10回) (共同) 医学部・看護学部との合同合宿により、人々の健康な生活を支える医療者としての相互理解を深める。</p> <p>(ゲストスピーカー(関西医科大学学長)、4中野治郎/1回) 本学の設置場所である枚方市について理解を深める。</p> <p>(4中野治郎、13森公彦、23三木恵美、28橋本晋吾、30山下円香/7回) (共同) ・グループディスカッションによって医療チームの構成や役割分担を理解し、提示された症例についてまとめ、グループ発表を行う。 ・医師・看護師・理学療法士・作業療法士や、言語聴覚士・薬剤師や管理栄養士などの役割を理解する</p> <p>(ゲストスピーカー(関西医科大学理事長)・4中野治郎/1回) ・関西医科大学の歴史や現状・未来について理解を深める。</p> <p>(ゲストスピーカー(他大学研究者)・4中野治郎/1回) ・世界の医療界における最先端の研究開発について理解を深める。</p>	<p>オムニバス・一部共同</p>
<p>リハビリテーション医学</p>	<p>(概要) リハビリテーションには、あらゆる疾病・疾患で引き起こされる障害に対する適切な治療とその後の生活を支援するための幅広い知識・技術が必要とされる。効果的なリハビリテーション医療を実践する上で、理学療法士・作業療法士はチーム医療の一員として、リハビリテーション医学の知識を身に付けることが不可欠である。本講義では、リハビリテーション医学の概要を学ぶと共に高齢化社会における予防や健康増進におけるリハビリテーションの役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(32長谷公隆/3回) ・リハビリテーションの処方、リハビリテーション医学における運動学習、リハビリテーションのための治療的課題設定について講義を行う。</p> <p>(39田口 周/2回) ・急性期、回復期、生活期における脳血管障害におけるリハビリテーション医療について講義を行う。 ・心臓リハビリテーションを含む、循環器のリハビリテーション医療について講義を行う。</p> <p>(40菅 俊光/1回) ・整形疾患のリハビリテーションを含む、運動器のリハビリテーション医療について講義を行う。</p> <p>(111小倉久幸/2回) ・呼吸器リハビリテーションを含む、内部障害のリハビリテーション医療について講義を行う。 ・リハビリテーション医学における予防と健康増進について講義を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>国際保健</p>	<p>(概要) 世界のグローバル化、新興国の経済発展、情報科学技術の伸展など、世界の社会情勢の変化は著しい。こうした状況下で、国際保健が扱う健康の諸問題は日々変化している。例えば、疾病構造の変化に伴う保健活動の複合化、世界的な高齢化など、従来存在しなかった数多くの健康にかかわる問題が現れている。こうした世界の健康問題の理解には、国際保健に関わる基礎知識の習得が必要不可欠である。そこで、本講義では、国際的保健分野で働く人としての基礎的素養を身につけることを目的にその入門的内容を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10福島八枝子/3回) ・国際社会における疾病構造の変化と医療モデル、世界の高齢化、世界の健康(欧米)</p> <p>(20種村留美/4回) ・世界の健康(アジア、アフリカ)、ワークショップ(異文化体験)、国際的な国家間の健康格差、グローバルヘルスにおける問題</p> <p>(ゲストスピーカー(海外で介護分野のNGO活動をしている専門家)・20種村留美/1回) ・海外の介護分野におけるNGO活動</p>	<p>オムニバス</p>

医療福祉連携論	<p>(概要) リハビリテーション専門職の活躍の場は医療施設だけでなく地域にも広がっており、退院後の地域生活における支援や予防分野での活躍が求められている。本科目では、地域において重要となる医師、理学療法士、作業療法士や介護支援専門員、ソーシャルワーカー、保健師のそれぞれの視点からの医療・福祉やリハビリテーションについて解説する。さらに、多職種連携の実践例に関するグループディスカッションを通じ、医療・福祉の専門職の役割や連携の必要性と意義を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10福島八枝子/1回) ・医療から地域生活、予防医学</p> <p>(ゲストスピーカー(介護支援専門員)・26宮原智子/1回) ・介護支援専門員の視点から考えるリハビリテーション</p> <p>(ゲストスピーカー(ソーシャルワーカー)・26宮原智子/1回) ・ソーシャルワーカーの視点から考えるリハビリテーション</p> <p>(ゲストスピーカー(看護学部)・26宮原智子/1回) ・保健師の視点から考えるリハビリテーション</p> <p>(2池添冬芽/2回) ・保健・福祉領域における理学療法の実践、保健・福祉領域の多職種連携における理学療法士の関わり</p> <p>(26宮原智子/2回) ・作業療法士による福祉領域での支援の実践、多職種連携の実践に関する事例検討(グループディスカッションによるアクティブラーニング)</p>	オムニバス
がんリハビリテーション学	<p>(概要) がんや治療に伴う障害像の特徴を把握し、リハビリテーションを進める上で必要な基礎知識を学ぶとともに、評価と治療介入に関する基礎的知識を学習する。 多職種チームアプローチにより実践されるがんリハビリテーションにおいて、理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について理解する。 病院での実践に加え、外来・介護保険サービス・就学/就労支援におけるがんリハビリテーションの必要性を理解し、新たな実践の可能性について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(22吉村匡史/2回) ・がんリハビリテーション概論、ならびに心のケアとがん患者とのコミュニケーションについて講義を行う。</p> <p>(23三木恵美/3回) ・周術期のリハビリテーションに関して、乳がん・脳腫瘍(高次脳機能障害に関する内容を含む)を中心に講義を行う。 ・介護保険・CRCI・CRF・CIPNに関する内容を含め、在宅支援と就労・就学に対するリハビリテーションについて講義を行う。 ・緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーションについて講義を行う。</p> <p>(14福島卓矢/3回) ・周術期のリハビリテーションに関して、呼吸困難に関する内容を含め、開胸開腹術・頭頸部がん・骨軟部腫瘍・脊髄腫瘍を中心に講義を行う。 ・化学療法・放射線療法中・後のリハビリテーションに関して、造血幹細胞移植・骨転移・悪性腫瘍を中心に講義を行う。 ・リンパ浮腫に対するリハビリテーションについて講義を行う。</p>	オムニバス
チーム医療演習	<p>総合臨床実習を行うにあたって、3年次までの学内講義や臨床実習科目を振り返り、チーム医療における理学療法士と作業療法士の役割を確認する。また、医療チームを構成する医師・看護師や、言語聴覚士・薬剤師・管理栄養士などの医療専門職の役割を学ぶ。リハビリテーション学部・医学部・看護学部でのグループディスカッションを通じて症例を想定した多職種連携について学び、保健・医療・福祉のさまざまな分野における医療専門職の役割や責務や多職種連携の重要性について理解する。</p>	共同・集中
国際リハビリテーション学	<p>(概要) 世界的な医療レベルの向上、社会保険制度の整備、高齢化により、世界的に医療モデルは転換期を迎えている(身体を治す医療から生活を支える医療への変換)。このような国際的な状況の変化のもと、疾患後の生活を支えるリハビリテーションの医療は国際的に高まっている。本講義では国際リハビリテーション領域で活動するために必要な知識を伝えることを目的として、リハビリテーション領域における国際的な活動の事例紹介やワークショップをオムニバス形式で行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6浅井剛/2回) ・オリエンテーション、国際感覚を身につけるために必要なこと(言語、文化、宗教)、ワークショップ(国際協力)</p> <p>(ゲストスピーカー(海外で活躍するセラピスト)・6浅井剛/1回)300 ・海外で活躍するセラピストの事例紹介(青年海外協力隊、在外病院)</p> <p>(10福島八枝子/2回) ・欧米におけるPhysical Medicine and Rehabilitation専門医の現状、海外におけるスポーツ医局の紹介</p> <p>(20種村留美/3回) ・途上国のリハビリテーションの現状と課題(ASEAN諸国およびアフリカ、南米)、WFOTとWCPT、世界における文化の違いを考えた地域リハビリテーションを考えてみよう</p>	オムニバス

理学療法概論	本講義では理学療法士にとって必要不可欠な基礎的知識や理学療法士の全体像について学ぶ。理学療法(士)の定義や歴史、法律について概説したうえで、医療、保健福祉、スポーツ現場といった様々な活動領域において理学療法士に求められる役割・機能を理解する。理学療法の理論や概念、基本的な知識・技術および接遇・コミュニケーションなどについて説明し、理学療法(士)の概観を理解することを目的とする。	
理学療法研究論	(概要) 理学療法学の深化・発展のためには、既存の知識に留まらず、常に新しい知見の積み重ねが必要であり、理学療法に携わる者には研究に関する基礎的な知識および研究実践能力が求められる。本科目では、研究デザイン、先行研究の検討、基本的統計処理方法、結果のまとめ方など、研究に必要な手順等について、運動機能、神経機能、呼吸循環代謝や発達・学習などの具体例を示しつつ説明を行い、理学療法学研究に必要な知識を教授する。 (オムニバス方式/全8回) (6浅井剛/2回) ・理学療法研究の概要、論文検索、研究デザインについて教授する。 (9野添匡史/6回) ・理学療法の対象となる各領域(運動機能、神経機能、呼吸循環代謝、発達・学習)における研究の紹介と方法論について教授する。 ・基礎的統計処理と結果のまとめ方、および論文の読み方について教授する。	オムニバス
先端研究演習Ⅰ	指導教員の指導のもと、少人数グループにて先行研究の文献検索および抄読、研究で用いる様々な機器の操作や研究データ測定の実践を行い、研究プロセスの基本を学修する。本科目によって、先端的な研究を行うための基本的能力や新しい知見・真理を追求する姿勢を養うとともに、理学療法対象者や健康・医療を取り巻く問題・課題を論理的に把握・解釈し、科学的思考および手法に基づいて解決するための素地を身につける。	共同
先端研究演習Ⅱ	先端研究演習Ⅰで学修した内容をもとに、グループ内討議を行い各自の研究テーマを決定し、研究計画を作成したうえで、調査・データ収集の実践を行う。本科目によって、先端的な研究を行うための基本的能力や新しい知見・真理を追求する姿勢を養うとともに、理学療法対象者や健康・医療を取り巻く問題・課題を論理的に把握・解釈し、科学的思考および手法に基づいて解決するための素地を身につける。	共同
理学療法総合演習	臨床実習を経験した上で、これまで学んできた理学療法学のまとめとして再学習を行う科目である。理学療法に関する知識を有機的に繋げながら、理学療法士の社会的役割や医療専門職としての専門性について体系的に学びを深める。対象者の評価、統合と解釈および治療の計画・実施といった理学療法プロセスにおける知識や技術を見直し、応用力を身につけることで卒業に理学療法士として様々な領域で専門家としての役割を担うことができることを目的とする。	共同
卒業研究	先端研究演習Ⅱで収集した研究データを各種解析・統計手法を用いて処理・整理する。各自の研究の概要(背景・目的・方法・結果・考察・結論)を、学内で開催する卒業研究発表会において発表し、質疑応答を行うとともに、卒業論文としてまとめる。本科目によって、先端的な研究を行うための基本的能力や新しい知見・真理を追求する姿勢を養うとともに、理学療法対象者や健康・医療を取り巻く問題・課題を論理的に把握・解釈し、科学的思考および手法に基づいて解決するための素地を身につける。	共同

基礎

理学療法学	作業療法概論	<p>(概要) 作業療法について、その歴史と核となる概念ならびに社会的役割について学び、作業療法に関する理解を深める。社会的変化や医療の進歩に伴い、作業療法士に求められる役割も推移してきていることから、多様な実践課程を知ることが必要がある。本講義では、国内・外の作業療法に關して現在の取り組みに關する実践例と今後の展望についても紹介する。本講義では、グループディスカッションや発表といったアクティブ・ラーニングを行うことで、作業療法に關して主体的に考える機会を提示する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23三木恵美/3回) ・講義の概要説明(課題、成績評価を含む)、グループディスカッションのグループ発表 ・作業療法に關するアクティブ・ラーニング(グループディスカッション 1、2) ・緩和ケアにおける作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(20種村留美/6回) ・作業療法の定義、リハビリテーションにおける作業療法の役割、作業療法実践における基本的手順と支援対象 ・国内外の作業療法の歴史と今後の展望(作業療法の成立、国際社会の中の日本の作業療法)について講義を行う ・老年期における作業療法の取り組みを紹介する ・身体障害領域における脳機能に基づく作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(29砂川耕作/1回) ・テクノロジーを活かした身体障害領域の作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(25中山淳/1回) ・リハビリテーション工学における身体障害領域の作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(21加藤寿宏/1回) ・国内の小児リハビリテーションの取り組みを作業療法の観点から紹介する</p> <p>(24松島佳苗/1回) ・国外の小児リハビリテーションの取り組みを作業療法の観点から紹介する</p> <p>(31林良太/1回) ・精神科における作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(20種村留美・23三木恵美/1回)(共同) ・作業療法に關するグループ発表を実施する</p>	オムニバス・一部共同
	スポーツと作業療法	<p>近年、スポーツ脳科学という分野が新しく生まれ、スポーツスキルを脳科学的に可視化するという取り組みが目ざされている。作業療法は、道具を操作する過程で生じる様々な事象を科学的に捉え、それを治療的に応用するという特色を有している。これはスポーツにおける競技スキルにも応用可能であり、スポーツにおける自己と道具と操作対象およびそれを取り巻く環境を脳認知機能の視点で分析し、介入戦略を提示することが、対象者としての選手の失敗や苦手意識といった問題を解決するという側面の一助となる。「スポーツと作業療法」ではスポーツという作業を作業療法的視点で分析し、介入戦略を立案するために必要な知識を学習する。</p>	※一部演習 講義10時間 演習 5時間
	緩和ケアにおけるリハビリテーション	<p>緩和ケアとは、生命を脅かす病に關連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に同定し適切に評価し対応することを通して、苦痛を予防し緩和することにより、患者と家族のQuality of Lifeを改善する取り組みである(WHO; 2002)。緩和ケアは「病気の時期」や「治療の場所」を問わず提供されるものであり、がんと診断された時からその対象となる。また近年では、緩和ケアの対象疾患は心不全、神経難病、認知症などにも広がりをみせている。本科目では、3年次で履修した「がんリハビリテーション学」を踏まえ、緩和ケアに關してその概念、対象となる症状、対処法などについてより広く理解することを目的とする。</p>	※一部演習 講義10時間 演習 5時間
理学療法管理学	<p>理学療法学の価値を裏付けるものとしての保険制度とその報酬の概要を理解し、コスト感覚をもつことの重要性について学修する。対象者に対して良質な理学療法を提供するために必要な診療の記録・管理、労務管理や労働衛生の基本を学び、業務上疾病で発生が多い腰痛予防対策について学修する。さらに、現場で管理・運営を行うために必要な基本知識、リスクマネジメント、臨床実習教育や生涯学習制度について学び、組織としての質の向上に資する知識と基本的技術を身につける。</p>	集中	
理学療法評価学	<p>(概要) 本講義のねらいは、理学療法における障害評価の位置づけを明確にし、評価を行うために必要な知識を整理するとともに、各検査で得られた所見やデータを基に障害像を明らかにする過程の論理的な考え方を身につけることにある。具体的には、理学療法評価に必要な検査・測定の方法・目的・意義・流れ、具体的方法・使用器具に關する基礎知識を習得し、各種疾患の評価方法とその結果から治療指針を導くプロセスを学ぶ。また、講義内では単なる評価テストの知識習得ではなく、「なぜこの評価が必要なのか?」「この評価から何がわかるのか?」「評価の結果をどう捉えればよいのか?」を考えながら学習を進める。加えて、理学療法評価学に關するトピックや科学的根拠、研究のための特殊機器を用いた評価についても情報を提供し、理学療法評価学の理解を深めていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4中野治郎/10回) ・理学療法学評価の目的と流れ、評価に含まれる要素、カルテ記載法 ・形態計測、反射検査、脳神経検査、協調性検査・筋トーン検査、痛みの検査、高次脳機能検査・片麻痺運動機能検査 ・疾患別評価法、ADLとQOLの評価、住宅の評価 ・問題点抽出とゴール設定、統合と解釈、演習とまとめ</p> <p>(7福元喜啓/5回) ・関節可動域検査、筋力検査、感覚検査、整形外科的検査、姿勢・動作分析</p>	オムニバス	

理学療法評価学	理学療法評価学演習Ⅰ	理学療法評価の適切な実施には、評価方法に関する知識だけでなく、ある程度の熟練が必要である。そこで本実習では、理学療法評価学で学んだ知識と理解を基に、理学療法における各種検査の技術の習熟を図る。特に、基礎の基礎といえる関節可動域検査と徒手筋力検査に重点を置き、限られた時間内で迅速かつ的確な評価ができるような体捌きを身につける。また、ロールプレイングを行うことにより、患者とのコミュニケーションを含めた一連の評価過程を習得する。	共同
	理学療法評価学演習Ⅱ	理学療法の治療プランは、対象者の医学的・社会的情報や臨床症状をもとに評価項目を選択し、それらをもとに統合と解釈を行うことで対象者像をまとめるプロセスを経て作成される。本演習では、理学療法に関する代表的な疾患に対する評価方法を学修し、各検査測定項目の意義を理解する。仮想症例から得られる情報をもとに統合と解釈および考察を行うとともに、対象者像をまとめ理学療法プログラムの立案を行う。これらの実施を通して、臨床場面で求められる理学療法評価の臨床思考過程、評価技能の理解を目指す。	共同
	画像評価学演習	<p>(概要) 画像所見を読み取り、その所見から対象者の病態を把握することは、理学療法士及び作業療法士が対象者の評価を行う上で効果的かつ重要な事項である。本講義では、従来から行われているX線検査を中心とした放射線検査だけでなく、MRIや超音波画像の読影、心電図の判読に加え、動画を用いた対象者の動作分析手法を学ぶことで、包括的に対象者の病態を把握する技術の習得を目指す。講義の中では、各画像所見の背景にある疾患の病態や解剖生理学的知識及び対象者の画像情報と臨床所見との関連性の理解を促し、効果的な介入を行うための注意点やポイント、リスク管理を行う上で的確な情報収集方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32長谷公隆/7回) 画像評価学総論、内部障害の画像評価の理論について講義、中枢神経疾患の画像評価、動画を用いた動作分析の演習を行う。</p> <p>(10福島八枝子/1回) 運動器疾患の画像評価の理論について講義を行う。</p> <p>(22吉村匡史/1回) 脳画像からみた脳の構造と働きについて講義を行う。</p> <p>(10福島八枝子・32長谷公隆/4回) ・内部障害の画像評価、心電図の評価、運動器疾患の画像評価、超音波診断装置の評価の演習を行う。</p> <p>(3佐藤春彦・32長谷公隆/2回) ・小児疾患の画像評価の演習を行う。</p>	オムニバス・一部共同
	身体機能解析学演習	<p>(概要) DPで求められる「医学・医療の進歩に対応でき、最新の知識・技能を習得しようとする態度・習慣を身につける」ことを目的に、高度なテクノロジーを駆使して、身体機能を解析するための知識と技術を実習形式で学ぶ。本実習を通して、急速な医学・医療の進展や将来の社会的ニーズの変化に対応するための基礎を習得する。なお、本実習はグループワークでアクティブラーニングの要素を取り入れており、当該分野において5年以上の実務経験を有する教員が担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8宮本俊朗・16中條雄太・7福元喜啓/1回) (共同) ・オリエンテーション、身体機能解析機器の説明</p> <p>(8宮本俊朗・13森公彦・17梅原潤/1回) (共同) ・身体機能解析機器の説明</p> <p>(8宮本俊朗/4回) ・インピーダンス法を用いて1回拍出量および心拍出量の測定(心機能解析)を行う。 ・心拍変動係数およびスペクトル解析を用いた時リス神経の定量的解析(自律神経機能解析)を実施する</p> <p>(16中條雄太/2回) ・表面筋電図(動作筋電図)の原理、測定、解析、解釈の実習</p> <p>(7福元喜啓/2回) ・超音波画像診断装置を用いた筋量と筋の質的变化の評価、体組成・筋力との関連</p> <p>(13森公彦/2回) ・三次元動作解析と床反力計を用いた健常者の身体運動評価により、運動器系および神経系疾患のデータ解釈への応用を学ぶ</p> <p>(17梅原潤/2回) ・エラストグラフィを用い、ストレッチングと筋の柔軟性の関係を学ぶ</p> <p>(7福元喜啓・8宮本俊朗・13森公彦・16中條雄太・17梅原潤/1回) (共同) ・グループ発表、身体機能解析の発展性に関するプレゼンテーション・ディスカッション</p>	オムニバス・一部共同
専門科目			

運動療法学	運動療法は、臨床上、運動器障害、神経障害、内部障害に関わらず実施する事が多く、理学療法における中心的な介入方法の一つである。本科目では、ディプロマ・ポリシーで求められる「先端医療から地域支援まで幅広い領域で専門家としての役割を担うことができる」を目的に、各障害に対する運動療法の基本的な理論と方法について学び、安全かつ効果的な理学療法を実践するための基礎知識を習得する。本講義は当該分野において5年以上の実務経験を有する教員が実施する。	
物理療法学	物理療法とは、体外から物理的エネルギー(熱・水・光線・電気・徒手など)を適用する治療法である。本科目では、物理療法の目的と分類について整理し、物理療法の中の温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気刺激療法、牽引療法、振動刺激療法などが生体にどのような影響をおよぼすのか、どのような疾患に適用できるのか、禁忌となるのかについて生理学的、病理学的背景を踏まえて説明する。加えて、研究報告をレビューし、各治療法の最新知見や新技術等についても触れる。	
物理療法学演習	本実習では、グループで物理療法機器を用いた実験を行い、その実験を通して物理療法機器の操作方法ならびに生理学的作用と効果を学ぶ。また、学生が被験者となることにより、物理療法の理解を深める。具体的には、各グループが温熱療法、寒冷療法、電気刺激療法、光線療法、牽引療法、振動刺激療法の中から1つを選択し、その物理療法機器を用いた実験計画を作成する。そして、その実験をグループ間でローテーションして行い、すべての物理療法を経験する。	共同
日常生活活動学	(概要) 理学療法士・作業療法士は、対象者の生活機能に着目し、社会の中でその人らしく生活していくことを支援する。適切な支援を行うためには、日常生活活動(activities of daily living; ADL)の概念を理解し、専門的な観点に基づき評価と支援を実施するための知識を身につけることが必要である。「日常生活活動学」ではADLの基本的な概念を理解した上で、運動学的分析の視点や感覚・知覚・認知の側面から分析する視点について具体的に学習する。 (オムニバス方式/全15回) (24松島佳苗/3回) 日常生活活動(ADL)の概念(定義と歴史的背景、ADLとICFの構造、ADLとQOL)、ADLに関する代表的な評価に関して講義を行う。 (2池添冬芽/6回) ADLの運動学的分析(基礎知識および寝返り動作、起き上がり動作、立ち上がり・移乗動作、移動動作)、車椅子の基礎知識と車椅子操作、在宅でのADL支援に関して講義を行う。 (25中山淳/6回) ADLの生活行為の分析(食事動作、更衣動作、排泄動作、入浴・整容動作、家事動作、コミュニケーション、社会的交流)を中心に講義を行う。	オムニバス
日常生活活動学演習	日常生活動作自立のためには起居動作や移乗・移動動作といった基本動作能力の向上が不可欠である。そのため、本科目では特に寝返り、起き上がりや立ち上がり動作、移乗・移動動作といった基本動作を中心に、患者や高齢者に対する具体的なADL評価や指導、介助の実践について学ぶ。脳卒中片麻痺者、関節リウマチ、人工股関節置換術後、脊髄損傷やパーキンソンなど代表的な疾患を想定した実習を行い、疾患や障害の特性に応じた適切なADL支援方法について習得する。	共同
運動器理学療法学	運動器疾患は理学療法士が臨床で対象とすることが多いため、その病態や評価・治療法の理解は重要である。本科目では、これまで学修した解剖学、運動学、整形外科学などの運動器に関わる知識を基盤とし、骨折・脱臼や腱断裂・靭帯損傷、関節リウマチ、変形性関節症、末梢神経損傷などの主要な運動器疾患の理学療法について教授する。運動器疾患の発生病序や要因、病態や症状・ニーズを確認したうえで、基本的な理学療法評価および介入方法を学修する。	
運動器理学療法学演習	運動器に対する理学療法は、関節可動域制限や筋力低下といった障害の種類、関節・筋の部位や特性、および疾患の特性に応じて適切に提供する必要がある。本科目では、関節可動域練習や筋力増強運動といった障害別の理学療法の実践について、関節・筋の特性を踏まえて学修する。また、代表的な運動器疾患に対する基本的な理学療法評価および理学療法を関節ごとに学修し、さらに姿勢・動作の評価に基づいた理学療法の実践について学ぶ。	共同
神経理学療法学	(概要) 脳卒中を中心とした神経系疾患は、運動機能や感覚機能といった心身機能における障害が生じるだけでなく、様々な活動・参加の障害も招くことから、広く理学療法の対象疾患としてなっている。一方、脳機能局在やさまざまな脳内ネットワークの存在のために、対象者の病態は多岐に渡るため、個々の症例の病態を適切に把握し、個々の治療プログラムを立案・実施する必要がある。本講義では、脳卒中や神経筋疾患・脊髄疾患を中心とした神経系疾患患者に対する理学療法について教授する。特に、各疾患毎の病態に関する理解度を確認しながら、基本的な理学療法評価及び基本的な介入方法について、講義及びグループワークを中心に授業展開する。 (オムニバス方式/全23回) (9野添匡史/14回) ・脳卒中基礎病態、脳画像と機能障害の関係 ・合併症と理学療法、脳卒中後の機能回復メカニズム、急性期脳卒中の評価、急性期脳卒中の治療とリスク管理 ・神経・筋疾患、パーキンソン病の理学療法、脊髄損傷の病態と理学療法 (13森公彦/3回) ・高次脳機能障害と理学療法、運動失調の理学療法、頭部外傷の病態と理学療法 (12脇田正徳/6回) ・脳卒中の理学療法における評価(Impairment、Activity、Participation、動作分析、歩行分析) ・脳卒中の理学療法における治療	オムニバス

神経心理学療法 演習	脳卒中を中心とした神経系疾患は、運動機能や感覚機能といった心身機能における障害が生じるだけでなく、様々な活動・参加の障害も招くことから、広く理学療法の対象疾患としてなっている。一方、脳機能局在やさまざまな脳内ネットワークの存在のために、対象者の病態は多岐に渡るため、個々の症例の病態を適切に把握し、個々の治療プログラムを立案・実施する必要がある。本講義においては、これら脳卒中だけでなく神経筋疾患や脊髄疾患も含めた神経系疾患患者に対する理学療法について教授する。特に、本講義は神経系疾患に対する基本的な理学療法評価及び基本的な介入方法を学ぶことを目的とし、演習・実技を中心に展開する。	共同
呼吸循環代謝理 学療法	現代社会において、呼吸・循環・代謝障害は生活習慣病に起因することも多く、その有患者数は多い。本科目では、ディプロマ・ポリシーで求められる「先端医療から地域支援まで幅広い領域で専門家としての役割を担うことができる」を目的に、呼吸・循環・代謝をはじめとした内部障害を引き起こす主要疾患の病態、検査、治療および内部障害に対する理学療法を学ぶ。本講義を通して、内部障害患者が持つ多様な病態やニーズを把握し、質の高い理学療法を提供するための基礎知識を習得する。本講義は当該分野において5年以上の実務経験を有する教員が実施する。	
呼吸循環代謝理 学療法演習	呼吸・循環・代謝疾患に対する理学療法評価と運動療法を中心とした理学療法について、実習を通して実践的能力を涵養する。本実習を通して、呼吸・循環・代謝疾患を有する患者の疾患特異性を評価する手法を学修し、理学療法を模倣・実施するための基本的技能の習得を目指す。下肢切断の最も主要な原因は糖尿病および血管原性の下肢慢性創傷であることから、これらのリスク管理および理学療法介入について学修する。また、内部障害をもつ患者の心理と行動の特性を理解し、患者教育・療養指導の実際を学修する。	共同
義肢装具学	(概要) 医療を中心としたさまざまな領域で最適な義肢装具を選択できるようになるための必要な知識を教授する。義肢装具が生まれた歴史、義肢装具の基本的な考え方、などについて概説した後に、上肢と下肢に分けてそれぞれの評価方法と義肢装具の選択のためのポイントについて、具体例を挙げつつ説明する。また、杖や歩行補助具の適応について、歩行バイオメカニクスを踏まえたうえで、症例を挙げて説明を行う。さらに、先端的なスポーツ用義足やロボットスーツHALも紹介する。 (オムニバス方式/全8回) (2池添冬芽/3回) ・義肢総論(切断および義肢の概要と歴史、術後管理)、大腿・下腿切断と大腿・下腿義足、下肢装具の種類と適応 (27蓬萊谷耕士/3回) ・義足総論(装具の概要・歴史、機能と目的)、上肢切断と義手、上肢装具の種類とその適応 (ゲストスピーカー(義肢装具士)・6浅井剛/1回) ・義肢装具士による義肢装具作成への関わり、最先端の義肢と装具、スポーツ用義肢 (6浅井剛/1回) ・歩行バイオメカニクスと杖および歩行補助具(種類と適応)、ロボットスーツHAL	オムニバス
義肢装具学演習	理学療法士に必要とされる補装具(義肢、装具、歩行補助具等)について、適応からその使用方法や適合について説明する。講義で得た知識を実際の技術に結び付けるために、制作過程の見学、採寸、ギプス採型を行う。さらに、臨床能力を高めることを目的として、異常歩行について質的、量的な解析を行う。高機能化する補装具に関して、獲得した知識や技能を生涯にわたって学び続けられるための基礎的な知識を教授する。	共同
小児理学療法	小児理学療法では、小児を対象として実践されてきた理学療法の目的と歴史を概観しつつ、エビデンスに基づいた臨床の実践について論じる。小児といっても対象年齢は新生児期から成人期、あるいは高齢期まで幅広く捉え、理学療法の評価、予後予測、介入、効果判定を扱う。運動機能にのみ焦点を置くのではなく、ICFによる多角的な視点の中での理学療法士の役割を理解し、社会資源の活用や環境調整を様々なチームメンバーとコミュニケーションを取り支援を進める臨床実践について学ぶ。	
リハビリテーショ ン工学	(概要) リハビリテーション工学は、リハビリテーション医療および介護福祉の分野において用いられる工学的技術の理論と実践をまとめた臨床的学問である。近年の情報科学の進展にともなって、その適用範囲は急速に広がってきており、リハビリテーション分野において欠かせない学問領域となっている。そこで、本講義ではリハビリテーション工学における工学的な基礎知識および実践的な知識を身につけることを目的として、主に「カメラ・センシング技術」「歩行支援ロボット」「電動義手とコンピュータ制御義足」「人工筋肉」や「筋電図・筋音図」について、その理論と実践について概説する。 (オムニバス方式/全8回) (6浅井剛/2回) ・リハビリテーションにおける工学的考え方、リハビリテーション・介護における工学的技術の導入例の紹介、カメラ・センシング技術を用いた動作分析 (ゲストスピーカー(ATR研究員)・6浅井剛/2回) ・リハビリテーションと工学との接点、リハビリテーションロボットの紹介 (32長谷公隆/1回) ・臨床におけるリハビリテーション工学 (ゲストスピーカー(義肢装具士)・6浅井剛/1回) ・電動義手とコンピュータ制御義足 (25中山淳/2回) ・人工筋肉の紹介、筋電図・筋音図を用いた評価と臨床応用	オムニバス

リハビリテーション工学演習	リハビリテーション工学は、リハビリテーション医療および介護福祉の分野において用いられる工学的技術の理論と実践をまとめた臨床的学問である。近年の情報科学の進展にともなって、その適用範囲は急速に広がってきており、リハビリテーション分野において欠かせない学問領域となっている。本科目はリハビリテーション工学で学修した知識の定着を複数の課題実習を通じて行う。具体的には、近年リハビリテーション分野で急速に発展している、センシング・プログラミング、歩行支援ロボット等に関する実習を小グループ単位で実施する。	
スポーツリハビリテーション学	(概要) スポーツ選手が怪我に至るまでの背景や受傷機転を理解し、適切なスポーツリハビリテーションを実施するには、学習してきた解剖学や運動学などの知識を応用する必要がある。この科目では、こうした背景を再度確認しながら、代表的なスポーツ外傷・障害におけるメディカルリハビリテーションやスポーツ理学療法の手法を解説する。さらに、スポーツ活動支援、障害者スポーツや、脳認知科学および認知心理学的側面とスポーツスキルについて概説する。 (オムニバス方式/全8回) (10福島八枝子/3回) ・スポーツ外傷・障害(総論)、救急対応・応急処置、スポーツ外傷・障害とメディカルリハビリテーション (11田頭悟志/2回) ・スポーツ理学療法、スポーツ活動支援・障害者リハビリテーション (10福島八枝子・11田頭悟志/1回)(共同) ・テーピングの理論と実際 (153酒井浩/2回) ・脳・認知科学および認知心理学的側面とスポーツスキル	オムニバス・一部共同
理学療法特論	(概要) 本科目では、理学療法学の最新トピックスについて理解を深める。内分泌代謝領域、産業保健領域、小児理学療法領域、運動学領域、高齢者理学療法領域、および災害リハビリテーションにおける最新知見について教授する。既存の知識に留まらず新しい知見を学ぶことにより、卒業後も急速な医学・医療の進歩に対応し理学療法学を深化・発展させるための能力を身につける。 (オムニバス方式/全8回) (5野村卓生/2回) ・内分泌代謝領域における理学療法学の進歩、産業保健領域における理学療法学の進歩 (3佐藤春彦/2回) ・小児理学療法分野の最新トピックス:脳性麻痺児のフォローアップシステム、各種センサを使った乳児運動発達評価、運動学分野の最新トピックス:IOTによる日常生活活動評価 (6浅井剛/2回) ・地域高齢者を対象とした転倒リスクアセスメント (ゲストスピーカー(災害リハビリテーション活動に携わる理学療法士)・5野村卓生/2回) ・災害時におけるリハビリテーション専門職の役割/JRATについて/災害対策における地域コミュニティ・ネットワークの重要性 ・災害と避難行動/災害における防災・減災への備/災害時の介助技術、停電時機器使用、用具紹介	オムニバス
アシスティブテクノロジー学	作業療法では対象者の環境への適応を支援するために、福祉用具に代表される様々な用具・機器を活用する。近年の科学技術の進歩に伴い、対象者の生活を支援する用具・機器の開発は日進月歩であり、使用目的・方法に加え医学的知識に基づく専門的観点が必要とされている。本講義では、本邦の文化や諸外国との生活スタイルの違いを踏まえながら、疾患別で日常生活に必要なアシスティブテクノロジーを提供できる視点を身に付ける。 (オムニバス方式/全8回) (20種村留美/1回) アシスティブテクノロジーの概要とエプリデイテクノロジーについて概説し、本邦と諸外国の違いについて講義を行う。 (24松島佳苗/1回) 小児期の疾患に対するアシスティブテクノロジーの適応に関して、コミュニケーション、遊び、学習の支援を中心に講義を行う。 (29砂川耕作/4回) ・アシスティブテクノロジーと作業療法士の役割について、適応方法と導入の流れ、満足度の評価、リスクマネージメントに関する講義を行う。 ・認知症に対するアシスティブテクノロジーの適応に関して講義を行う。 ・片麻痺症例・高次脳機能症例に対するアシスティブテクノロジーの適応に関して講義を行う。 ・アシスティブテクノロジーの開発・研究と臨床での応用について紹介する。 (28橋本晋吾/2回) ・北欧におけるアシスティブテクノロジーの紹介を行う。 ・アシスティブテクノロジーの開発・研究と臨床での応用について紹介する。	オムニバス
認知症に対する作業療法	認知症が生じる疾患と病態、症状の背景などについて概説し、認知症の作業療法に必要な評価を実施する。さらに、高齢者が暮らしてきた生活様式を学んだうえで、生活の中での認知症の予防方法および認知症が生じてからの作業療法と生活支援について講義する。認知症作業療法については、新しい情報を入手すべく文献調査や現状をゲストスピーカーにより講義していただく。	※一部演習 講義10時間 演習 5時間

	神経発達症と作業療法	近年、神経発達症(自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、発達性協調運動症 等)は、小児リハビリテーションの対象として増加してきている。「神経発達症と作業療法」では、神経発達症に対する作業療法において代表的な理論・治療法の一つである感覚統合理論・療法について演習を通して学ぶ。また、作業療法士が関わることが増えてきている学校教育機関との連携や学校における作業療法の役割についても学ぶ。	※一部演習 講義10時間 演習 5時間
地域 理 学 療 法 学	地域理学療法学	理学療法士の活動の場は医療施設だけでなく、いわゆる地域へと広がっている。本講義では、地域リハビリテーションおよび地域理学療法の概念を説明したうえで、障害のある人々や高齢者およびその家族を地域において支援する制度や具体的な支援方法、地域における理学療法士の役割を概説する。さらに、予防分野および認知症におけるリハビリテーションや、住環境・福祉用具の実践についても説明し、地域理学療法学を考究するための基本的な知識・技術・態度を養う。	
	高齢者理学療法学	(概要) 急速に進行する高齢社会において、高齢者が住み慣れた地域で生活するために、高齢者を社会レベルおよび個人レベルの異なる視点から理解した上で理学療法を実施する必要がある。社会レベルでは、高齢社会の抱える社会的な課題について概説し、地域包括ケアにおける取り組み(通いの場)の在り方について教授する。個人レベルでは、在宅生活に必要な高齢者の心身機能の評価、そして評価に基づくアプローチについて、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションにおける理学療法の実践例を示しつつ説明する。また、近年、高齢者の健康問題として話題になっているフレイルや在宅における転倒などについても紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (2池添冬芽/6回) ・高齢者に関する疫学データ、高齢者の定義、生物学的老化と社会的老化、老年症候群、老年期における個人および社会の課題、地域包括ケアにおける取り組み(通いの場など)、フレイル高齢者に対する理学療法、通所リハビリテーションにおける評価と実際、訪問リハビリテーションにおける評価と実際 (6浅井剛/9回) ・在宅生活における高齢者の健康問題:フレイルとサルコペニア、転倒、嚥下障害、尿失禁、低栄養、在宅生活に必要な高齢者の心身機能の評価(運動機能、日常生活動作、生理機能、精神・心理機能)、在宅高齢者に対する理学療法:筋力トレーニング、バランストレーニング、持久力、歩行トレーニング、身体活動促進に対するアプローチ、マサアプローチ、転倒予防トレーニング	オムニバス
	地域理学療法学演習	(概要) 地域における様々な活動場面において必要とされる理学療法士の役割および基本的な知識・技術について学ぶ。具体的には地域支援事業やヘルスプロモーション事業における事業計画策定や活動展開および在宅生活支援など、地域理学療法の実践を体験することによって、地域理学療法実践の基礎的能力を養う。また、グループワークやグループディスカッションを通して、地域理学療法を実践するにあたっての問題・課題解決能力を養う。 (オムニバス方式/全15回) (2池添冬芽/2回) ・地域支援事業の実際(転倒予防、認知症予防、フレイル予防等)、健康増進・ヘルスプロモーションの実際(メタボリックシンドローム予防、腰痛予防等) (12脇田正徳/1回) ・地域における生活支援の実際(通所・訪問リハ、他職種連携等) (2池添冬芽・3佐藤春彦・12脇田正徳/12回)(共同) ・地域支援事業の実際のグループワークおよび発表、健康増進・ヘルスプロモーションの実際のグループワークおよび発表、生活支援の実際のグループワークおよび発表	オムニバス・一部共同・集中
臨床 実 習	臨床見学実習	関西医科大学の附属医療機関において、理学療法の実践場面や、理学療法士と他の医療専門職との協働場面を見学する。急性期から地域・在宅までにおける理学療法の専門性や対象となる疾患・障害、多職種における理学療法士の役割について実際の場面を通して理解するとともに、社会人としての基本的態度を身につける。さらに、実習施設の組織概要や、本学附属医療機関の特色である先端医療技術を用いたリハビリテーションの概要について理解する。	共同
	臨床評価実習	専門基礎科目や理学療法評価学の講義・演習で学んだ内容を基盤に、指導者の指導のもと、臨床場面において対象者に基本的な理学療法評価を行えるようになることを目的とする。関西医科大学の附属医療機関において臨床実習を行い、医療人・社会人としての基本的態度や対象者との適切なコミュニケーション能力を見につけるとともに、指導者の指導のもと、理学療法の評価計画の立案および実践、それらの結果の統合と解釈を行い、問題点を抽出する過程を習得する。	共同
	臨床地域リハビリテーション実習	近年、地域リハビリテーションのニーズは増加傾向にあり、理学療法士の活動の場も医療施設だけでなく地域へと広がっている。本実習では、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解し、地域生活に必要な医療・保険・福祉サービスや生活環境の整備に関する知識・技術を習得する。また、地域生活の支援に携わる関連職種に関しての理解を深め、対象者が地域生活を送る上での資源と課題について整理を行うことで、地域リハビリテーションに関する理解を深める。	共同
	総合臨床実習Ⅰ	理学療法士としての臨床的判断や適切な対応を行うために必要な素地を習得し、理学療法を実践する上での一連の過程を学習する。本実習では、指導者の指導のもと実施した理学療法評価の結果を統合・解釈することで対象者の障害像をまとめ、治療目標の設定および治療プログラムの立案を行う。また、指導者が行う治療プログラムを模倣することで、評価に基づいた理学療法を行う過程についての理解を深める。	共同

		<p>総合臨床実習Ⅱ</p> <p>理学療法士としての臨床的判断や適切な対応を行うために必要な素地を習得し、理学療法を実践する上での一連の過程を学習する。本実習では、指導者の指導のもと、理学療法評価および統合・解釈を行うことで、治療目標の設定および治療プログラムの立案を行い、指導者が行う治療プログラムを模倣する。また、治療経過をもとにした対象者の再評価および治療プログラムの変更を行い、臨床における理学療法について体系的な理解を深める。</p>	<p>共同</p>
--	--	---	-----------

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部 作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的思考の基盤	基礎ゼミ	<p>(概要) 本科目では、大学教育課程で学ぶ上で必要な知識・技術を習得していくために求められる基礎的能力を養う。特に、人の健康に対して理学療法士・作業療法士が果たす役割について自ら思考・探求する力を身に付けることにより、健康全般に関する応用的思考能力を身に付け、自身の考えをまとめレポートやプレゼンテーションを通して的確に伝えるための手段を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (16佐藤春彦/2回) ・学部全体オリエンテーション、課題を含めた講義の概要の説明、臨床実習における心がまえに関して説明する。 ・レポートの記載方法について、レポートの構成や先行研究などの文献活用について講義を行う。</p> <p>(17中野治郎・6松島佳苗/1回) (共同) ・学科オリエンテーション(前半は学科ごと)とIPEの説明(学部全体)を行う。IPEグループにおけるメンバー間での自己紹介を実施する。</p> <p>(16佐藤春彦・26森公彦・10橋本晋吾・12山下円香/4回) (共同) ・医療現場における理学療法士・作業療法士の役割について臨床見学実習での体験に基づきIPEのグループ内にてディスカッションを行う。また、グループディスカッションの内容を全体に発表するための準備を行う。発表準備に必要なスライド作成や発表方法に関する指導はグループごとに行う。</p> <p>(理学療法学科・作業療法学科教員全員/6回) (共同) ・医療現場における理学療法士・作業療法士の役割についてグループで話し合った内容をまとめて発表を行う。 ・大学での学習姿勢に関して小グループでディスカッションを行い、自身の学習態度について考える機会を設定する。 ・レポートの記載方法に関する演習を小グループで行う。レポートの作成を行う上で、文献検索を行い必要な情報を収集したり、内容を深めるためのディスカッションを行う。</p> <p>(6松島佳苗/1回) ・ポートフォリオの概要についての説明をし、ポートフォリオ作成演習に必要な内容について講義を行う。</p> <p>(6松島佳苗・10橋本晋吾・26森公彦/1回) (共同) ・ポートフォリオの作成演習を行い、自身のポートフォリオを作成する。</p>	オムニバス・一部共同
	統計学	<p>情報化社会には様々なデータがあり、統計学の知識はこれらのデータを読み取り、理解した上で重要となる学問である。データを正しく理解することができれば、そこから得られる情報を研究や臨床現場で活用していくことができる。本講義では統計学の基本的な知識や、保健・福祉・医療の領域で必要となる統計の知識を身につける。具体的には、データの種類について学習し、統計量の計算方法や図表の読み取り、作成について理解する。また、得られたデータの一部分からデータ全体を推測する方法や得られたデータについて仮説を立てて検討する方法について学ぶ。</p>	共同
	情報処理技術	<p>情報モラル・インターネットの基礎やパソコンの機能と仕組みを理解したうえで、基本的なソフトウェア(Word、Excel、Power Point)などを用いたパソコンの具体的な活用能力を育成する。ソフトウェアを用いて、論理的な文章構築、データ分析、プレゼンテーション資料の作成ができることを到達目標とする。さらに、プログラミングの基礎についても学修する。</p>	共同
	研究方法論	<p>(概要) 研究とは何か、研究の方法にはどういったものがあるのか、研究にまつわるこうした事柄について学修することは、医学の世界に留まらず、これからの社会で活躍するために必要不可欠である。本科目では、保健学における研究とは何かを概説した上で、セラピストが関わることが多い疫学、社会学、工学の分野における研究方法のエッセンス(疫学を中心とした研究デザインや質的研究など)を、実例を交えて教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (19浅井剛/2回) ・オリエンテーション、研究とは何か、研究方法について(PECOの考え方)、リサーチクエストの設定、保健学における工学的研究の方法 (5三木恵美/1回) ・質的研究および記述的研究について (37甲田勝康/5回) ・疫学概念、疫学研究と疫学データの解釈、疫学の指標とその算出方法(演習)</p>	オムニバス
	生物	<p>本講義では、医療に携わる者として、生命現象を理解するとともに、最低限備えておくべき生物学的思考を身につける事を目標とする。また、生理学や解剖学といった専門科目を学ぶ上で必要となる基礎的な知識の習得を目指す。まず、生物の構造・機能や恒常性維持メカニズムを学習し、ヒトがどのようなしくみで生きることが出来るのかを理解する。また、発生、遺伝や生物進化の過程を学習することで、生物の多様性や生命現象の普遍性を学ぶことで「生きる」という生命の本質についても理解する。</p>	

認知科学	認知科学は、人の心の動きから行動が引き起こされるメカニズムを明らかにしようとする学問であり、心理学、言語学、哲学、脳科学など様々な領域から発展してきた。リハビリテーションにおいても、様々な認知機能障害によって生じる日常生活あるいは社会生活上の障害に対して支援を行う。そのため、注意・記憶・実行機能(遂行機能)障害などを理解するために必要な認知科学的基礎知識をここでは学習する。	
物理	(概要) 物理とは自然現象の根本原理を理解する学問であり、リハビリテーションの現場において遭遇する多くの現象や用いる機器・手法などにも物理の知識でよく理解できるものが非常に多い。物理を知ることによって、経験的に行われる作業を理屈で理解できたり、直接目にした現象の背後にあるメカニズムを考えたり、ある状況で起こるはずのことを事前に予測できたりする。この講義では、物理のこうした実践的な面に的を絞り、基礎から学修する。高等学校で物理を履修していない、もしくは基礎物理履修程度の学生を前提に講義を進める。具体的には、物理学の基本的な概念や原理・法則を、簡単な計算を通じ理解する。またリハビリテーションの実際の局面で知っておく役に立つ物理的な考え方の基本を様々な例から学び、身につける。 (オムニバス方式/全15回) (43楠本邦子/8回) ・単位と次元、ベクトル、力のつり合い、運動の表し方、運動の法則、いろいろな運動、仕事とエネルギー、運動量、剛体、弾性体、流体、光と電子、放射線 (44栗川知己/7回) ・熱、気体分子の運動、波の表し方と進み方、音波、光波、静電場、電流と磁場、電流と磁場、直流通路、交流回路	オムニバス
化学	生体内の活動の多くは化学的現象によって説明することができ、化学は自然界にある物質を説明する上で重要となる学問である。医学領域では医薬品の合成などにおいて、化学的な知識が役立てられている。本講義では、外部環境や生体内に起こる変化について、化学的な観点から学ぶことにより、身体の機能の仕組みや病態を理解していくために必要な科学的思考力を身に付ける。特に、栄養学や薬学に関する基本的な知識はリハビリテーションを学ぶ上でも重要であり、化学の基礎を学ぶことによって、これらの学問をより深く学ぶことができる。	
心理学	人は生物的(biological)、心理的(psychological)、社会的(social)な存在である。人の身体と精神(心)は密接に関連し、行動に結びついている。心理学は人の内面と行動を研究対象とする学問である。本講義では、感覚・知覚、記憶(認知機能)、学習、感情、人の発達、パーソナリティ、ストレスと健康など、医療人として必要な心理学の基礎的な理論と概念を、医療とも関連づけながら概説する。	共同
倫理学	「倫理」とは、さしあたり「人間が社会の一員として守るべきルール」と理解することができる。この点で「倫理」は「道徳」と近い意味を持つ。「倫理」や「道徳」というと、なんだか説教臭いと反感を覚えるかもしれない。そこで、本講義は動物という身近な題材を通じて倫理学の諸問題を考える。人間は動物の一種である。また他の動物と同じく環境世界を生きる。この点で、人間は動物に似た存在である。他方、人間は伝統的に「言葉を持つ」という点で、動物とは異なるとされて来た。つまり、動物と人間には似たようなところがあると同時に、異なるところがある。こうした曖昧な存在である動物について考察することは、人間とはそもそもどのような存在なのかということを考えるきっかけとなる。本講義では、動物について考えることから見えてくる倫理学上の諸問題に焦点を当てることで、「われわれ自身がいかにか生きるべきか」ということを各自に考えてもらうことを狙いとする。	
健康科学	(概要) 生活習慣の変化、特に利便性の向上による運動不足が深刻である。生活習慣病の予防や健康寿命を延ばすためには、早期からの一次予防が重要となる。そこで、自分自身の生活習慣を見直し、スポーツやレクリエーションを生活の一部にするような運動習慣の獲得が望ましい。本講義では「健康」をテーマに、健康づくりや疾病予防の課題と解決方法を学修する。具体的には、運動不足や肥満といった生活習慣、スポーツ医学、運動処方、運動生理、トレーニング理論について理解することを目標とする。 (オムニバス方式/15回) (57木村穰/2回) ・健康科学概論:健康の基本概念を学ぶとともに、生活習慣病や危険因子について理解する。最近のトピックス:健康に関する最新の情報を学ぶ。 (36黒瀬聖司/8回) ・「歩く」と「走る」の違いや健康との関連、体組成と健康の深い関係、発育発達における運動の意義と効果 ・体力とトレーニング科学、運動処方の考え方、運動やスポーツによる血管機能、自律神経への効果 ・サルコペニア・フレイルと筋の科学、運動の認知機能、気分・感情への効果 (36黒瀬聖司・24田頭悟志/5回)(共同) 筋力、柔軟性、筋持久力、バランス機能の測定と評価、瞬発力、敏捷性、全身持久力の測定と評価、運動・スポーツ実習	オムニバス・一部共同 ※一部演習 講義:20時間 演習:10時間
教育学	あなたは「教育」とは「よいものだ」と思うだろうか。思っているとしたら、それはなぜだろう。思っていないとしたら、それはなぜだろう。あるいは、「自分は教育を受けることで本当に「よくなったのだろうか」と問うてみたことはあるだろうか。その際、「よい」とはどのように判断されるのだろうか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえない重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものである。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見である。そしてまた、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみようとする。これらを通して、各々が「教育」について考えを深め、人々の生活や人々が生きる社会の中での「教育」を捉え返すことができるようにしたい。	※一部演習 講義:22時間 演習:8時間
医療経済学	2017年度の国民医療費は43.1兆円と、10年前と比較して23.6%の増大を記録している。この趨勢は今度も続くことが予測されており、医療分野においてもサービス提供の効率化、さらには経済学的思考に基づく制度改革の必要性が求められている。本講義では、我が国の医療制度の特色を学び、その上で喫緊の政策課題である医療費抑制に向け、現状としてどのような要因が指摘されているかを説明する。最終的な目的として、これら要因の改善に向けて、どのような施策が経済学的に有効かを理解する。	

	哲学	本講義「哲学」の目的は人間存在について理解を深めることである。そのために、今回は動物の存在を考察することを切り口とする。動物が歴史の中でどのように理解されてきたかということ概観することで、動物と人間の存在を区別することはできるかということ各自を考えてもらうことを主眼とする。動物も人間も共に苦しみを引き受けねばならないという点では同一である。しかし、人間存在の場合は、この受苦の可能性は、究極的には人間特有の死との関わり方に求められる。以上のような理解を呈示することで、それぞれが医療者として生命に関わる際の糧としてもらうことが本講義の主眼となる。	
	社会学	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、個人の行為や役割、集団における規範や秩序といった社会学の基礎知識とともに、医療・福祉、家族・子ども、貧困などといった個別領域の議論をとりあげて解説していく。	
社会の理解	基礎英語	グローバル化社会の中で人々とコミュニケーションを図り、相互理解を深めるために英語の聞く・話す・読む・書くの4つの技能を高めることは不可欠である。近年、医療現場においても国際化が進んでおり、リハビリテーションにおいても英語を介したコミュニケーション能力が求められる。そのため、日常生活の中での英語表現に親しみ、英語を介して人間関係・援助関係を構築するための基本的なコミュニケーション能力を身につける。将来的には、英語圏での留学や研修に参加することも視野に入れ、英語の基本的な技能であるリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングスキルの向上をめざす。	
	コミュニケーション論	理学療法士、作業療法士は人と接することを基本とした医療専門職である。対象者を支援していく上では良好な関係性が不可欠であり、言語・非言語における相互性のコミュニケーションが成立する必要がある。本講義では、対象者とその家族との関係づくりを中心に、人と接することの基礎について学ぶ。そして、コミュニケーションに関する最新の研究から得られる知見をふまえて、人との関わり方の在り方についての知識を深める。	
	医学英語	グローバル化の中で活躍できるスキルを身につけるためには、基礎英語で学んだスキルを実践的に向上させることが必要となる。そのため、医療に関する専門用語を理解し、国内外における様々な生活や健康・環境問題等について自己の考えを発表し、ディスカッションできる能力を身につける。特に、医療で用いられる専門用語を習得し、医学やリハビリテーションに関する英語文献から必要な情報を得ることができるようになることを目指す。また、医療現場で使用される基本的な会話表現についても学ぶ。	
	グローバルコミュニケーション	英語をより実践的に使える力にするために異文化を理解し、自分の考えをプレゼンテーションする技術と能力を身につける。そのため、英語圏に短期研修やホームステイを想定した実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに、関心のある国際学会に参加することを旨とし、グローバルに活躍するための素地を身につける。	
	中国語	中国語の目標は、中国語初習の学習に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りすることにある。発音を中心とする授業により、ピンイン表記と発音のしかたを身につけた上で、挨拶や感謝、自己紹介、簡単な質問等の表現を運用できるようになること、さらに文法の基礎を身につけることを到達目標とする。発音の練習を授業の中で重点を置いて進め、中国語の美しさを学生に実感させる。発音段階が終われば、基礎的な文法知識も語彙を習得する。	
	韓国語	韓国語は、 한글 (ハングル)という文字とそれによる発音を体系にした言語です。言語体系は日本語と非常によく似ているので、4カ月ほど勉強すれば簡単な自己紹介や、手紙を書けるようになります。韓国語の文字と発音から始めて、韓国語の基礎を学ぶこととなります。特に、韓国語のハングルによる文字と発音の数は日本語に比して非常に多いため、しっかり学習します。また、基礎教養科目である本授業では、言語のみならず、世界に広がりつつある韓国のk-popやドラマと映画などを期末に視聴覚教材として活用します。	
	フランス語	フランス語を用いて日常会話を理解し、簡単なコミュニケーションができるよう授業を進めます。またフランス映画などフランス文化に触れることにより、多文化理解や異文化理解の一助とする。日本国内、または海外においてフランス語を話し、積極的にコミュニケーションを図れることを目指します。	

解剖学 I	<p>(概要) 人体を構成する細胞、組織、各臓器の形態・構造について学び、健康の回復や維持増進に向けた支援を理解する素地を身につける。そのため、機能形態学を基本とし、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系など各系統における医療に実践に必要な解剖学を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47北田容章/3回) ・解剖学総論、解剖学用語と人体の区分、人体の構成(細胞、組織、器官、器官系、個体)、人体の発生(胚子の発生、器官系の発生、胎児の発生、出生後)</p> <p>(14飯田寛和/2回) ・骨学総論、関節靭帯総論、筋学総論</p> <p>(32長谷公隆/3回) ・神経系の区分、神経系の構成、髄膜と脳室系、神経系の発生、脊髄、脳幹、小脳、大脳、神経路</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・外皮、視覚器、平衡感覚器、嗅覚器、味覚器</p> <p>(48細野光治/1回) ・内臓器官の基本構造、循環器系(血管系:心臓)</p> <p>(49桑内慎太郎/1回) ・循環器系(血管系、リンパ系)</p> <p>(50齊藤朋人/1回) ・呼吸器系(鼻、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺)</p> <p>(51山木 壮/1回) ・消化器系(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜)</p> <p>(52矢西正明/1回) ・泌尿器系(腎臓、尿管、膀胱、尿道)、生殖器系(男性生殖器、女性生殖器、会陰)</p> <p>(38豊田長興/1回) ・内分泌系(ホルモンと標的器官、内分泌腺の種類)</p>	オムニバス
解剖学 II	<p>理学療法士や作業療法士にとって重要な器官である、運動器(筋骨格系・神経系)に焦点を当て、形態・構造について学び、健康の回復や保持増進に向けた支援を理解する素地を身につける。そのため、機能形態学を基本とし、骨系、関節靭帯系、筋系、神経系など各系統における医療に実践に必要な解剖学を、頭部・体幹・上肢および下肢といった部位別に学修する。</p>	
生理学 I	<p>(概要) ヒトの生命の維持は、様々な器官が複雑に関連しながら、外界や体内の変化に対応することによって成り立っている。理学療法士や作業療法士にとって、このような人体の仕組みと機能について理解することは重要である。生理学 I では、生理学の概念を理解したうえで、細胞の構造と機能、神経の興奮伝導と末梢神経、中枢神経系、筋と骨、感覚、および血液について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(55福田尚代/2回) ・生理学とは、身体の階層性、生命現象、水、ホメオスタシスと負のフィードバック</p> <p>(41武藤 恵/2回) ・細胞の構造と機能:細胞膜、核、細胞小器官、静止電位と活動電位</p> <p>(53上田康雅/3回) ・神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類、自律神経、シナプスにおける興奮の伝達、聴覚・平衡感覚・体性・内臓感覚</p> <p>(33中村加枝/2回) 中枢神経系とは、脳梁、脳室と脳脊髄液・血液脳関門、脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核と大脳皮質</p> <p>(42倉岡康治/1回) ・脳の高次機能、視床と視床下部、辺縁系</p> <p>(39田口周/2回) ・筋の分類、骨格筋、心筋、平滑筋、骨</p> <p>(54安田正治/1回) ・感覚とは・視覚・味覚と嗅覚</p> <p>(56小原圭吾/2回) ・血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血漿、血液型</p>	オムニバス

人体の構造と機能及び心身の発達

<p>生理学Ⅱ</p>	<p>ヒトの生命の維持は、様々な器官が複雑に関連しながら、外界や体内の変化に対応することによって成り立っている。理学療法士や作業療法士にとって、このような人体の仕組みと機能について理解することは重要である。生理学Ⅱでは、心臓と循環、呼吸とガスの運搬、尿の生成と排泄、酸塩基平衡、消化と吸収、内分泌系、代謝と体温、生殖の発生・成長と老化、および運動生理学について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(74服部文幸/3回) ・血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図、血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性、心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換、静脈還流、臓器循環、リンパ循環</p> <p>(41武藤 恵/2回) ・外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動、呼吸気量、ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸</p> <p>(75人見浩史/2回) ・腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシス</p> <p>(72林 美樹夫/2回) ・消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割</p> <p>(33中村加枝/2回) ・内分泌機能とホルモン、各腺から分泌されるホルモンの作用</p> <p>(42倉岡康治/1回) ・栄養素、エネルギー代謝、体温</p> <p>(75玉田恵子/2回) ・男性生殖機能、女性生殖機能、受精、着床、胎児の発生、成長と老化</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化</p>	<p>オムニバス</p>
<p>生理学実習</p>	<p>(概要) 生理学で学んだ知識を、各種計測機器を用いた実験・実習で体験することによって、人体の機能と調節機構について理解を深める。個々の現象における生理学的背景を理解するとともに、それらが統合された生体の反応を学ぶことにより、人体のしくみと機能について統合的に理解することを目的とする。具体的には、脳機能の生理学、心臓の電気活動、呼吸機能と酸素飽和度、感覚および血圧と心拍、神経筋生理学、運動負荷試験について実習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(4吉村匡史・24田頭悟志・27福島卓矢・39田口 周・36黒瀬聖司/6回) (共同) ・実習を行うにあたってのオリエンテーション、実習後のグループ発表および講評とまとめ</p> <p>(4吉村匡史/4回) ・脳波による脳機能の理解</p> <p>(24田頭悟志/4回) ・心電図による心臓の電気活動の理解</p> <p>(27福島卓矢/4回) ・呼吸機能と酸素飽和度の測定</p> <p>(36黒瀬聖司/8回) ・感覚の生理学および血圧と心拍、運動負荷試験の原理と評価法</p> <p>(39田口 周/4回) ・誘発筋電図による神経筋生理学の理解</p>	<p>オムニバス・一部共同</p>
<p>運動学Ⅰ</p>	<p>運動学は解剖学、生理学、心理学、栄養学、生体力学など、様々な学問分野の知識の上に成り立っている。運動学Ⅰにおいては、関節運動のメカニズムの理解を中心におく。本講義では、座る、立つ、歩くといった日常生活で見られる運動や、生命を支える呼吸運動のメカニズムを論じる。解剖学、生理学で培った人体の構造、中枢神経、末梢神経と筋収縮の知識を統合して、理学療法および作業療法の実践に向けた正常運動、異常運動についての理解を深めることを目標とする。</p>	

運動学Ⅱ	<p>(概要) 運動学Ⅱにおいては、人の身体もロボットも、物体としては同じく物理的法則に従って運動するとみなす。そうすることで、人の姿勢や運動を剛体として客観的に記述し、力学に基づいて解釈できる。本講義では、力学を中心に生理学も関連づけ、剛体と重心、関節モーメントと筋張力、関節パワーと筋の収縮形態、筋活動と筋電図、運動のエネルギー供給システム、各種運動分析装置(重心動揺計、三次元運動分析装置、加速度計、床反力計、筋電計、筋力測定器)の概要を論ずる。本講義によって、リハビリテーションの臨床で患者の異常運動を客観的に記述し、その原因を力学および生理学に基づき解釈する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16佐藤春彦/14回) ・運動力学(剛体とは)、筋骨格系のトルク(重心とは)、運動法則、運動計測、力とトルク、静力学的解析、運動計測装置、筋の収縮形態と力、筋電図学、歩行運動の記述、異常運動のメカニズム:手の運動異常、異常運動のメカニズム:歩行、運動制御</p> <p>(19浅井剛/1回) ・運動のエネルギー供給システム</p>	オムニバス
運動学実習	<p>(概要) 運動学Ⅰ、運動学Ⅱで学修した知識をもとに、体表解剖の技術および、各種計測装置を使った運動分析を実際に体験することで、運動学に対する理解を深める。座面圧力分析装置と重心動揺計を用いた座位・立位の安定性の評価、三次元動作解析装置を用いた歩行分析、筋電図を用いた上肢運動の分析、および呼気ガス分析装置を用いた運動処方手法を習得し、臨床の問題解決に応用する下地を作る。また、実験結果を論理的に考察し説明できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16佐藤春彦・19浅井剛・28山縣桃子・30梅原潤・7中山淳・9蓬萊谷耕士/1回)(共同) ・実習を行うにあたってのオリエンテーション</p> <p>(16佐藤春彦・7中山淳/6回)(共同) ・体表解剖の知識と触診技術(上肢・下肢)</p> <p>(30梅原潤/2回) ・座位および立位姿勢の安定性(座面圧力センサ、重心動揺計)</p> <p>(28山縣桃子/2回) ・歩行分析(三次元動作解析)</p> <p>(9蓬萊谷耕士/2回) ・上肢運動(把持動作)の分析(筋電図)</p> <p>(19浅井剛/2回) ・運動処方(トレッドミル、エルゴメーター、呼気ガス分析装置)</p>	オムニバス・一部共同
人間発達学	<p>発達とは環境との相互作用を通して、構造や機能が分化し、成熟していく過程である。「人間発達学」では、発達の主要な原則を学ぶことにより、発達の観点から人間の様々な機能を理解し、発達の障害を支援するために必要となる基礎的な知識を身に付ける。本科目では、特に発達が目覚ましい乳幼児期を中心に学び、ライフステージ全体を通した人間の発達を体系的に学習する。</p>	
臨床心理学	<p>現代社会において、こころの問題はより身近なものとなってきている。対象者の心理的状态を理解し、適切な関りや基本的支援を提供するための知識を取得することは、理学療法士・作業療法士においても非常に重要である。本科目では、心理面の評価と心理療法の基礎を学ぶことにより、リハビリテーションにおけるこころの支援について理解を深める。</p>	
病理学	<p>(概要) 病理学は、疾病の原因とその成り立ち、生体に及ぼす影響等に関する学問であり、医学・医療の基礎ともいえる。本科目では、基本的な病気の原因、病気が各臓器・器官にどのような変化をもたらすかを理解することにより、各疾患に対する適切なリハビリテーション実践が可能になることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 葛 幸治/3回) 病理学の定義と歴史、変性、萎縮といった退行性病変と肥大と過形成といった進行性病変の病理学的特徴、腫瘍の定義と分類、腫瘍発生の原因と遺伝子変化について講義を行う。</p> <p>(83 葛 幸治/1回) 炎症の定義と分類、感染症の病理学的特徴について講義を行う。</p> <p>(84 石田 光明/1回) 糖代謝異常の病態、タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態、脂質代謝異常の病態について講義を行う。</p> <p>(86 上野 博夫/1回) 局所の循環障害(浮腫、梗塞など)と全身の循環障害(高血圧症など)の病態について講義を行う。</p> <p>(87 比 舎 弘子/1回) 免疫反応がもたらす疾患(アレルギー、自己免疫疾患など)の病態について講義を行う。</p> <p>(85 佐藤 智佳/1回) 染色体異常と遺伝性疾患の代表的疾患の病態について講義を行う。</p>	オムニバス

画像診断解析学	<p>(概要) 単純写真、X線CT、MRI、血管造影、IVR、核医学検査などの各種画像の成り立ちと正常像、ならびに代表的疾患における特徴像を学習し、リハビリテーション医学を实践するうえで必要な画像診断の基礎について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76谷川 昇/1回) ・放射線診断学概論:画像診断と被ばく防護</p> <p>(80黒川弘晶/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:骨軟部疾患</p> <p>(79本多 修/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:胸部疾患</p> <p>(81香西雅介/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:腹部疾患</p> <p>(82河野由美子/1回) ・CT・MRI診断の基礎と読影:頭頸部疾患</p> <p>(77宇都宮啓太/1回) ・核医学:核医学の原理と読影の基本</p> <p>(79狩谷秀治/1回) ・血管造影IVR:血管造影IVRの原理と基本</p> <p>(23福島八枝子/1回) ・超音波診断の基礎と読影</p>	オムニバス
---------	--	-------

<p>内科学 I</p>	<p>(概要) 内科学はヒトの健康を障害するすべての臓器・器官の疾患を対象とし、その診断から治療に至る過程を扱う、臨床医学の基盤である。理学療法士や作業療法士にとって、高齢化や内部障害リハビリテーションへのニーズから、内科学的視点をもって全身状態を把握する必要がある。内科学 I では、内科学の概念を理解したうえで、症候学、呼吸器疾患、血液・造血器疾患、アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症、感染症への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(58野村昌作/2回) ・内科学の概念、内科学とリハビリテーション、臨床検査、内科的治療</p> <p>(65西澤 徹/1回) ・診断・鑑別診断の進め方、カルテの書き方、診察法</p> <p>(63清水俊樹/1回) ・発熱、全身倦怠感、食欲不振・食思不振、悪心・嘔吐、易感染性、意識障害</p> <p>(66孫 瑛洙/1回) ・めまい、浮腫・むくみ、レイノー現象、頭痛、リンパ節腫脹、シヨック</p> <p>(59倉田宝保/1回) ・肺の解剖と生理、呼吸器疾患の症候とその病態生理</p> <p>(67吉岡弘鎮/1回) ・臨床検査所見、呼吸器疾患各論(感染性肺炎疾患、慢性閉塞性肺炎疾患)</p> <p>(68玉置岳史/1回) ・呼吸器疾患各論(びまん性汎細気管支炎、リンパ脈管筋腫症、気管支喘息、他)</p> <p>(69金田俊彦/1回) ・呼吸器疾患各論(肺循環障害、胸膜の疾患、他)、呼吸リハビリテーション</p> <p>(62伊藤量基/1回) ・血液の成分と生理、造血と血液細胞の分化、血液疾患の主要な症候、血液の検査法、血液疾患各論(赤血球の疾患、白血球の疾患)</p> <p>(70佐竹敦志/1回) ・血液疾患各論(リンパ細網内皮系の疾患、M蛋白血症、出血性疾患、血栓性素因)</p> <p>(60石浦嘉久/1回) ・アレルギー疾患(気管支喘息、花粉症、アレルギー性鼻炎、他)</p> <p>(64尾崎吉郎/1回) ・膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症</p> <p>(61宮下修行/1回) ・感染症総論、感染症各論(細菌感染症)</p> <p>(71尾形 誠/1回) ・感染症各論(真菌症、ウイルス感染症、原虫感染症、寄生虫病、プリオン病)</p>	<p>オムニバス</p>
--------------	--	--------------

<p>内科学Ⅱ</p>	<p>(概要) 内科学はヒトの健康を障害するすべての臓器・器官の疾患を対象とし、その診断から治療に至る過程を扱う、臨床医学の基盤である。理学療法士や作業療法士にとっても、高齢化や内部障害リハビリテーションへのニーズから、内科学的視点をもって全身状態を把握する必要がある。内科学Ⅱでは、循環器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、肝胆膵疾患などへの理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(88塩島一朗/1回) ・循環器系の解剖と生理、循環器疾患の主要な症状、循環器疾患の診断法</p> <p>(91山本克浩/1回) ・循環器疾患各論(高血圧症、低血圧症、虚血性心疾患)</p> <p>(92宮坂陽子/1回) ・循環器疾患各論(心筋疾患、弁膜症、先天性心疾患、心不全、不整脈)</p> <p>(89竹花一哉/1回) ・循環器疾患各論(肺性心、大動脈疾患、末梢血管障害)、心臓リハビリテーション</p> <p>(38豊田長興/1回) ・代謝、栄養素とエネルギー、糖質、蛋白質、脂質、ビタミン、無機質とその所要量</p> <p>(93岩崎真佳/1回) ・糖尿病、インスリンノーマ、脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風・高尿酸血症、骨粗しょう症、ビタミン欠乏症・過剰症、糖原病</p> <p>(94浮田千津子/1回) ・内分泌総論、内分泌腺とホルモンの解剖・生理、内分泌検査法</p> <p>(95野村恵巴子/1回) ・内分泌疾患各論(視床下部の疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患)</p> <p>(90今田崇裕/2回) ・腎臓の解剖と生理、腎疾患の症候とその病態生理、腎・泌尿器疾患の検査、腎・泌尿器疾患各論、電解質代謝の異常、腎臓リハビリテーション</p> <p>(97富山 尚/1回) ・消化管疾患の症候とその病態生理、消化管疾患の検査法</p> <p>(96吉田勝紀/4回) ・口腔、唾液腺、咽頭と嚥下作用、食道、胃、小腸、大腸、消化、吸収および排泄、消化管のホルモン調整、消化器疾患各論、肝臓、胆道系、膵臓、腹膜、検査・診断法、肝胆膵疾患各論</p>	<p>オムニバス</p>
<p>整形外科Ⅰ</p>	<p>(概要) 理学療法士や作業療法士にとって、運動器一般を理解することは重要なことであり、運動器疾患を扱う整形外科とは切っても切り離せない関係にある。整形外科Ⅰでは運動器の解剖と機能や検査・診断学および整形外科的治療法を理解したうえで、先天奇形、骨系統疾患、感染症、腫瘍、慢性関節疾患と循環障害、代謝性骨疾患・骨粗鬆症・骨密度、スポーツ医学などの整形外科疾患総論について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14飯田寛和/2回) ・運動器の基礎知識</p> <p>(23福島八枝子/9回) ・診断学、検査、保存療法、手術療法、周術期の管理、慢性関節疾患と循環障害、代謝性骨疾患・骨粗鬆症・骨密度、スポーツ医学</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・神経学的検査、痛みの評価、電気生理学的検査</p> <p>(132片岡浩之/1回) ・先天奇形、骨系統疾患</p> <p>(ゲストスピーカー(整形外科医)・23福島八枝子/1回) ・腫瘍</p> <p>(40菅俊光/1回) ・関節リウマチと類縁疾患</p>	<p>オムニバス</p>

整形外科学Ⅱ	<p>(概要) 理学療法士や作業療法士にとって、運動器一般を理解することは重要なことであり、運動器疾患を扱う整形外科とは切っても切り離せない関係にある。整形外科学Ⅱでは運動器の外傷(総論および各論)、末梢神経損傷、小児疾患、および部位別の疾患各論(脊柱の外傷・腫瘍・感染症・変性疾患、肩関節および上腕、肘関節・前腕・手関節および手指、骨盤・股関節および大腿、膝関節および下腿、足関節および足)について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(138 矢倉拓磨/2回) ・外傷</p> <p>(128 齋藤貴徳/1回) ・末梢神経損傷</p> <p>(132 片岡浩之/2回) ・小児疾患</p> <p>(135 足立 崇/1回) ・脊柱1(外傷)</p> <p>(136 石原昌幸/1回) ・脊柱2(腫瘍・感染症)</p> <p>(137 谷 陽一/1回) ・脊柱3(変性疾患)</p> <p>(138 山口拓嗣/1回) ・肩関節および上腕</p> <p>(129 堀井恵美子/1回) ・肘関節・前腕・手関節および手指1</p> <p>(130 浜田佳孝/1回) ・肘関節・前腕・手関節および手指2</p> <p>(131 爽 賢一/1回) ・骨盤・股関節および大腿1</p> <p>(134 中村知寿/1回) ・骨盤・股関節および大腿2 ・足関節および足</p> <p>(133 大野博史/1回) ・膝関節および下腿</p>	オムニバス
--------	--	-------

<p>臨床神経学Ⅰ</p>	<p>(概要) 神経疾患では運動麻痺・感覚障害、高次脳機能障害など日常生活に影響を及ぼす後遺症を生じる場合が多く、個々の障害に対するリハビリテーションが重要な役割を果たす。本講義では、リハビリテーションの対象となる神経疾患の病態生理や症候について学び、理学療法・作業療法を实践する上で必要となる臨床神経学の基礎的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32長谷公隆/3回) ・中枢神経系と末梢神経系の構成、脳機能と構造、錐体路徴候として錐体路を中心とした随意運動の発現機構 運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理について講義を行う。 ・運動失調の分類、小脳性運動失調と感覚性運動失調の症候について講義を行う。</p> <p>(110三木章子/2回) ・錐体外路徴候・不随意運動について大脳基底核の構造と機能、不随意運動の症候について講義を行う。 ・感覚障害に関して、感覚の受容機構と伝導路、感覚障害の症候について講義を行う。</p> <p>(40菅 俊光/2回) ・脊髄疾患に関して、脊髄の構造、機能局在と伝導路ならびに脊髄損傷の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(103中村正孝/2回) ・認知症の定義、アルツハイマー病など代表的認知症の病因・病態と診断・治療について講義を行う。 ・末梢神経障害の分類、ニューロパチーの病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(105金子 鋭/1回) パーキンソン病・パーキンソン症候群の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(109片岡優子/1回) 運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症、脊髄性筋萎縮症など)の病態・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(107飯田 慎/1回) 小脳萎縮症(脊髄小脳変性症など)の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(104近藤誉之/1回) 脱髄性疾患(多発性硬化症、視神経脊髄炎など)の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(108森勢 諭/1回) 髄膜炎・脳炎の病因・病態と診断・治療について講義を行う</p> <p>(106井谷公美/1回) 進行性筋ジストロフィー、筋無力症、多発性筋炎、代謝性筋疾患などの筋疾患の病因・病態と診断・治療について講義を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>臨床神経学Ⅱ</p>	<p>(概要) 神経疾患では運動麻痺・感覚障害、高次脳機能障害など日常生活に影響を及ぼす後遺症を生じる場合が多く、個々の障害に対するリハビリテーションが重要な役割を果たす。本講義では、「臨床神経学Ⅰ」で学んだ内容をふまえて、リハビリテーションの対象となる神経疾患の病態と診断、治療に関して学び、理学療法・作業療法を实践する上で必要となる基礎的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(112吉村晋一/5回) ・意識、見当識について講義を行い、JCSとGCSについて説明する。 ・脳循環代謝障害の病態に関して、脳循環、脳代謝、脳浮腫について講義を行う。 ・頭痛の分類、頭痛の病因・病態と診断・治療について講義を行う。 ・外傷性脳損傷の分類、外傷性脳損傷の病態と診断・治療、ならびに出血性脳血管障害の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(115武田純一/2回) ・神経系の電気生理学的検査(脳波など)、神経画像検査(脳・脊髄のコンピュータ断層撮影、磁気共鳴画像法)の基礎について講義を行う。 ・てんかんの分類、てんかんの病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(113羽柴哲夫/2回) ・悪性脳腫瘍の分類、悪性脳腫瘍の病態と診断・治療、ならびに良性脳腫瘍の分類、良性脳腫瘍の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(103中村正孝/2回) ・虚血性脳血管障害の病態と診断・治療、ならびに虚血性脳血管障害の神経局在について講義を行う。</p> <p>(2種村留美/4回) ・高次脳機能障害の症候(注意・記憶の障害、失認症・失行症)について講義を行い、失語症ならびに構音障害・嚥下障害に関して関西医科大学附属病院の言語聴覚士をゲストスピーカーとして招く。</p>	<p>オムニバス</p>

小児科学	<p>(概要) 小児科疾患では成人と異なる部分も多くあり、小児に特有の疾患を理解しておく必要がある。本講義では、療育という場面で理学療法士や作業療法士が関わることが多い小児領域の疾患、特に、小児神経の領域を中心に講義を行う。また、近年増加している早産児や低出生体重児に対するリハビリテーションで必要となる新生児や周産期の異常に関する知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (99石崎優子/1回) ・小児科学の概論、心身医学的疾患として小児の特徴、正常成長・発達、注意欠如・多動性症、自閉症、虐待などについて講義を行う。</p> <p>(100峰研治/1回) ・早産・低出生体重児・新生児・周産期にみられる異常、先天性心疾患、川崎病、染色体異常(21トリソミー、18トリソミー、13トリソミー など)の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・成長ホルモン分泌の異常、甲状腺疾患、副腎疾患、糖代謝異常、先天代謝異常などの病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・脳性麻痺、先天異常、てんかん、神経感染症の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・血液疾患、小児がんの病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(101赤川翔平/1回) ・先天性免疫不全症、アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎、喘息など)、呼吸器疾患、呼吸器感染症の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(98木全貴久/1回) ・腎泌尿器疾患・膠原病:腎疾患(ネフローゼ症候群、急性腎炎、尿路異常、尿路感染症など)、膠原病の病態と診断・治療について講義を行う。 ・低出生体重児、早産児にみられる疾患、新生児・周産期にみられる異常とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p> <p>(102藤井喜充/1回) ・遺伝性疾患、消化器感染症の病態と診断・治療について講義を行う。</p> <p>(23福島八枝子/1回) ・小児の整形疾患(小児の骨折)とリハビリテーションについて講義を行う。</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・中枢神経疾患(脳性麻痺、二分脊椎、てんかん)の病態とリハビリテーションについて講義を行う。</p> <p>(16佐藤春彦/2回) ・小児を対象とした呼吸理学療法の実践を含め、中枢神経疾患(脳性麻痺、二分脊椎、てんかん)のリハビリテーションの実践について講義を行う。 ・低出生体重児、早産児にみられる疾患、新生児・周産期にみられる異常とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p> <p>(3加藤寿宏/2回) ・知的能力障害の症候とリハビリテーションの実践、ならびに自閉スペクトラム症の症候とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p> <p>(6松島佳苗/1回) ・注意欠如・多動性症、限局性学習症、発達性協調運動症の症候とリハビリテーションの実践について講義を行う。</p>	オムニバス
精神医学	<p>精神機能の障害は、長期にわたり当事者や家族の生活に影響を及ぼすことが多いため、適切なリハビリテーションを提供することが必要である。本科目では、精神医学の基礎を学ぶことで、リハビリテーションを行う上で必要となる精神症状や精神疾患に関する知識、その治療や対応等に関する基礎知識を習得し、精神医学における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。</p>	

公衆衛生学	<p>(概要) 集団の健康問題を解決するためには、健康状態や疾病罹患状況ならびに疾病要因の把握が重要であり、保健統計に関する基礎知識が必要となる。本科目では現代社会の社会的背景をふまえて人の健康増進、疾病予防に医療専門職である理学療法士・作業療法士として寄与することができるようになるため、人の健康な生活の基盤にある公衆衛生に関して、その概念を含めた知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(115西山利正/2回) ・公衆衛生学概論と歴史について講義を行う。 ・感染症とその予防に関して、感染症の定義、感染症法、予防接種法、検疫法について講義を行う。</p> <p>(116神田靖士/2回) ・人口統計(静態統計と動態統計)、生命表、保健統計(出生と死亡)、疾病統計について講義を行う。</p> <p>(118村上由希/7回) ・食品保健と公衆衛生栄養について講義を行う。 ・生活環境の保全に関して、地球温暖化、大気汚染、地球環境、住環境、ごみ・廃棄物について講義を行う。 ・医療の制度に関して、医療保険、公費負担制度、医療制度、高齢者医療制度について講義を行い、高齢者の医療と福祉に関して、介護保険を中心に講義を行う。 ・地域保健活動に関して、地域保健法、医療法、救急医療について講義を行う。 ・精神保健福祉に関して、精神保健医療福祉の法制度、自殺対策、依存症対策、精神障害者の社会復帰施策について講義を行う。 ・障害者福祉(障害者総合支援法)と難病対策(難病法)について講義を行う。</p> <p>(37甲田勝康/3回) ・母子保健に関して、母子保健サービス、子育て支援、児童虐待防止、女性の健康支援について講義を行う。 ・学校保健に関して、学校保健制度、学齢期の健康、関連法規と関連団体、保健教育、保健管理、近年の重要施策について講義を行う。 ・産業保健に関して、健康に影響を与える労働環境、労働衛生管理、職業病とその対策について講義を行う。</p> <p>(117下笠敬紀/1回) ・生活習慣病に関して、生活習慣病の概念と現状、中高年者に多い疾患の予防、健康づくり施策(成人保健と健康日本21)について講義を行う。</p>	オムニバス
老年医学	<p>高齢化社会の到来により、医学・医療の分野においても老年医学や高齢者医療が注目され、高齢者に対する正しい理解と適切な支援が望まれている。高齢者の健康と豊かな生活を考える上では、心身機能の問題だけではなく、家庭環境や社会環境など幅広い視点が必要となる。本講義では、加齢に伴う様々な機能の変化や、高齢者に特徴的な症候を中心に老年医学の基礎的な知識を習得する。</p>	
臨床薬学	<p>(概要) 薬物は生体との相互作用により様々な現象を引き起こす。近年では、ヒトゲノム解析が進展し、薬物治療の個別化とその質の向上も注目されている。作用機序や作用・副作用など薬物療法の基礎的な知識を習得し、薬物の生体に対する作用を理解することは、理学療法士・作業療法士がリハビリテーションを行う上でも重要である。本科目では、リハビリテーションに関連する薬物療法の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4吉村匡史/2回) ・薬物治療に関して、薬の種類と特徴、主作用と副作用、有害事象について講義を行う。 ・中枢神経薬に関して、精神疾患治療薬(統合失調症、うつ病)、睡眠薬、抗不安薬、認知症やてんかんの治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(121武内孝太郎/1回) ・中枢神経薬に関して、パーキンソン病、脳梗塞、脳出血の治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(122河合謹也/1回) ・呼吸器・代謝・内分泌疾患の治療薬に関して、気管支喘息、骨粗鬆症、慢性閉塞性肺疾患、ホルモンの治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(123野瀬 彩登美/1回) ・消化器と腎・泌尿器系疾患の治療薬に関して、便秘と下痢、利尿薬、腎不全の治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(124谷口真也/1回) ・自律神経作用薬として、交感神経薬物と副交感神経薬物について講義を行う。</p> <p>(120大谷ひとみ/1回) ・循環器作用薬として、高血圧、心筋梗塞、心不全の治療に用いる薬物について講義を行う。</p> <p>(119平井希俊/1回) ・抗炎症薬と抗がん薬について講義を行う。</p>	オムニバス

救急医学	<p>(概要) 医療現場においては、患者が突然に意識障害、呼吸停止、心停止、もしくはこれらに近い状態に陥る可能性が少なくない。急病やケガが起こった場合、患者の状態は時間の経過とともに悪化し、医師が現場に到着するまでのわずかな数分が予後を大きく左右するといっても過言ではない。そのため、医療従事者である理学療法士や作業療法士は、正しい応急手当の知識と技術をもって、適切な手当を行うことが必要である。本講義では、基本的な救急医学の知識および心肺蘇生法を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(125 鎌方安行/3回) ・救急医療体制、ショック、侵襲と生体反応</p> <p>(126 室谷 卓/4回) ・心肺蘇生法とその学術的根拠、内因性救急疾患、熱傷、外傷、一次救命処置実習(心肺蘇生)</p> <p>(127 梶野健太郎/1回) ・災害医学</p>	オムニバス
臨床栄養学	<p>リハビリテーション医療では、さまざまな疾患、病態の成因、経過、治療に関わる栄養について学ぶ必要がある。そこで対象者個々の疾患、病態、心身状態に対して適切な栄養管理を行うための、栄養の基礎(栄養素の役割や代謝、栄養補給ルート、栄養ケア計画とプロセス)や主な病態・疾患別の栄養療法を修得する。また、教員の病院管理栄養士としての実務経験からリハビリテーション栄養の実践について学ぶ。</p>	
先端リハビリテーション医学	<p>(概要) 本科目は、リハビリテーション医学における先端的なトピックスについて紹介する。医学的観点に基づいた脳神経・筋やヒトの動きに関する研究や臨床応用は、盛んに行われている。本科目では、本学リハビリテーション医学講座が実施している、ボツリヌス毒素療法、経頭蓋電気刺激、人工知能といった先端研究及び臨床応用について、医学的視点から論じる。既存のリハビリテーション医学の知識を基本としながらも、その枠にとらわれず、より新しい知見に基づいたリハビリテーション体系を創造する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(32 長谷公隆/5回) ・先端リハビリテーション概論(運動制御理論の展開)、動作分析と人工知能、リハビリテーション・ロボット、ニューロモジュレーション、ボツリヌス毒素療法におけるリハビリテーション</p> <p>(39 田口 周/1回) ・複合現実技術の臨床応用</p> <p>(40 菅 俊光/1回) ・機能的電気刺激</p> <p>(ゲストスピーカー(ATR研究員)・32 長谷公隆/1回) ・ブレインマシンインターフェイス</p>	オムニバス
リハビリテーション概論	<p>(概要) リハビリテーションは、患者あるいは障害者の地域社会生活を支援する上で、複数の制度や機関で提供されている。理学療法士・作業療法士が果たす役割は、複雑化するリハビリテーションのサービス体系の中で多様化している。本講義では、リハビリテーションの医療における役割と理念、障害モデルを学んだ上で、近年のリハビリテーションの概要を学び、理学療法士・作業療法士の社会における役割を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(14 飯田寛和/1回) ・医療におけるリハビリテーションの役割について講義を行う。</p> <p>(32 長谷公隆/3回) ・障害モデルに関して、国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)について講義を行う。 ・リハビリテーションの段階と領域に関して、医療施設、障害者支援、地域社会におけるリハビリテーションについて講義を行う。 ・関西医科大学附属病院におけるリハビリテーションセンターの取り組みについては、関西医科大学附属病院リハビリテーションセンターの理学療法士をゲストスピーカーとして招く。</p> <p>(15 池添冬芽/2回) ・リハビリテーションにおける理学療法士の役割、ならびに理学療法士の活躍の場と実践例について講義を行う。</p> <p>(2 種村留美/2回) ・リハビリテーションにおける作業療法士の役割、ならびに作業療法士の活躍の場と実践例について講義を行う。</p>	オムニバス

<p>医療専門職総論</p>	<p>(概要) 関西医科大学で医療専門職を目指す者として、本学の歴史・建学の精神や地域特性について学び、人々の健康な生活を支える医療専門職の役割や責務について理解する。リハビリテーション学部・医学部・看護学部の3学部において、症例を想定したグループディスカッションを実施する。本学3学部が養成する医師・看護師・理学療法士・作業療法士に加え、言語聴覚士・薬剤師や管理栄養士などの医療専門職の専門性・役割・責務を理解した上で、お互いを尊重した関わりができるようになるための土台作りを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(理学療法学科・作業療法学科全教員/10回) (共同) 医学部・看護学部との合同合宿により、人々の健康な生活を支える医療者としての相互理解を深める。</p> <p>(ゲストスピーカー(関西医科大学学長)、17中野治郎/1回) 本学の設置場所である枚方市について理解を深める。</p> <p>(17中野治郎、26森公彦、5三木恵美、10橋本晋吾、12山下円香/7回) (共同) ・グループディスカッションによって医療チームの構成や役割分担を理解し、提示された症例についてまとめ、グループ発表を行う。 ・医師・看護師・理学療法士・作業療法士や、言語聴覚士・薬剤師や管理栄養士などの役割を理解する</p> <p>(ゲストスピーカー(関西医科大学理事長)・17中野治郎/1回) ・関西医科大学の歴史や現状・未来について理解を深める。</p> <p>(ゲストスピーカー(他大学研究者)・17中野治郎/1回) ・世界の医療界における最先端の研究開発について理解を深める。</p>	<p>オムニバス・一部共同</p>
<p>リハビリテーション医学</p>	<p>(概要) リハビリテーションには、あらゆる疾病・疾患で引き起こされる障害に対する適切な治療とその後の生活を支援するための幅広い知識・技術が必要とされる。効果的なリハビリテーション医療を実践する上で、理学療法士・作業療法士はチーム医療の一員として、リハビリテーション医学の知識を身に付けることが不可欠である。本講義では、リハビリテーション医学の概要を学ぶと共に高齢化社会における予防や健康増進におけるリハビリテーションの役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(32長谷公隆/3回) ・リハビリテーションの処方、リハビリテーション医学における運動学習、リハビリテーションのための治療的課題設定について講義を行う。</p> <p>(39田口 周/2回) ・急性期、回復期、生活期における脳血管障害におけるリハビリテーション医療について講義を行う。 ・心臓リハビリテーションを含む、循環器のリハビリテーション医療について講義を行う。</p> <p>(40菅 俊光/1回) ・整形疾患のリハビリテーションを含む、運動器のリハビリテーション医療について講義を行う。</p> <p>(111小倉久幸/2回) ・呼吸器リハビリテーションを含む、内部障害のリハビリテーション医療について講義を行う。 ・リハビリテーション医学における予防と健康増進について講義を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>国際保健</p>	<p>(概要) 世界のグローバル化、新興国の経済発展、情報科学技術の伸展など、世界の社会情勢の変化は著しい。こうした状況下で、国際保健が扱う健康の諸問題は日々変化している。例えば、疾病構造の変化に伴う保健活動の複合化、世界的な高齢化など、従来存在しなかった数多くの健康にかかわる問題が現れている。こうした世界の健康問題の理解には、国際保健に関わる基礎知識の習得が必要不可欠である。そこで、本講義では、国際的保健分野で働く人としての基礎的素養を身につけることを目的にその入門的内容を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(23福島八枝子/3回) ・国際社会における疾病構造の変化と医療モデル、世界の高齢化、世界の健康(欧米)</p> <p>(2種村留美/4回) ・世界の健康(アジア・アフリカ)、ワークショップ(異文化体験)、国際的な国家間の健康格差、グローバルヘルスにおける問題</p> <p>(ゲストスピーカー(海外で介護分野のNGO活動をしている専門家)・2種村留美/1回) ・海外の介護分野におけるNGO活動</p>	<p>オムニバス</p>

医療福祉連携論	<p>(概要) リハビリテーション専門職の活躍の場は医療施設だけでなく地域にも広がっており、退院後の地域生活における支援や予防分野での活躍が求められている。本科目では、地域において重要となる医師、理学療法士、作業療法士や介護支援専門員、ソーシャルワーカー、保健師のそれぞれの視点からの医療・福祉やリハビリテーションについて解説する。さらに、多職種連携の実践例に関するグループディスカッションを通じ、医療・福祉の専門職の役割や連携の必要性和意義を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(23福島八枝子/1回) ・医療から地域生活、予防医学</p> <p>(ゲストスピーカー(介護支援専門員)・8宮原智子/1回) ・介護支援専門員の視点から考えるリハビリテーション</p> <p>(ゲストスピーカー(ソーシャルワーカー)・8宮原智子/1回) ・ソーシャルワーカーの視点から考えるリハビリテーション</p> <p>(ゲストスピーカー(看護学部)・8宮原智子/1回) ・保健師の視点から考えるリハビリテーション</p> <p>(15池添冬芽/2回) ・保健・福祉領域における理学療法の実践、保健・福祉領域の多職種連携における理学療法士の関わり</p> <p>(8宮原智子/2回) ・作業療法士による福祉領域での支援の実践、多職種連携の実践に関する事例検討(グループディスカッションによるアクティブラーニング)</p>	オムニバス
がんリハビリテーション学	<p>(概要) がんや治療に伴う障害像の特徴を把握し、リハビリテーションを進める上で必要な基礎知識を学ぶとともに、評価と治療介入に関する基礎的知識を学習する。多職種チームアプローチにより実践されるがんリハビリテーションにおいて、理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について理解する。病院での実践に加え、外来・介護保険サービス・就学/就労支援におけるがんリハビリテーションの必要性を理解し、新たな実践の可能性について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4吉村匡史/2回) ・がんリハビリテーション概論、ならびに心のケアとがん患者とのコミュニケーションについて講義を行う。</p> <p>(5三木恵美/3回) ・周術期のリハビリテーションに関して、乳がん・脳腫瘍(高次脳機能障害に関する内容を含む)を中心に講義を行う。 ・介護保険・CRCI・CRF・CIPNに関する内容を含め、在宅支援と就労・就学に対するリハビリテーションについて講義を行う。 ・緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーションについて講義を行う。</p> <p>(27福島卓矢/3回) ・周術期のリハビリテーションに関して、呼吸困難に関する内容を含め、開胸開腹術・頭頸部がん・骨軟部腫瘍・脊髄腫瘍を中心に講義を行う。 ・化学療法・放射線療法中・後のリハビリテーションに関して、造血幹細胞移植・骨転移・悪性腫瘍を中心に講義を行う。 ・リンパ浮腫に対するリハビリテーションについて講義を行う。</p>	オムニバス
チーム医療演習	<p>総合臨床実習を行うにあたって、3年次までの学内講義や臨床実習科目を振り返り、チーム医療における理学療法士と作業療法士の役割を確認する。また、医療チームを構成する医師・看護師や、言語聴覚士・薬剤師・管理栄養士などの医療専門職の役割を学ぶ。リハビリテーション学部・医学部・看護学部の3学部でのグループディスカッションを通じて症例を想定した多職種連携について学び、保健・医療・福祉のさまざまな分野における医療専門職の役割や責務や多職種連携の重要性について理解する。</p>	共同・集中
国際リハビリテーション学	<p>(概要) 世界的な医療レベルの向上、社会保険制度の整備、高齢化により、世界的に医療モデルは転換期を迎えている(身体を治す医療から生活を支える医療への変換)。このような国際的な状況の変化のもと、疾患後の生活を支えるリハビリテーションの医療は国際的に高まっている。本講義では国際リハビリテーション領域で活動するために必要な知識を伝えることを目的として、リハビリテーション領域における国際的な活動の事例紹介やワークショップをオムニバス形式で行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19浅井剛/2回) ・オリエンテーション、国際感覚を身につけるために必要なこと(言語、文化、宗教)、ワークショップ(国際協力)</p> <p>(ゲストスピーカー(海外で活躍するセラピスト)・19浅井剛/1回) ・海外で活躍するセラピストの事例紹介(青年海外協力隊、在外病院)</p> <p>(23福島八枝子/2回) ・欧米におけるPhysical Medicine and Rehabilitation専門医の現状、海外におけるスポーツ医局の紹介</p> <p>(2種村留美/3回) ・途上国のリハビリテーションの現状と課題(ASEAN諸国およびアフリカ、南米)、WFOTとWCPT、世界における文化の違いを考えた地域リハビリテーションを考えてみよう</p>	オムニバス

	作業療法概論	<p>(概要) 作業療法について、その歴史と核となる概念ならびに社会的役割について学び、作業療法に関する理解を深める。社会的変化や医療の進歩に伴い、作業療法士に求められる役割も推移してきていることから、多様な実践課程を知ることが必要がある。本講義では、国内・外の作業療法に関して現在の取り組みに関する実践例と今後の展望についても紹介する。本講義では、グループディスカッションや発表といったアクティブ・ラーニングを行うことで、作業療法に関して主体的に考える機会を提示する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5三木恵美/3回) ・講義の概要説明(課題、成績評価を含む)、グループディスカッションのグループ発表 ・作業療法に関するアクティブ・ラーニング(グループディスカッション 1、2) ・緩和ケアにおける作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(2種村留美/6回) ・作業療法の定義、リハビリテーションにおける作業療法の役割、作業療法実践における基本的手順と支援対象 ・国内外の作業療法の歴史と今後の展望(作業療法の成立、国際社会の中の日本の作業療法)について講義を行う ・老年期における作業療法の取り組みを紹介する ・身体障害領域における脳機能に基づく作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(11砂川耕作/1回) ・テクノロジーを活かした身体障害領域の作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(7中山淳/1回) ・リハビリテーション工学における身体障害領域の作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(3加藤寿宏/1回) ・国内の小児リハビリテーションの取り組みを作業療法の観点から紹介する</p> <p>(6松島佳苗/1回) ・国外の小児リハビリテーションの取り組みを作業療法の観点から紹介する</p> <p>(13林良太/1回) ・精神科における作業療法の取り組みを紹介する</p> <p>(2種村留美・5三木恵美/1回)(共同) ・作業療法に関するグループ発表を実施する</p>	オムニバス・一部共同
	基礎作業学	<p>基礎作業学は、作業の分類・要素・効果など作業療法の専門性と質の充実において中核となる学問である。基礎作業学では作業療法を実践学として捉え、作業の概念に関する知識、作業の分類・要素に関する知識を身に付ける。人が何らかの障害によって作業の遂行に問題を生じた時、その遂行を支援するための分析が不可欠である。講義の中では複数の作業を比較分析しながら、作業を分析する視点とその方法について具体的に学ぶ。</p>	
	基礎作業学実習 I	<p>作業療法で用いられる代表的アクティビティについて、実際の制作体験を通して基本的な制作技法、材料、道具、作業環境について学ぶ。さらに、「基礎作業学」の講義で学んだ分析の視点に基づき、感覚運動機能、認知機能、心理社会的機能の側面から各アクティビティの作業特性を比較分析し、その治療効果や適応と段階付けの方法について考察する。「基礎作業療法実習 I」では、木工、陶芸、刺し子の制作実習を行う。</p>	共同
	基礎作業学実習 II	<p>作業療法で用いられる代表的アクティビティについて、実際の制作体験を通して基本的な制作技法、材料、道具、作業環境について学ぶ。さらに、「基礎作業学」の講義で学んだ分析の視点と「基礎作業学実習 I」で取得した分析方法に基づき、感覚運動機能、認知機能、心理社会的機能の側面から各アクティビティの作業特性を比較分析し、その治療効果や適応と段階付けの方法について考察する。「基礎作業療法実習 II」では、タイルモザイク、革細工、籐細工の制作実習を行う。</p>	共同
	作業療法研究論	<p>対象者を適切に理解し、より良い作業療法の支援技術を開発し、その効果を客観的に検証していくためには研究が必要となる。医療技術の進歩は日々めざましく、リハビリテーションの領域においても新技術が導入され、より高度な知識・技術が求められている。本講義では、研究方法論で学んだことを基盤として、作業療法における研究についてさらに知識を深める。</p>	
	作業療法研究演習 I	<p>作業療法の発展を目指す上で必要となる研究とは何かを思考し、研究テーマに沿って研究計画を立案する一連の過程を実践的に学ぶ。「研究方法論」、「作業療法研究論」で学んだ内容に基づき、文献レビューを行い、各自がテーマとする研究領域で主に用いられている研究手法や報告されている先行研究の成果を整理し、自身が行う研究の研究意義と目的について検討する。</p>	共同
	作業療法研究演習 II	<p>作業療法研究演習 I で作成した研究計画書に基づき、各自の研究テーマに関する研究を実施する。予備的研究の必要性を理解し、必要に応じて研究計画書の内容に修正を加える。得られたデータを解析・分析し、必要に応じて統計解析を用いる。結果をまとめて中間報告として発表する機会を設けることで、得られたデータを客観的に捉える思考を身に付ける。</p>	共同

作業療法総合演習	臨床実習を経験した上で、これまで学習した知識を整理し、作業療法士の社会的役割や医療専門職としての専門性を加味して、知識を体系化する。また、子どもから高齢者に至るまで、個々のニーズに対応した質の高い作業療法を提供する人材となるために、専任教員の指導を通して不足している知識・技術を補い、さらに高い実践応用の能力を身につける。	共同
卒業研究	作業療法研究演習ⅠならびⅡにおける実践的な学習を通して、各自のテーマに沿って実施してきた研究を論文の構成に従って卒業論文にまとめる。研究発表会で、各自の研究の概要(背景・目的・方法・結果・考察・結論)を報告し、研究内容についての質疑応答を行う。卒業論文と研究発表会を通して、研究成果の報告の仕方ならびにその意義について学ぶ。	共同
理学療法概論	本講義では理学療法士にとって必要不可欠な基礎的知識や理学療法士の全体像について学ぶ。理学療法(士)の定義や歴史、法律について概説したうえで、医療、保健福祉、スポーツ現場といった様々な活動領域において理学療法士に求められる役割・機能を理解する。理学療法の理論や概念、基本的な知識・技術および接遇・コミュニケーションなどについて説明し、理学療法(士)の概観を理解することを目的とする。	
緩和ケアにおけるリハビリテーション	緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に同定し適切に評価し対応することを通して、苦痛を予防し緩和することにより、患者と家族のQuality of Lifeを改善する取り組みである(WHO; 2002)。緩和ケアは「病気の時期」や「治療の場所」を問わず提供されるものであり、がんと診断された時からその対象となる。また近年では、緩和ケアの対象疾患は心不全、神経難病、認知症などにも広がりをみせている。本科目では、3年次で履修した「がんリハビリテーション学」を踏まえ、緩和ケアに関してその概念、対象となる症状、対処法などについてより広く理解することを目的とする。	※一部演習 講義10時間 演習 5時間
スポーツと作業療法	近年、スポーツ脳科学という分野が新しく生まれ、スポーツスキルを脳科学的に可視化するという取り組みが注目されている。作業療法は、道具を操作する過程で生じる様々な事象を科学的に捉え、それを治療的に応用するという特色を有している。これはスポーツにおける競技スキルにも応用可能であり、スポーツにおける自己と道具と操作対象およびそれを取り巻く環境を脳認知機能の視点で分析し、介入戦略を提示することが、対象者としての選手の失敗や苦手意識といった問題を解決するという側面の一助となりうる。「スポーツと作業療法」ではスポーツという作業を作業療法的視点で分析し、介入戦略を立案するために必要な知識を学習する。	※一部演習 講義10時間 演習 5時間
作業療法管理運営学Ⅰ	(概要) 作業療法の実践が人を対象とする以上、作業療法に携わる作業療法士は、高度な知識・技術とともに高い倫理性を併せ持たなければならない。さらに、作業療法の実践には安全性が保証されていなければならない。本講義では作業療法の管理・運営の中でも特に常に意識実践しなければならない倫理的な態度および安全管理(インシデント、感染対策)と情報管理(診療録管理、個人情報保護 等)に関して学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (3加藤寿宏/3回) 作業療法をとりまく関連法や制度、作業療法の職業倫理、作業療法におけるリスクマネジメントに関する基本的内容について講義を行う。 (11砂川耕作/5回) 作業療法の臨床実践において不可欠である感染対策、情報管理について基本的な内容を講義する。さらに、急性期・回復期など携わる時期における業務管理の内容の違いについても講義を行う。精神科における業務管理については、関西医科大学総合医療センターの作業療法士をゲストスピーカーとして招く。	オムニバス
作業療法管理運営学Ⅱ	(概要) リハビリテーション・作業療法部門において質の高い治療を実践するには、一人一人の能力のみでなく、組織全体として能力を高める必要がある。組織の能力を最大限に発揮させるにはリーダーの役割が重要となる。本講義ではリハビリテーション・作業療法部門のリーダーとして必要な管理・運営・教育に関する知識や実践法について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (3加藤寿宏/全3回) 作業療法の管理運営におけるリーダーシップとマネジメント、人事労務管理、教育システム(生涯教育・キャリアパス)に関して講義を行う。 (7中山淳/全2回) 作業療法の教育システム(臨床実習指導)、作業療法部門を立ち上げる上で重要となる作業療法施設基準と経営管理に関して講義を行う。 (3加藤寿宏・7中山淳/全3回)(共同) 作業療法施設基準と経営管理に関するグループワークを行い、グループ発表の機会を設定する。	オムニバス・一部共同・集中

作業療法評価学	作業療法評価学 概論	<p>(概要) 効果的な作業療法を行う上で、適切な評価の実施は不可欠である。本講義では、作業療法における評価の目的と位置づけを学び、作業療法評価の基礎となる知識と医療専門職として評価を行う際の基本的姿勢を身に付ける。また、作業療法評価の種類と概要、各評価を実施する上での留意点について知識を習得し、作業療法の領域において発展してきた理論とその理論に基づく評価法について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2種村留美/全4回) ・オリエンテーション、情報収集について、検査・測定について、統合と解釈、クリニカルリーズニング、治療目標についての講義を行う。</p> <p>(5三木恵美/全4回) ・作業療法の理論と評価、評価の種類、再評価と効果判定、記録、面接について、観察についての講義をおこなう。</p>	オムニバス
	身体障害系作業療法評価学・演習	<p>(概要) 身体障害領域の作業療法における評価の考え方を学び、基本的な検査・測定の意義・目的及び技能を習得する。また、作業療法評価を実施する上で必要となる、対象者への挨拶・態度・説明・リスク管理などの基本的姿勢を習得する。評価を実施する上では、基本的な検査・測定の結果に影響する要因について考察することも重要であり、実践的演習を通して様々な要因を考察する機会も提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(①福井信佳・11砂川耕作/全4回) (共同) ・オリエンテーションならびに身体障害領域の作業療法における評価についての総論として講義を行う。 ・身体障害領域の作業療法における検査・測定の意義と目的について講義を行う。</p> <p>(7中山淳・11砂川耕作・9蓬菜谷耕士/全22回) (共同) ・関節可動域測定の概要説明・実技指導、徒手筋力検査の概要説明・実技指導、知覚検査の概要説明・実技指導、反射検査の概要説明・実技指導、片麻痺に対する検査の概要説明・実技指導、上肢機能検査に関する概要説明・実技指導を実施する。</p> <p>(①福井信佳・7中山淳・9蓬菜谷耕士・11砂川耕作/全4回) (共同) ・関節可動域測定、徒手筋力検査に関する実技試験と個別フィードバックを実施する。</p>	オムニバス・一部共同 ※一部講義 講義20時間 演習40時間
	精神障害作業療法評価学・演習	<p>(概要) 精神障害領域の作業療法の治療、訓練、援助を実施するために、対象者を適切に評価することは不可欠である。本科目では、精神障害領域の作業療法の評価について学ぶ。精神障害領域の評価の具体的な方法についての講義と、一部の評価方法については実際に学生同士での演習を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(4吉村匡史・5三木恵美・13林良太/全3回)(共同) 本講義に関するオリエンテーション、精神障害領域の評価の実践について事例を用いたグループディスカッションを実施する。</p> <p>(4吉村匡史/全2回) 統合失調症、気分障害といった代表的な精神疾患について理解を深める。 精神機能や症状に関する評価について医学的な観点から講義を行う。</p> <p>(13林良太/全18回) 精神障害領域における評価方法に関して、観察、面接、そして認知機能や社会機能に関する評価を学ぶ。また、気分と疲労状態や行動に関する評価についても学び、ICFを用いて対象者の評価をまとめることを学習する。実際の評価の実践に関しては、グループワークなどを取り入れて行う。また、「臨床現場での評価の実際」として精神障害領域の作業療法をゲストスピーカーとして招く。</p>	オムニバス・一部共同 ※一部講義 講義14時間 演習32時間
	発達障害作業療法評価学・演習	<p>(概要) 発達に障害がある対象児・者に対する作業療法では、正常発達を理解した上で、発達の過程を支援する必要がある。そのため、人の正常発達の分析は、その障害に関する評価を行う上でも重要となる。発達障害領域の作業療法の対象となる疾患・障害は多様であり、標準化された検査の実施が困難な重度な障害の事例もある。しかし、障害像を明確にし、治療効果を客観的に検証するためには、標準化された検査を実施することが有用な場合も多い。本講義では、人の発達過程の分析と発達検査、中枢神経障害による運動障害、神経発達症による協調運動障害、感覚処理障害、認知障害、行動障害に関する評価方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(3加藤寿宏/7回) ・講義の概要説明、発達障害領域における作業療法の代表的な対象疾患(脳性麻痺、筋疾患、神経発達症)に関して講義を行う。 ・作業療法に必要な正常発達(新生児期~12カ月)の知識について、反射・反応も含めて講義を行う。</p> <p>(3加藤寿宏・6松島佳苗/16回) (共同) ・上肢機能の発達と口腔機能の発達、分析演習、姿勢反射・反応の分析演習、姿勢運動分析演習(姿勢筋緊張)、標準化された検査の概要(標準得点、発達年齢、パーセントイル値)と発達検査、家族面談・情報収集と評価のプロセスについての演習を行う。</p>	オムニバス・一部共同 ※一部講義 講義14時間 演習32時間

高次脳機能障害 作業療法評価 学・演習	<p>(概要) 脳血管障害によって生じる高次脳機能障害に関する基礎知識は、臨床で遭遇する頻度が高い障害といえる。また高次脳機能障害は、麻痺や筋力低下とは違って、目には見えない障害と言われており、あらかじめ知識として持っておくことで、評価が可能となる。この授業では脳の働きと関連させながら高次脳機能障害の基礎知識を学び、それを踏まえて高次脳機能障害それぞれに対する評価方法を学び、実施し、その結果を適切に解釈できるようにする。この科目では講師が用意した事例データ(レジュメ・動画)を基にした臨床推論過程の演習を行い、より実践的なアセスメント能力の習得を目標とする。また、このような実際の情報をもとにして結果の解釈・統合・仮説としての推論過程については、アクティブラーニングを活用した問題解決型グループ演習とその討議の場を設け、学生自らが考え、意見を交換しながら考えを深められるような学びの場とする。</p> <p>(2種村留美・12山下円香/3回)(共同) ・脳の構造と働きおよびその障害 ・脳画像から見た高次脳機能障害の予測について</p> <p>(11砂川耕作・12山下円香/12回)(共同) ・高次脳機能障害の評価(注意機能・半側空間無視・記憶機能・視覚認知機能・行為と生活動作上の障害・失行・脱抑制と社会性の障害)</p>	共同 ※一部 講義 講義10時間 演習20時間
画像評価学演習	<p>(概要) 画像所見は対象者の生活場面上の特徴を示しうる情報であり、ここで予測される症状を特定するためにはレントゲン画像や脳MRI画像などを正しく読解するとともに、神経学的所見その他の情報も含めたうえで、これらの関係性と臨床症状について論理的に説明できなければならない。また画像所見はこのように臨床症状を鑑別・特定するために必要であるだけでなく、効果的な介入を行うため、あるいは対処上の注意点やリスク管理においても示唆を与えるものである。当該科目においては、これらの情報を正しく読解し、利用するための要点について、アクティブラーニングを活用したグループ演習を通じた深い学びを提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32長谷公隆/1回) 画像評価学総論、内部障害の画像評価の理論について講義を行う。</p> <p>(23福島八枝子/1回) 運動器疾患の画像評価の理論について講義を行う。</p> <p>(4吉村匡史/1回) 脳画像からみた脳の構造と働きについて講義を行う。</p> <p>(4吉村匡史・12山下円香/8回)(共同) ・頭部CT画像の読解方法、画像所見と臨床症状、頭部MRI画像の読解方法、画像所見と臨床症状について基礎的な内容を学習し、事例を用いた画像所見についてグループディスカッションを行う。 ・磁気共鳴機能画像法(functional magnetic resonance imaging、fMRI)と近赤外光法(NIRS)の臨床的研究への応用について講義を行う。</p> <p>(32長谷公隆・12山下円香/4回)(共同) ・三次元動作解析装置を用いた動作分析を日常生活動作を中心に実施する。</p>	オムニバス・一部共同 ※一部 講義 講義12時間 演習18時間
日常生活活動学	<p>(概要) 理学療法士・作業療法士は、対象者の生活機能に着目し、社会の中でその人らしく生活していくことを支援する。適切な支援を行うためには、日常生活活動(activities of daily living; ADL)の概念を理解し、専門的な観点に基づき評価と支援を実践するための知識を身につける必要がある。「日常生活活動学」ではADLの基本的な概念を理解した上で、運動学的分析の視点や感覚・知覚・認知の側面から分析する視点について具体的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6松島佳苗/3回) 日常生活活動(ADL)の概念(定義と歴史的背景、ADLとICFの構造、ADLとQOL)、ADLに関する代表的な評価に関して講義を行う。</p> <p>(15池添冬芽/6回) ADLの運動学的分析(基礎知識および寝返り動作、起き上がり動作、立ち上がり・移乗動作、移動動作)、車椅子の基礎知識と車椅子操作、在宅でのADL支援に関して講義を行う。</p> <p>(7中山淳/6回) ADLの生活行為の分析(食事動作、更衣動作、排泄動作、入浴・整容動作、家事動作、コミュニケーション、社会的交流)を中心に講義を行う。</p>	オムニバス

<p>日常生活活動学 演習</p>	<p>(概要) 作業療法士は、対象者の生活機能に着目し、社会の中でその人らしく生活していくことを支援する。適切な支援を行うためには、日常生活活動(activities of daily living; ADL)の概念を理解し、専門的な観点に基づき評価と支援を実践するための知識を身につける必要がある。「日常生活活動学演習」では、実践的な実技を通してADLに対する分析の視点を学ぶとともに介助方法や自立支援の方略を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5三木恵美/1回) オリエンテーション、日常生活活動(ADL)における評価、介助を行う上で留意点についての概要説明</p> <p>(5三木恵美・8宮原智子・9蓬萊谷講師・11砂川耕作/8回)(共同) ・基本動作における介助の実践(寝返り・起き上がり・端坐位保持・介護用リストの使用・ポジショニング)、応用動作における介助の実践(調理・洗濯・自助具の使用)を小グループにて実施する。 ・実技試験ならびに個別のフィードバックを行う</p> <p>(11砂川耕作・9蓬萊谷講師・8宮原智子/6回)(共同) ・基本動作における介助の実践(車いすのシーティング・立ち上がり・移乗動作)、身辺動作(食事・更衣・排泄・入浴)における介助の実践、段差昇降・床上動作における介助の実践を小グループにて実施する。また、自助具の作成実習も行う。</p>	<p>オムニバス・一 部共同</p>
<p>身体障害系作業 療法治療学</p>	<p>(概要) リハビリテーションに必要な科学・医学の知識を用いて、作業療法が対象とする代表的な疾患に関する知識と臨床技能を習得する。次に、その知識・臨床技能に基づいて病期に応じた作業療法評価を実施し、作業療法計画を立案できる能力を習得する。本講義では、具体的な事例についてグループディスカッション等のアクティブラーニングを提供し、学生が自ら思考することにより学習内容を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(①福井信佳・7中山淳/2回)(共同) オリエンテーション・身体障害系領域の事例に関して事例を提示し、グループディスカッションを実施する。</p> <p>(①福井信佳/3回) 脳血管障害に関する疫学と医学的管理、作業療法評価と実践に関して講義を行う。</p> <p>(7中山淳/10回) ・神経筋疾患に関する疫学と医学的管理、作業療法評価と実践に関して講義を行う。 ・神経変性疾患に関する疫学と医学的管理、作業療法評価と実践に関して講義を行う。 ・廃用症候群に関連する疫学・医学的管理と作業療法支援に関して講義を行う。</p>	<p>オムニバス・一 部共同</p>
<p>身体障害系作業 療法演習</p>	<p>(概要) 身体障害系作業療法評価学や治療学、さらには評価実習での実践を含め、これまで学習した対象者に接するための必要な知識・技能を理解し、対象者への作業療法評価からアプローチまでの流れを習得する。また、各疾患に合わせてアプローチの一部を実施することで、アプローチの適合性について理解する。「身体障害系作業療法演習」の授業では、実践的な学びの一環として、臨床動画を用いた学習や排痰訓練・喀痰の吸引についても学習する機会を設定している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(①福井信佳/2回) ・オリエンテーション、評価からアプローチの検討と再評価について講義を行う。 ・臨床での実践について、具体的アプローチとその結果に関して実際の事例について解説を行う。</p> <p>(①福井信佳・10橋本晋吾・11砂川耕作/6回)(共同) ・中枢神経疾患(運動麻痺・感覚障害・高次脳機能障害等)に対する評価からアプローチの検討 ・難病(パーキンソン病、神経・筋疾患等)に対する評価からアプローチの検討 ・廃用症候群(臥床傾向や寝たきり)に対するアプローチの実施と再評価(排痰訓練と喀痰の吸引の演習を含む) 上記内容に関して、グループワークならびにグループディスカッションを行いながら講義を進める。また事例についてのグループディスカッションを行い、全体のまとめを実施する。</p> <p>(10橋本晋吾・11砂川耕作/7回)(共同) ・中枢神経疾患(運動麻痺・感覚障害・高次脳機能障害等)に対するアプローチの実施と再評価 ・脊髄損傷に対する評価からアプローチの検討、アプローチの実施と再評価 ・難病(パーキンソン病、神経・筋疾患等)に対するアプローチの実施と再評価 ・廃用症候群(臥床傾向や寝たきり)に対するアプローチの実践 上記内容に関して、グループワークならびにグループディスカッションを行いながら講義を進める。</p>	<p>オムニバス・一 部共同</p>

精神障害作業療法治療学	<p>本科目では、精神障害領域における作業療法の治療、訓練、援助について体系的に学ぶ。精神保健の基本的内容と精神障害領域の作業療法について歴史の変遷や現状について学習し、また、評価に基づいた治療計画を立案するための具体的・実践的な方法についても講義や演習を通して身に付けていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4吉村匡史・13林良太/2回) (共同) ・オリエンテーション、精神保健福祉の変遷と現状、精神保健領域のリハビリテーションの概要について講義を行う。</p> <p>(4吉村匡史・5三木恵美・13林良太/4回) (共同) ・事例の作業療法評価のまとめ、ゴール・目標設定、治療計画の立案をグループワークとして行い、グループ発表を実施する。</p> <p>(4吉村匡史/1回) ・精神保健領域の現状と医療について講義を行う。</p> <p>(13林良太/8回) 精神障害領域の作業療法の流れと治療構造、精神障害領域の作業療法の理論、精神障害領域の臨床現場での作業療法の実践、地域リハビリテーションの概要と現状、急性期における精神障害領域の作業療法、認知機能リハビリテーションについて講義を行う。臨床での作業療法の実践や訪問リハビリテーションに関しては、ゲストスピーカーを招く。</p>	オムニバス・一部共同
精神障害作業療法演習	<p>本科目では、精神障害領域における対象疾患の臨床像をイメージし、それぞれの疾患の特徴に合わせた作業療法の評価・治療・援助について学習する。学生個人や小グループで課題に取り組むことで、作業療法を実施するための知識や思考能力を向上することを目的とした科目であり、評価から治療までの一連のプロセスを実践的に思考する能力を段階的に高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13林良太/11回) ・オリエンテーション、疾患別作業療法のレビューを行う、代表的な精神疾患(統合失調症、気分障害(抑うつ性障害と双極性感情障害)、不安障害と強迫性障害、発達障害(成人)、パーソナリティー障害、物質使用障害(依存症))について、各疾患の概要、作業療法評価や治療について調査してまとめるグループワークを実施する。 ・事例を提示し、作業療法評価と評価のまとめ、評価に基づいた治療計画に関してグループでまとめ発表を行う。 ・心理社会的療法の紹介を行い、園芸療法とマインドフルネスの臨床的応用に関してはゲストスピーカーを招く。</p> <p>(4吉村匡史・5三木恵美・13林良太/4回)(共同) 疾患別作業療法についてグループ発表を実施する。</p>	オムニバス・一部共同
発達障害作業療法治療学	<p>本講義では、発達障害領域の作業療法において主要対象となっている脳性麻痺と神経発達症を中心に学ぶ。神経発達症に関しては、環境への適応といった行動や学習の問題が中心であり、最新の基礎研究成果に基づく障害特性の理解や行動の解釈について学ぶ。さらに、神経発達症に対する作業療法について、感覚統合理論に基づく評価と支援について紹介する。脳性麻痺に関しては、脳障害に起因する姿勢運動障害について理解を深め、上肢機能や日常生活動作への影響を発達の観点から学習する。姿勢運動障害は、発達過程において認知・情緒、そして社会参加といった広範な領域に影響を及ぼすことを理解することが重要である。</p>	
発達障害作業療法演習	<p>発達障害作業療法治療学で学んだ神経発達症と脳性麻痺を中心に、臨床像に関する理解を深めると共に評価に基づく支援の考え方を身に付ける。姿勢運動分析や日常生活活動の分析を行うことで、疾患の特性に応じた評価の視点を深める。特に、遊びの評価と支援は、現在の活動や参加を支援することのみならず、ライフステージを通じた発達を支援する上でも重要となる。本講義では、学生間でのグループディスカッションや発表の機会を設定し、対象児を理解するための思考力を身に付ける。また、実践的な学びの機会として、附属病院を中心とした関連機関と連携をして、具体的な事例を通して学ぶ機会を設ける。</p>	共同
高次脳機能障害作業療法演習	<p>高次脳機能障害作業療法評価学・演習の内容を踏まえて、当該科目ではそれぞれの障害に対する介入方法を検討し、実践する能力を養う。介入方法を検討するにあたっては文献レビューを行い、科学的根拠に基づく介入戦略を構築するための論理的思考過程を学ぶ。各高次脳機能障害事例の提示は講師が実際に経験した事例の情報(動画・事例の記述的情報)を提示し、その事例情報に基づいた文献レビューとその結果から介入戦略を構築する論理的思考を行うが、この段階についてはアクティブラーニングを活用したグループディスカッションとグループごとの発表およびグループ間討議を行い、自らの論理的思考を他者に適切に表現できる能力を養う。</p>	共同

<p>高齢期・内部障害作業療法学</p>	<p>(概要) 本講義では、高齢者にみられる心身の特徴や社会生活を支える社会制度について学び、高齢期の作業療法に関して必要となる知識を習得する。循環器障害や呼吸器障害などの内部障害は高齢者のみに限られた疾患・障害ではないが、高齢者の場合には、特に日常生活や社会参加への影響を受けやすくなる。そのため、高齢期の作業療法に加えて、内部障害を対象とした作業療法についても本講義で学ぶ。また、講義の後半には、高齢者を対象としたレクリエーションについて実践的に学ぶ機会を設定している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2種村留美/10回) ・高齢期の特徴(生理的特徴・老年症候群、精神心理面)、高齢期における日常生活の変化に関する講義を最新の知見を基に行う。 ・高齢者に対する社会福祉制度(アクティブラーニング)、QOL等評価実習を含む高齢者のQOLについての講義を行う。 ・医療における高齢者の作業療法、施設における高齢者の作業療法、高齢者の地域作業療法の実践を中心に講義を行う。 ・高齢者の作業療法実践としてレクリエーションの演習を取り入れる。</p> <p>(21宮本俊朗/2回) 循環器障害に対する心臓リハビリテーション、呼吸器疾患に対する呼吸器リハビリテーションについて基本的内容について講義を行う。</p> <p>(10橋本晋吾/3回) 循環器障害・呼吸器疾患に対する作業療法に関して講義を行う。また、その他の内部障害(糖尿病、高血圧 など)に対する作業療法に関しても、具体的な事例を提示して講義を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>運動器疾患作業療法演習</p>	<p>(概要) 本科目では運動器疾患(関節リウマチ、熱傷、切断、骨・関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)で生じる生活または職業上の障害について、そのメカニズムを理解し、作業療法ではどのように評価し、その結果をどのように解釈し、そこからどのような介入戦略を立てるのかといった内容を学習する。また、作業療法技術の一つであるスプリントについて、代表的なスプリントを取り上げて作製方法と留意点、および臨床的応用方法について学ぶ。また、当該科目では、実際の事例情報を提示して、アセスメント過程における実践的な学びを提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全18回)</p> <p>(①福井信佳・9蓬萊谷耕士/1回)(共同) オリエンテーション・関節リウマチおよびその類縁疾患に対する作業療法について講義・演習を行う。</p> <p>(9蓬萊谷耕士/8回) 関節リウマチおよびその類縁疾患、熱傷、切断、拘縮手、末梢神経損傷、腱損傷に対する作業療法について講義・演習を行う。また、作業療法で重要な運動器疾患における画像診断について講義を行い、上肢の骨・関節疾患に対する作業療法について講義・演習を行う。</p> <p>(7中山淳/1回) 下肢の骨・関節疾患に対する作業療法に関して講義・演習を行う。</p> <p>(①福井信佳・9蓬萊谷耕士・7中山淳/6回)(共同) 上肢スプリントの適応疾患とスプリントの作製演習を実施する(掌側Cock-up splint、背側Cock-up splint、ダイナミックスプリント、短対立スプリント、指用スプリント、指用ダイナミックスプリント)。</p> <p>(①福井信佳・7中山淳・9蓬萊谷耕士/2回)(共同) 運動器疾患の対象者に関する事例についてグループディスカッションを行い、グループ発表を実施する。</p>	<p>オムニバス・一部共同 ※一部講義 講義16時間 講義20時間</p>
<p>義肢装具学</p>	<p>(概要) 医療を中心としたさまざまな領域で最適な義肢装具を選択できるようになるための必要な知識を教授する。義肢装具が生まれた歴史、義肢装具の基本的な考え方、などについて概説した後に、上肢と下肢に分けそれぞれの評価方法と義肢装具の選択のためのポイントについて、具体例を挙げつつ説明する。また、杖や歩行補助具の適応について、歩行バイオメカニクスを踏まえたうえで、症例を挙げて説明を行う。さらに、先端的なスポーツ用義足やロボットスーツHALも紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(15池添冬芽/3回) ・義肢総論(切断および義肢の概要と歴史、術後管理)、大腿・下腿切断と大腿・下腿義足、下肢装具の種類と適応</p> <p>(9蓬萊谷耕士/3回) ・義足総論(装具の概要・歴史、機能と目的)、上肢切断と義手、上肢装具の種類とその適応</p> <p>(ゲストスピーカー(義肢装具士)・19浅井剛/1回) ・義肢装具士による義肢装具作成への関わり、最先端の義肢と装具、スポーツ用義肢</p> <p>(19浅井剛/1回) ・歩行バイオメカニクスと杖および歩行補助具(種類と適応)、ロボットスーツHAL</p>	<p>オムニバス</p>

リハビリテーション工学	<p>(概要) リハビリテーション工学は、リハビリテーション医療および介護福祉の分野において用いられる工学的技術の理論と実践をまとめた臨床的学問である。近年の情報科学の進展にともなって、その適用範囲は急速に広がってきており、リハビリテーション分野において欠かせない学問領域となっている。そこで、本講義ではリハビリテーション工学における工学的な基礎知識および実践的な知識を身につけることを目的として、主に「カメラ・センシング技術」「歩行支援ロボット」「電動義手とコンピュータ制御義足」「人工筋肉」や「筋電図・筋音図」について、その理論と実践について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19浅井剛/2回) ・リハビリテーションにおける工学的考え方、リハビリテーション・介護における工学的技術の導入例の紹介、カメラ・センシング技術を用いた動作分析</p> <p>(ゲストスピーカー(ATR研究員)・19浅井剛/2回) ・リハビリテーションと工学との接点、リハビリテーションロボットの紹介</p> <p>(32長谷公隆/1回) ・臨床におけるリハビリテーション医工学</p> <p>(ゲストスピーカー(義肢装具士)・19浅井剛/1回) ・電動義手とコンピュータ制御義足</p> <p>(7中山淳/2回) ・人工筋肉の紹介、筋電図・筋音図を用いた評価と臨床応用</p>	オムニバス
アシスティブテクノロジー学	<p>(概要) 作業療法では対象者の環境への適応を支援するために、福祉用具に代表される様々な用具・機器を活用する。近年の科学技術の進歩に伴い、対象者の生活を支援する用具・機器の開発は日進月歩であり、使用目的・方法に加え医学的知識に基づく専門的観点が必要とされている。本講義では、本邦の文化や諸外国との生活スタイルの違いを踏まえながら、疾患別で日常生活に必要なアシスティブテクノロジーを提供できる視点を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2種村留美/1回) アシスティブテクノロジーの概要とエブリデイテクノロジーについて概説し、本邦と諸外国の違いについて講義を行う。</p> <p>(6松島佳苗/1回) 小児期の疾患に対するアシスティブテクノロジーの適応に関して、コミュニケーション、遊び、学習の支援を中心に講義を行う。</p> <p>(11砂川耕作/4回) ・アシスティブテクノロジーと作業療法士の役割について、適応方法と導入の流れ、満足度の評価、リスクマネージメントに関する講義を行う。 ・認知症に対するアシスティブテクノロジーの適応に関して講義を行う。 ・片麻痺症例・高次脳機能症例に対するアシスティブテクノロジーの適応に関して講義を行う。 ・アシスティブテクノロジーの開発・研究と臨床での応用について紹介する。</p> <p>(10橋本晋吾/2回) ・北欧におけるアシスティブテクノロジーの紹介を行う。 ・アシスティブテクノロジーの開発・研究と臨床での応用について紹介する。</p>	オムニバス
スポーツリハビリテーション学	<p>(概要) スポーツ選手が怪我に至るまでの背景や受傷機転を理解し、適切なスポーツリハビリテーションを実施するには、学習してきた解剖学や運動学などの知識を応用する必要がある。この科目では、こうした背景を再度確認しながら、代表的なスポーツ外傷・障害におけるメディカルリハビリテーションやスポーツ理学療法の手法を解説する。さらに、スポーツ活動支援、障害者スポーツや、脳認知科学および認知心理学的側面とスポーツスキルについて概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(23福島八枝子/3回) ・スポーツ外傷・障害(総論)、救急対応・応急処置、スポーツ外傷・障害とメディカルリハビリテーションについての講義を行う。</p> <p>(24田頭悟志/2回) ・スポーツ理学療法、スポーツ活動支援・障害者リハビリテーションについての講義を行う。</p> <p>(23福島八枝子・24田頭悟志/1回)(共同) ・テーピングの理論と実際</p> <p>(153酒井浩/2回) ・脳・認知科学および認知心理学的側面とスポーツスキルについての講義を行う。</p>	オムニバス・一部共同
認知症に対する作業療法	<p>認知症が生じる疾患と病態、症状の背景などについて概説し、認知症の作業療法に必要な評価を実施する。さらに、高齢者が暮らしてきた生活様式を学んだうえで、生活の中での認知症の予防方法および認知症が生じてからの作業療法と生活支援について講義する。認知症作業療法については、新しい情報を入手すべく文献調査や現状をゲストスピーカーにより講義していただく。</p>	※一部演習 講義10時間 演習 5時間

神経発達症と作業療法	<p>近年、神経発達症(自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、発達性協調運動症 等)は、小児リハビリテーションの対象として増加してきている。「神経発達症と作業療法」では、神経発達症に対する作業療法において代表的な理論・治療法の一つである感覚統合理論・療法について演習を通して学ぶ。また、作業療法士が関わることが増えてきている学校教育機関との連携や学校における作業療法の役割についても学ぶ。</p>	<p>※一部演習 講義10時間 演習 5時間</p>
理学療法特論	<p>(概要) 本科目では、理学療法学の最新トピックスについて理解を深める。内分泌代謝領域、産業保健領域、小児理学療法領域、運動学領域、高齢者理学療法領域、および災害リハビリテーションにおける最新知見について教授する。既存の知識に留まらず新しい知見を学ぶことにより、卒業後でも急速な医学・医療の進歩に対応し理学療法学を深化・発展させるための能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(18野村卓生/2回) ・内分泌代謝領域における理学療法学の進歩、産業保健領域における理学療法学の進歩</p> <p>(16佐藤春彦/2回) ・小児理学療法分野の最新トピックス:脳性麻痺児のフォローアップシステム、各種センサを使った乳児運動発達評価、運動学分野の最新トピックス:IOTによる日常生活活動評価</p> <p>(19浅井剛/2回) ・地域高齢者を対象とした転倒リスクアセスメント</p> <p>(ゲストスピーカー(災害リハビリテーション活動に携わる理学療法士)・18野村卓生/2回) ・災害時におけるリハビリテーション専門職の役割/JRATについて/災害対策における地域コミュニティ・ネットワークの重要性 ・災害と避難行動/災害における防災・減災への備/災害時の介助技術、停電時機器使用、用具紹介</p>	オムニバス
住環境学	<p>(概要) 住宅とは、人が生活の中で最も多くの時間を過ごす、地域生活における中心となる場所である。疾患や障害を持ちながらも安全・快適に地域生活を継続するためには、適切な住環境整備が必要である。「住環境学」の授業では、対象者に合った住環境整備を進めるために必要な知識を習得するとともに、作業療法士が住環境整備において果たすべき役割について学習する。授業では、日常生活活動演習室・在宅シミュレーション演習室での演習を通して学習する機会を設定する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(5三木恵美/2回) 住環境整備の進め方と留意点、住宅改修と福祉用具の活用・関連法規について講義を行う。</p> <p>(5三木恵美・8宮原智子/6回)(共同) ・住環境整備の基本として、住宅部位・各室への配慮、移動用福祉用具について講義・演習を行う。 ・疾患・障害別にみる住環境整備(高齢者・脳血管障害・認知症・高次脳機能障害・パーキンソン病・筋ジストロフィー・筋萎縮性側索硬化症・糖尿病・切断・関節リウマチ・内部障害・脊髄損傷・脳性麻痺・その他)について講義・演習を行う。 ・住環境整備に関する事例検討を行い、学習内容をさらに深める。</p>	<p>オムニバス・一部共同 ※一部演習 講義10時間 演習 5時間</p>
地域作業療法学	<p>(概要) 地域作業療法学では、“地域”を社会とのつながりを保ちながら生活する場(Community)と捉え、在宅サービスだけでなく施設サービス、インフォーマル・サービス等も含めた地域資源について幅広く学習する。さまざまな領域での地域生活支援における作業療法士の役割について学習するとともに、地域での多職種との連携・協働の必要性を理解し、その具体的方法についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5三木恵美/7回) 地域作業療法の基盤と背景と多職種連携、地域作業療法に関連する制度・施策、地域包括ケアシステムと医療・介護保険サービス、介護予防・日常生活支援総合事業と地域ケア会議での作業療法士の役割に関して講義を行う。災害と被災地支援に関しては、ゲストスピーカーを招く。</p> <p>(6松島佳苗/2回) 児童デイサービス、児童発達支援センター、巡回相談、乳幼児健康診断での作業療法の取り組みについて講義を行う。</p> <p>(13林良太/1回) 精神機能領域の地域生活移行支援について講義を行う。</p> <p>(8宮原智子/1回) 高次脳機能領域の在宅生活支援について講義を行う。</p> <p>(5三木恵美・8宮原智子/4回)(共同) 地域診断と地域づくりに関して、フィールドワークやグループディスカッションを実施する。</p>	<p>オムニバス・一部共同 ※一部演習 講義22時間 演習 8時間</p>

地
域

取 作 業 療 法 学	就学・就労支援論	<p>(概要) 保育所・幼稚園・学校で適応的に過ごし、さまざまな学習・経験を通して成長できる機会はすべての子どもにとって重要である。その様な機会を得ることに支障が生じた場合、作業療法士は個々の機能や能力、そして活動や環境を分析評価した上で支援を行っていく。教育課程を修了した後は、就労の時期をむかえることになる。就労は青年期から老年期まで長期間にわたり、経済的側面だけではなく、社会・家庭における役割、人生における意義などにもつながる。作業療法士は、職業リハビリテーションにおけるチームの一員としての役割を担っており、本講義では、就学・就労の支援に必要となる知識について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6松島佳苗/3回) ・オリエンテーション、保育所・幼稚園における就学に向けた支援と関連職種との連携について講義を行う ・学校・教育委員会での作業療法支援と関連職種との連携について概説し、読み書きを中心とした学習支援（神経発達症を中心とした学校環境における支援）について講義を行う。</p> <p>(5三木恵美/2回) ・がん患者・サバイバーに対する就労支援について講義を行い、企業の障害者雇用を支える作業療法に関して障害者雇用コンサルティング事業に従事する作業療法士をゲストスピーカーとして招く。</p> <p>(8宮原智子/1回) ・高次脳機能領域(若年性アルツハイマーを含む)における就労支援について講義を行う。</p> <p>(13林良太/2回) ・精神保健領域における就労支援に関して講義を行い、就労支援の実践に関して就労支援施設の作業療法士をゲストスピーカーに招く。</p>	オムニバス
	在宅支援論	<p>(概要) 地域支援は、対象者が住む環境で生き生きとした生活が送れることを目標とする。地域社会 (community) の中心となる在宅支援は、対象者の生活行為のみではなく周辺を含めた住環境や家族をも対象とする。「在宅支援論」では、対象者が地域生活の中で安全に健康に在宅生活を継続していけるため、作業療法士が果たす役割について学習する。また、在宅生活を送る住環境に関して、施設・企業でのフィールドワークを実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8宮原智子/5回) ・在宅支援に関して、医療から地域へ向けた支援の繋がり(在宅で利用できる様々な制度)、在宅生活に必要な住環境の整備(ハード面・ソフト面)について講義を行う。 ・家族支援における作業療法士の役割について講義を行い、在宅支援を経験した家族をゲストスピーカーに招き、家族の心理・体験の理解についての理解を深める。 ・進行性の疾患や二次障害の予防における支援に関して、地域包括支援センターの職員をゲストスピーカーに招く。</p> <p>(2種村留美・8宮原智子/3回) 住環境を支える施設・企業でのフィールドワークを行い、在宅支援における作業療法士の役割について事例検討やグループ討論を通してアクティブラーニングを実施する。</p>	オムニバス・一部共同 ※一部演習 講義10時間 演習 5時間
臨 床 実 習	臨床見学実習	作業療法の実践場面、作業療法士と他の医療専門職との協働場面を見学することにより、医療専門職である作業療法士に必要とされている知識、専門性および期待される役割を理解する。また、急性期の最先端医療から地域・在宅での生活支援の現場、高齢者から小児領域までの幅広い年齢、様々な疾患・障害に対する作業療法の実践場面を見学することにより作業療法の多様性について学ぶ。「臨床見学実習」での学びを基に、自身の見解についてまとめ発表する機会を設ける。	共同
	臨床評価実習	「作業療法評価学概論」ならびに各領域の評価学の講義・演習で学んだ内容を実践し、社会人・医療人としての基本的態度と作業療法評価に必要な技術について臨床場面での実習を通して理解し行動する。本実習では、早期体験実習として、対象児・者との関わりを通して作業療法評価の基本的知識・技術を習得することを目的としている。特に、対象児・者と適切なコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことも本実習では重視している。	共同
	臨床地域リハビリテーション実習	近年、地域リハビリテーションのニーズは増加傾向にあり、作業療法士が地域社会の中で果たす役割を理解することは非常に重要である。本実習では、作業療法士の役割を理解し、地域生活に必要な医療・保険・福祉サービスや生活環境の整備に関する知識・技術を習得する。また、地域生活の支援に携わる関連職種に関しても学び、対象者が地域生活を送る上での資源と課題について整理を行うことで、地域リハビリテーションに関する理解を深める。	共同
	総合臨床実習Ⅰ	作業療法士としての臨床的判断や適切な対応を行うために必要な素地を習得し、作業療法を実践する上での一連の過程を学習する。本実習では、適切な治療目標を設定する上で評価結果の統合・解釈を行い、治療プログラムを模倣により実践することで、評価に基づき作業療法を行う過程について理解を深める。治療目標は、妥当性・信頼性の高い評価に基づき、対象者の個性を重視したい内容でなければならない。そのため、基本的な評価や疾患・障害に対する知識を有していることが本実習を行う上で不可欠となる。	共同
	総合臨床実習Ⅱ	作業療法士としての臨床的判断や適切な対応を行うために必要な素地を習得し、作業療法の一連の過程(評価、統合と解釈、治療目標の設定、治療プログラム立案、治療プログラム実施、再評価)を学習する。本実習では、臨床実習指導者の指導の下で作業療法の実践を行い、その妥当性について考察することにより、作業療法の内容をより良くするために何が必要となるかを自ら思考する。	共同

学校法人 関西医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
関西医科大学			
医学部			
医学科	127	-	722
看護学部			
看護学科	100	-	400
計	227	-	1122
関西医科大学大学院			
医学研究科			
医科学専攻 (D)	50	-	200
看護学研究科			
看護学専攻 (M)	20	-	40
看護学専攻 (D)	5	-	15
計	75	-	255
関西医科大学附属看護専門学校			
看護学科	0	-	0
計	0	-	0

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
関西医科大学				
医学部				
医学科	127	-	762	
看護学部				
看護学科	100	-	400	
リハビリテーション学部				学部の新設
理学療法学科	60	-	240	(認可申請)
作業療法学科	40	-	160	
計	327	-	1562	
関西医科大学大学院				
医学研究科				
医科学専攻 (M)	8	-	16	研究科の専攻の設置
医科学専攻 (D)	50	-	200	(認可申請)
看護学研究科				
看護学専攻 (M)	20	-	40	
看護学専攻 (D)	5	-	15	
計	83	-	271	